



2017 年度

(平成 29 年度)

年 報

公益財団法人 近江兄弟社

ヴォーリス記念病院
訪問看護ステーション ヴォーリス
ホームヘルプステーション ヴォーリス
ヴォーリス居宅介護支援事業所
看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリス」

理事長挨拶

公益財団法人近江兄弟社 理事長

ヴォーリズ記念病院 管理者

三ッ浪 健一

2017 年度年報の発行に当たり、挨拶申し上げます。

2018年3月1日に「平成29年病院運営実態分析調査」の概要が公表されました。この調査は、一般社団法人全国公私病院連盟が一般社団法人日本病院会と協力して例年6月を対象に実施している共同調査で、今回の調査において集計対象とした病院数は918、その内訳を開設者別にみると、自治体病院469、その他公的病院216、私的病院196、国立・大学付属病院等37でした。

これによると、2017年6月1カ月分の総損益差額からみた赤字病院の数の割合は全体で69.0%、自治体病院では88.3%、その他公的病院では54.9%、私的病院では37.3%でした。一般病院の病床規模別医業収益100対収支金額割合をみると、病床数が100～199床の病院では、総費用が113.2に対して総収益が102.9とのことで、同規模の多くの病院で大変厳しい経営状況にあることがわかります。一方、一般病院における100床当たり職種別職員数をみると、医師は20.8、看護師84.4、准看護師2.8、看護業務補助者10.1、薬剤師4.5、放射線・X線技師4.5、臨床・衛生検査技師5.9、理学療法士4.6、作業療法士2.2、言語聴覚士1.0、栄養士・管理栄養士1.7、調理師1.3、診療記録管理者0.7、医事事務担当職員5.2、医師事務作業補助者3.7、一般事務担当職員8.9でした。

このような情勢の中で、2017 年度に当院がどのような活動を行い、今後どのような病院にしていこうとしたのかについてまとめておくことは、2018 年 5 月 25 日に創立 100 周年を迎えた当院の今後の発展のために大変有意義なことです。本年報をしっかりと分析していただいて、今後の発展へ向けた多くの提言がなされることを大いに期待しております。

院長挨拶

公益財団法人近江兄弟社
ヴォーリズ記念病院
院長 周防 正史

2018年5月25日に、100回目になる開設記念日を迎えました。1905年、キリスト教の伝道を目的として創立者ウィリアム・メレル・ヴォーリズが来幡。師は、伝導事業に加え様々な事業を展開されましたが、特に医療に注力されました。1918年に、当院の前身である結核療養所「近江療養院」を設立しました。当時明確な治療法もなく、「肺病」と言われただけで、社会から拒絶された結核患者さん。そのような時代、療養所に入院させ、安らげる空間と栄養管理を提供し、彼らの気持ちに沿い続けることこそ、近江療養院が掲げた理念でした。100周年の節目に、ヴォーリズ記念病院の理念である「隣人愛」の精神、その原点を見直すよい機会となりました。

さて団塊の世代が75歳以上になる2025年、日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。2025年以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。このため、厚生労働省においては、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で生活できるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進されています。

75歳以上の国民が尊厳を持って自立生活を続けていける状態とは、いくつになっても自分で歩くことができること、好きな食べ物を口から食べることができること、様々な病気を抱えていても投薬や、リハビリで生活が担保できること、進行する認知症や、せん妄などの精神疾患であっても、地域の方々の支えであえること。しかし、支えるべき壮年層の減少で、そのような社会を達成できることは並大抵なことではありません。医療・看護・介護の強化に加え、行政の強力な指導をもっても達成できるかどうかわかりません。私どものような地域に密着した病院こそが、高齢化社会の核になることが、使命と考えています。

公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院

基 本 理 念

キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を、医療を通して実践します。

基 本 方 針

1. ヴォーリズ記念病院「患者憲章」及び「個人情報保護規程」を遵守し、患者さんの権利、意思を尊重する病院となる。
2. 一般急性期、回復期、慢性期から終末期まで幅広く対応できる体制を整え、患者さんが穏やかに「生を全うする」ことを支える医療・ケアを実践する病院となる。
3. 地域住民の疾病予防・健康増進のため、医療・保健・福祉活動の拠点として開かれた病院となる。
4. 地域の医療機関、介護施設および地域包括支援センターとの連携を深め、在宅医療・介護を推進し、患者さんの立場に立った医療・介護を提供する。また、在宅サービス部門との協働により、在宅看取りを可能にする病院となる。
5. 職員が大切にされ、夢・希望と意欲を持って、生き生きと働き続けることができる病院となる。

私 たち の ち かい

1. 私たちは、患者さんのために最善をつくします。
2. 私たちは、患者さんの誰にも笑顔で接します。
3. 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重します。
4. 私たちは、患者さんが穏やかに生を全うすることを支えます。
5. 私たちは、知識・技術の向上につとめます。

目次

理事長挨拶

病院長挨拶

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

基本理念 ・ 基本方針 ・ 私たちのちかい

1. 概要	ページ
沿革	1-4
病院の概要・病院の紹介・関連施設	5
施設基準	6
病院組織図	7
事業報告	8-12
2. 2017 年度（平成 29 年）主な行事・出来事	13-16
3. 各部報告	
診 療 部	診療部 総括 17-21
	医 局 22-24
診療技術部	診療技術部 総括 25-26
	薬 局 27-28
	放射線科 29
	臨床検査科 30-32
	栄 養 科 33-34
	集団栄養指導 35

	リハビリテーション科	36-37
	メディカル フィットネスセンター ウォーリス	38-39
	ME サービス室	40-42
看護部	看護部 総括	43-44
	1 病棟	45-46
	2 病棟	47-50
	3 病棟	51-52
	緩和ケア病棟	53-54
	外来部門	55-56
	在宅療養支援課	57-58
事務部	事務部 総括	59
	医事課	60-62
	管理課	63-66
	地域医療課	67-69
在宅サービス部門	在宅サービス部門 総括	70
	訪問看護ステーション ウォーリス	71-73
	ホームヘルプステーション ウォーリス	74-75
	ウォーリス 居宅介護支援事業所	76
	看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ウォーリス」	77-78
	介護予防拠点事業活動報告	79
礼拝堂	礼拝堂 総括	80
在宅療養支援部	在宅療養支援部 総括	81
医療安全管理室	医療安全管理室 総括	82-83
医療情報管理課	医療情報管理課 総括	84-87
経営企画室	経営企画室 総括	88-94

4. 委員会報告

委員会組織図	95-96
業務連絡・業務改善委員会	97
給与・規約プロジェクト委員会	98
自衛消防隊	99
衛生委員会	100
栄養管理委員会	101
広報委員会	102
接遇委員会	103
臨床検査適正化委員会	104
医療安全管理委員会	105-106
医療安全管理 リスクマネジメント委員会	107
教育委員会	108
全人的ケア推進委員会	109-110
褥瘡対策委員会	111
ボランティア委員会	112
院内感染防止対策委員会	113
診療情報管理委員会	114
病院機能評価委員会	115
個人情報保護対策委員会	116
クリニカルパス委員会	117
図書委員会	117
ワークライフバランス委員会	118
IT情報管理委員会	119
認知症ケア推進委員会	120
病院 100 周年記念誌委員会	121

概要

沿革 *Hospital History*



1918 (大正7年)	4月	本館竣工
	5月	近江療養院開院式挙行(25)
	6月	第1号患者入院(10)
1919 (大正8年)	3月	入院患者15名となる。
1920 (大正9年)	4月から渡米していたヴォーリズ帰幡 土産として近江療養院へ、X線撮影機一式とピアノ一台を持ち帰った。	
1922 (大正11年)	10月	入院患者30名となる。
1925 (大正14年)	8月	病棟9棟、総病床数50床となる。
1928 (昭和3年)	5月	調理室及び食堂新築着工
1929 (昭和4年)	4月	米国より蒸気消毒機、クレセント自動食器洗滌機到着
	6月	ボイラー据付。調理室及び食堂竣工。工費36,000円(8)
1931 (昭和6年)	2月	本館地階を研究室に改造
1932 (昭和7年)	6月	人工気胸術開始
	8月	横隔神経捻除術開 (阪大外科小沢凱夫教授来院)
1933 (昭和8年)	2月	島津製作所製レントゲン装置桂号設置される。(17)
	8月	看護師寄宿舍落成(8)
1934 (大正8年)	9月	浴室及び散髪室完成
1935 (昭和10年)	8月	新生館竣工
1937 (昭和12年)	4月	礼拝堂献堂式(2)
1941 (昭和16年)	7月	更生館竣工式(総病床数136床)
1945 (昭和20年)	7月	全院を陸軍に提供、全患者退院(1)
1946 (昭和21年)	7月	近江療養院を「近江サナトリウム」と改称
1947 (昭和22年)	4月	再開院
		記念館竣工
1950 (昭和25年)	8月	X線断層撮影装束設置
	12月	胸部成形術第1例行われる。(京大結研究所 長石忠三教授執刀)(6)
1951 (昭和26年)	1月	肺切除術第1例行われる。(患者は現検査技師長 富永潤氏)(27)
	7月	看護婦寄宿舍増築
1955 (昭和30年)	12月	ハイドブリンク型全身麻酔器、アメリカより購入
1956 (昭和31年)	9月	平和館竣工
1961 (昭和36年)	9月	栄光館を取壊し、跡地に第二平和館着工
1962 (昭和37年)	4月	第二平和館竣工(24)
	8月	日本レクリエーション協会からPEC優良団体として表彰される。(1)
	10月	衛生委員会が組織される(従業員数 が100名を超す)。(3) 優良集団給食施設として表彰される。(31)
1963 (昭和38年)	7月	防火用貯水池完成(1)
		MP型(502)全自動ボイラー火入れ式(18)
		D K型懸垂式脱水機設置

1964（昭和39年）	7月	ゼット式浄水装置設置、工費170万円(4)
1965（昭和40年）	3月	自動現像装置設置(1)
	9月	職員厚生ハウス竣工、応募作品中より“交友クラブ”と命名(16)
	11月	新横型断層撮影装置設置(1)
1966（昭和41年）	3月	新館起工式(7)
	12月	新館にて外来診療開始(8)
1967（昭和42年）	1月	新手術場開き(京大長石忠三教授御来院、御執力)(11) 新館竣工式(21)
	4月	循環器科開設(1)
	8月	看護婦寄宿舍増築竣工(7)
1971（昭和46年）	5月	ヴォーリズ記念病院と改称
1972（昭和47年）	2月	託児所開設(4)
	6月	開心術第1例行われる。(東京慈恵医科大学新井達太教授御執刀)(20)
	11月	X線TV装置設置
1974（昭和49年）	10月	更生館及び新生館に、酸素及び吸引のパイピングが設置
1977（昭和52年）	11月	更生館ニ階と記念館とを結ぶ渡り廊下完成 非常用自家発電装置設置
1979（昭和54年）	8月	滋賀県緊急医療情報システムに参加(1)
	12月	自動交換電話機導入
1980（昭和55年）	6月	新ボイラ設置(炉筒煙管KSボイラ)(26)
1987（昭和62年）	1月	消化器科開設(20)
	3月	全身用X線CT導入
	5月	心臓超音波診断装置導入
1991（平成3年）	5月	本館外来診察開始(27)
	6月	新基幹病棟（現本館）竣工(12)
	10月	別館改修工事完成(1) 許可病床数187床（一般100床、結核87床〈実働41床〉）
1992（平成4年）	12月	整形外科開設(2)
1993（平成5年）	3月	新看護婦寄宿舍シオン寮竣工(31)
	7月	夜間診療開始(毎週木曜日)(1)
	12月	訪問看護ステーションはちまん開設(13)
1994（平成6年）	2月	ターミナル委員会設置(7)
	4月	ヴォーリズ記念病院福堂診療所開設(13)
	7月	近江八幡市在宅介護支援センターヴォーリズ開設(1) 旧看護婦寄宿舍解体撤去、跡地に職員駐車場設置 許可病床数184床（一般100床、結核84床）
1995（平成7年）	5月	温冷配膳車導入。適時適温給食を開始(16)
	6月	第一回ヴォーリズ記念病院ターミナルケア講演会開催(25)
	7月	介護車導入 第二平和館を重度障害者施設「中部通園くすのき」に土地建物無償貸与 「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」構想5ヵ年計画策定

1996（平成8年）	5月	新厨房棟竣工(10)
	11月	更生館、新生館、希望館、旧本館、旧厨房・食堂棟の解体 撤去
1997（平成9年）	3月	新託児所竣工(28)
	4月	リハビリテーション科開設(理学療法Ⅲ)(1) 訪問看護ステーションヴォーリズ開設(16)
1998（平成10年）	2月	政府管掌保険健康診断実施病院となる。
	3月	老人保健施設ヴォーリズ老健センター開設(1) 病院裏山治山（落石防護）5ヵ年事業開始
	5月	ヘリカルCT導入(10)
	6月	消化器内視鏡センター開設
	8月	ホームヘルパーステーションヴォーリズ開設(1)
1999（平成11年）	1月	在宅保健福祉総合化モデル事業実施
2000（平成12年）	4月	ヴォーリズ居宅介護支援事業所開設(1) 訪問リハビリテーション開設(1) 療養病棟60床竣工開設(介護療養型医療施設44床、長期療養型病床群16床)(10) 結核病棟閉鎖（82年間に亘る。） 許可病床数160床
	3月	平和館、第二平和館解体撤去
	7月	病院敷地を寄付し、ケアハウス信愛館建設開始(24)
	7月	10年間休んでいたチャペルの日曜礼拝再開(7)
2002（平成14年）	8月	訪問看護ステーションはちまん、ヘルパーステーションヴォーリズ、ヴォーリズ 居宅介護支援事業所が新館地下に移転。研修室を新館地下に新設(1)
	2月	患者憲章制定(1)
	3月	MRI検査開始(17)
2003（平成15年）	12月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し認定される。(15) ヴォーリズがんセミナー開始
	6月	毎週金曜日整形外科夜間診療開始(11)
2004（平成16年）	1月	すこやかフェスタ2005(30)
2005（平成17年）	1月	緩和ケア病棟起工式(17)
	3月	亜急性期入院医療管理料算定開始(10床)(1)
	10月	地域連携室開設(1) 緩和ケア病棟開院・献堂式(2) メディカル・フィットネスセンター・ヴォーリズ開設(平和堂近江八幡店内)
	9月	病院機能評価受審(5) いきいきサロン ヴォーリズ開設 障害者病床認可
2007（平成19年）	4月	介護療養病床16床を医療療養病床に変換。医療療養病床60床(1)
	5月	平成20年度栄養関係功労者知事表彰受賞 栄養科(26)
	9月	病院機能評価受審(15) 訪問看護ステーション(はちまん&ヴォーリズ)が合併し「訪問看護ステーションヴォーリズ」となる。

2009（平成21年）	1月	ウォーターハウス記念館竣工式(14)
	3月	放射線科PACS稼働(2) 福堂診療所閉所(31)
	4月	障害者病棟50床閉床(30)
	5月	療養病床42床運用開始(1)
	8月	回復期リハビリテーション病棟開設(1)
2010（平成22年）	10月	病院機能評価付加機能（緩和ケア機能）受審、認定受ける。(26)
2011（平成23年）	2月	マルチスライスX線CT装置稼働
	4月	Dlco（肺拡散能力）検査が出来る総合肺機能測定装置採用
	8月	医事コンピューターの変更、自動再来器廃止
2012（平成24年）	2月	電子カルテ稼働(1)
	4月	睡眠時無呼吸症候群（SAS）の診断に役立つ簡易PSG検査導入 一般財団法人から公益財団法人へ名称変更
2013（平成25年）	6月	新棟東館起工式(11)
	11月	第1回健康フェスティバル(10)
	12月	病院機能評価認定書受理(15) クラーク導入 メンタルヘルス、ワークライフバランス取組 システム室開設
	1月	退職金積立制度確定拠出年金制度開始
	3月	新棟東館竣工式(29)
2014（平成26年）	4月	リハビリテーションセンター新棟東館3階に新設(1)
	5月	DPCシステム導入(26)
	7月	びわこメディカルネット運用開始(1)
	10月	亜急性期病床廃止、地域包括ケア病床新設(1)
	11月	メディカル・フィットネスセンター・ヴォーリズ平和堂近江八幡店内閉鎖（ヴォーリズ老健センター内へ移設）
2015（平成27年）	10月	第2回健康フェスティバル(25) 障害児・者のリハビリテーション開始
2016（平成28年）	1月	療養病棟入院基本料1にランクアップ(1)
	10月	ホスピス10周年記念講演会(23)
	11月	看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリズ」起工式(19)
2017（平成29年）	3月	回復期リハビリテーション病棟入院料1にランクアップ(1)
	11月	ヴォーリズいのちのケア講演会(12)
	12月	電子カルテ、新システム「MIRAI's」稼働(1) 外来に再来機導入(1)
2018（平成30年）	1月	在宅療養支援部開設(1)

■ 病院の概要

所在地 : 滋賀県近江八幡市北之庄町 492
開設者 : 公益財団法人近江兄弟社
開設年月日 : 1918 年 5 月 25 日
病院長 : 周防 正史
病床数 : 168 床
診療科目 : 内科、消化器科、循環器科、脳神経外科、神経内科、糖尿病、外科、
呼吸器外科、整形外科、麻酔科、リハビリテーション科、
緩和ケア科、物忘れ外来、乳腺外来、総合診療科、肛門科、
医師数 : (常勤) 7 人 (非常勤) 26 人
一日平均外来患者数 : 85 人
一日平均入院患者数 : 154 人

■ 病院の紹介

公益財団法人近江兄弟社は、創立者 W.M. ヴォーリズ(一柳米来留/ ひとつやなぎ めれる)のキリスト教の「隣人愛」と「奉仕」、「平和」の精神を基本理念として、近江八幡市北之庄の地に「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」を運営しています。ヴォーリズ記念病院を核にして一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟(県内唯一の独立型ホスピス)、医療療養型病床、老健センター、ケアハウス信愛館、その他各種の在宅介護サービス事業が有機的に連携し、高齢者へのシームレスなケアを総合的に提供しています。

また、在宅療養支援病院として、地域医療を支えるため、医師、看護師、PT・OT・STが訪問診療を行っています。平成 30 年 1 月より、入院から退院及び退院後まで、患者が切れ目無い医療・介護を受けられることを目的とし在宅療養支援部を創設しました。地域の診療所の先生方とも連携し、地域包括ケアシステムの中心を担える病院を目指しています。

■ 関連施設

公益財団法人近江兄弟社 (ヴォーリズ記念館)
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ老健センター
社会福祉法人近江兄弟社地塩会 ケアハウス信愛館
中北部地域包括支援センター (近江八幡市委託事業)

■ 施設基準

厚生労働省告示に基づく『厚生労働大臣の定める揭示事項』は、下記の通りです。

入院基本料に関する事項

- 1、当院は、一般病棟入院基本料 10：1 を届け出ております。
- 2、当院は、療養病棟入院基本料 1（8 割以上）を届け出ております。
- 3、当院は、地域包括ケア入院医療管理料 1 を届け出ております。
- 4、当院は、緩和ケア病棟入院料を届け出ております。
- 5、当院は、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を届け出ております。

近畿厚生局長への届出に関する事項

- 1、当院では、次の施設基準に適合している旨の届出を行っています。

<基本診療料>

一般病棟入院基本料(10：1)
療養病棟入院基本料 1(8 割以上)
回復期リハビリテーション病棟入院料 1
地域包括ケア入院医療管理料 1
緩和ケア病棟入院料
診療録管理体制加算 2
医師事務作業補助体制加算 2(40：1)
急性期看護補助体制加算(25：1)
（看護補助者 5 割以上）
重症者等療養環境特別加算(2)
療養病棟療養環境加算 1
栄養サポートチーム加算
後発品医薬品使用体制加算 1
感染防止対策加算 2
病棟薬剤業務実施加算 1
データ提出加算 1
退院支援加算 1
認知症ケア加算(2)

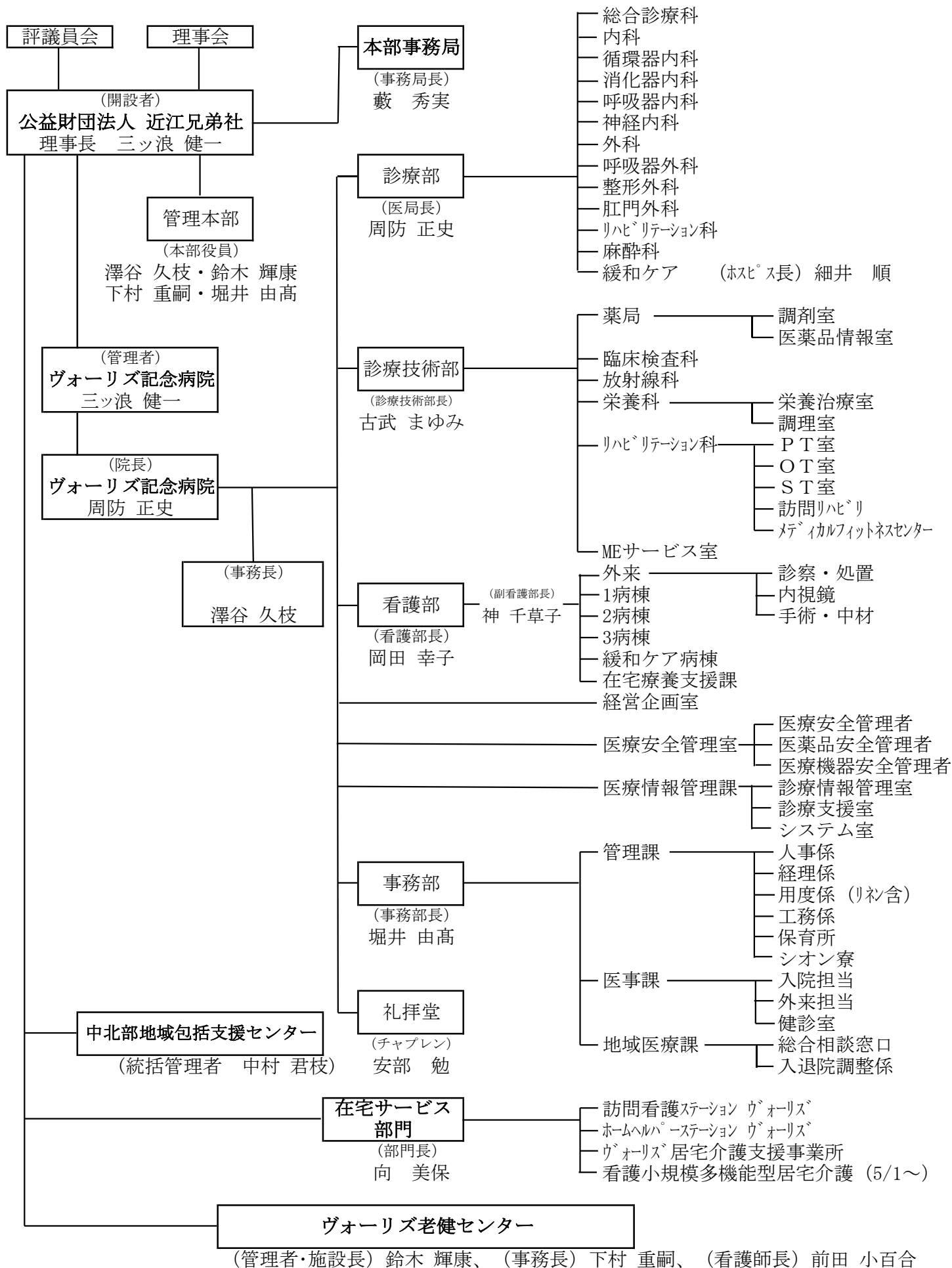
<特掲診療料>

がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料 1.2
がん治療連携指導料
薬剤管理指導料
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
医療機器安全管理料 1
在宅療養支援病院「第 14 の 2」の 1 の(1)
在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
在宅がん医療総合診療料
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問
看護・指導料の注 2
検体検査管理加算(Ⅰ)
CT 撮影及び MRI 撮影
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算届出有
運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算届出有
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算届出有
がん患者リハビリテーション料
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料(Ⅰ)

(2018. 3. 31)

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院（及び関連事業体）

平成29年度(2017年)組織図(7月1日)



公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
平成 29 年度 事業報告

概要

①今年度は、診療報酬改定のない年度であったので、前年の影響度を見ながら、収入面では、退院支援加算 1、データ提出加算 1、退院前訪問指導料、介護支援連携指導料、認知症ケア加算 2、薬剤総合評価調整加算、退院後訪問指導料と取得した加算は継続実施を行っている。

一般病棟内にある地域包括ケア病床を、8 月より 16 床(前 13 床)とし、ニーズに合った病床編成とした。

平成 28 年度赤字決算の反省を踏まえ、下記 3 点に注力しながら経営改善を図ってきた。

1 点目のホスピス稼働率については、平均 77.3%(前年 70.4%)と改善がみられている。8 月より、近江八幡市立総合医療センターに外来設置、医師・認定看護師・MSWが週 1 回出向いている。12 月に細井医師が退職後も継続。詳細は経営状況で述べる。

2 点目の外来再編においては、外来枠は年度途中で非常勤医師の変更ができず、医師の人件費については改善に至っていない。大学病院に出向き体制の理解を得ながら、新年度より 4 診枠の体制が整いスリム化が図れている。看護部の体制としては最小限の人材配置とし、病棟へのローテーションを行ない、手術等必要な時に病棟から応援に入るなど柔軟な対応で乗り切ることができた。

3 点目の人件費については、経営状況の箇所で述べる。

医師確保については、昨年 3 月に回復期リハ専任の非常勤医師の退職に伴い、人員が危ぶまれたが、6 月より脳神経外科常勤 1 名に続き、9 月より更に 1 名の常勤医師が就任。回復期リハ体制強化加算取得に必須の研修に、就任された 2 名の先生が習得し、12 月より加算を取得することができた。

②12 月には 5 年 10 ヶ月ぶりに電子カルテのリプレイスを実施した。171 百万円という大きな投資で、1 月より月間 2,000 千円のリースが開始している。(実質負担増は月間 1,200 千円)。

メリットとして、医療安全面から、バーコードによる 3 点認証等自動取り込みや、看護システム改変により同一画面で入力作業ができるなどの業務効率アップが図れた。反面、医事システムについては統計資料などに手作業がかかるなど、現在も課題解決に時間を要している。

③在宅療養支援部の創設を平成 30 年 1 月から開始した。訪問診療の拡大と入退院における連携強化、多職種(看護師・リハビリセラピスト・薬剤師・管理栄養士)による訪問を目的としている。新たな人員を補充するのではなく、現在の人材を活用しながら在宅に向けたサービス強化を期待するものである。

医師会管理の在宅患者支援センターからの運営受託も視野に入れている。

④ 経費面では、10 月より実勢価格に準じた通勤費の是正を行なった。年間 20,000 千円、今年は下半期の影響として、10,000 千円の削減が図れている。

経営状況として、

前年対比では、医業収入は、+67,042 千円 (+3.3%)、医業費用は、△3,508 千円 (△0.2%)、医業収支差は、+70,550 千円、医業外収支差は、+4,280 千円となった。結果、増収増益、経常収支差額は、+74,830 千円となり、単年度では 2 期振り 42,451 千円の黒字決算となった(退職給付引当金を計上しない前年度同様表示形式に置き換えると、19,235 千円の黒字)。

分析については下記に述べる。

①入院は、一般病棟 34 床、稼働率 77.9%、単価 31,034 円、地域包括ケア病床 16 床、稼働率 94.9%、単価 31,710 円。一般では在院日数(18 日)、単価アップ(+618 円)に寄与できたが、稼働率(前年対比△7.1%)安定に欠ける結果となった。

東館のベッド利用率の低い部屋のこと視野に入れ、8 月より地域包括ケア病床を 4 床増床し、16 床として運用した。病床ミーティングを積極的に行い、直入院も受け入れができています。

②回復期リハビリテーション病棟 42 床は、稼働率 98.7%(前年度 97.5%)と高稼働で推移し、平成 29 年 3 月より入院基本料 1 の取得、続いて 12 月より体制強化加算により、単価が 38,770 円(前年 35,738 円)とアップし、年間 41,506 千円(+7.6%)の収入増に繋がった。加算要件は全てクリアしている。

紹介は、近江八幡市立総合医療センターが 85%(前年度 86%)を占めている。

③医療療養型病棟 60 床では、平成 28 年 1 月から医療療養入院管理料 2 から 1 へのランクアップ、在宅復帰機能強化加算、医療区分 2.3 割合 94.2% (前年度 88.2%)、稼働率 98.4% (前年度 95.8%)により単価は 20,160 円 (前年 19,095 円)と増収となった。

医療度がアップした分、医療行為の増大・看取りの件数増であるため、夜間要員 4 名体制としているが、さらに業務改善、環境整備を整える必要性があり、他部署からの応援や入浴機器(シャワー浴)の検討に入っている。

④ホスピスでは、細井医師の 12 月退職後、医師 1 名、非常勤医師 1 名(週 3 日)の 1.5 人体制で 12 名目標とし、週 1 回近江八幡市立総合医療センターへの緩和ケア医外来も継続しながら診療を行っている。

稼働率は、77.2% (前年 71.6%)と体験入院への促しや、一般病棟での待機受け入れからのスムーズな転棟などで効果が出ている。単価は在院日数が 22.3 日 (前年 21.7 日)とやや伸び、49,701 円 (前年 51,382 円)と下がったが、稼働率を上げたことにより約 13,000 千円の増収となった。

⑤外来は、月平均 1,874 人 (前年対比△370 人)、一日平均患者数 76.5 人 (前年対比△15.1 人)、外来収入は 255,159 千円 (前年対比△17,241 千円)、予算対比△841 千円であった。専門外来非常勤医師の集客性が期待できない状況が続いており、新規患者の獲得が前年に比べ△156 人(年間 1,774 人)であった。人件費に対する費用対効果として、非常勤医師給与(当直医含む)は、△12,059 千円、外来看護師 10.31 人→6.78 人(常勤換算)の改善が図ることができた。根本的に、外来に通院できる患者が減少していることと、長期投薬の増加の要因が否めない。

在宅療養支援病院の役割を果たすために、訪問診療を継続している。件数は 474 件、月平均 40 件であった。地域の開業医の先生方との連携を強化し、不在時のサポート、懇談会の開催を継続できた。

⑥健診は、54,490 千円 (前年対比△540 千円)の実績となった。但し、職員健診 4,706 千円分は、福利厚生費として戻している。

⑦リハビリテーション科の実績は、回復期リハアウトカム実績指数・地域包括ケア病床の単位数はクリアできた。収入 322,792 千円、予算対比 101.6%の結果である。

昨年比 3.0%増(9,365 千円)

3 月に P T 3 名、O T 1 名退職、産休育休要員もいるので、新年度新人 3 名採用を行い、安定供給を図っている。

⑧就業環境面においては、ワークライフバランスプロジェクト 5 年目を迎え、継続的に課題を抽出し活動をしている。コンプライアンス研修会の開催、パワハラ対策委員会の活動を継続的に行っている。

⑨人件費は、全体で 1,506,553 千円（前年対比+46,655 千円・+3.2%）、収入に対する人件費率は 69.1%となり、前年対比 僅か 0.3%の改善に留まった。賞与は 前年対比△1,196 千円、退職金は、30 年超勤続の定年退職者があり、前年対比+10,383 千円となった。一方、前年度の反省から適正人員配置の改善に取り組み、常勤医の確保により、非常勤医師給与は 123,451 千円（前年対比△12,059 千円）、また時間外手当は、50,719 千円（同△3,602 千円）と改善傾向にある。次年度は、前年同月対比△9 名の人員でスタートする予定であり、引続き優先経営課題として精査・検証を継続していく。

⑩経費関係では、12 月にリプレイスした電子カルテ費用（月間コスト+1,200 千円）や保育所委託料（同+660 千円）が経費増となった一方、修繕費は前年対比△2,913 千円、消耗品・備品費も同△4,665 千円と圧縮できた。

また、年々負担が重くなりつつある電気代については、新電力会社競合要因もあり平成 29 年 2 月に 関西電力との間で 従来比△11%の契約が成立、更に平成 30 年 2 月の契約更新時△20%を勝ち取り、次年度コスト削減に寄与する見込みである。

⑪人財の充足においては、医師の常勤確保について、6 月より脳神経外科医師 1 名、9 月に同じく脳神経外科医師 1 名計 2 名の常勤医師が確保できた。

消化器内科・内分泌(糖尿病)・緩和ケア各 1 名の確保が必要である。

看護師・介護士においては、リクルート活動 4 年目を迎え、他府県にも積極的に広げ、修学生制度の利用率を上げながら人材確保に繋げている。病院見学による求人も併せて毎年平均 6 名～7 名の看護師修学生の安定供給ができています。傍ら介護士の退職者による補充が喫緊の課題である。多職種含め人員の適正化を図り、経営安定化を目指す。

○平成 30 年度に向けての取り組み

平成 29 年度の増収増益の評価を糧としながら、4 月の診療報酬・介護報酬改定で取得できるものを確実に申請実施する。当院の機能や病床(200 床以下)に追い風の加算取得のチャンスがいくつかあり、最大 30,000 千円の収入増が挑戦できる状況である。

また、中長期計画に掲げている病院新築計画も、医療機能再生助成金(31 年度申請)や平成 31 年 10 月に予定されている消費税 2%アップの時期も視野に入れながら進めて行きたいと考えている。

以上

ヴォーリス記念病院 貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
〔流動資産〕	578,831,800	〔流動負債〕	237,928,416
現金・預金	164,831,914	買掛金	65,348,673
医業未収金	328,948,254	未払金	31,496,217
未収金	36,732,780	未払費用	29,944,077
棚卸資産	8,887,598	預り金	11,805,649
前払費用	509,748	未払消費税等	191,700
役員従業員短期貸付金	40,888,000	未払法人税等	46,100
立替金	327,906	一年以内返済長期借入金	51,096,000
貸倒引当金	△ 2,294,400	賞与引当金	48,000,000
		〔固定負債〕	1,109,465,491
〔固定資産〕	1,765,736,800	長期借入金	423,028,000
＜有形固定資産＞	1,762,808,578	他会計長期借入金	341,304,167
建築物	1,178,202,904	長期未払金	141,642,723
医療用器械備品	30,378,279	退職給付引当金	203,490,601
その他の器械備品	32,457	負債の部合計	1,347,393,907
車輜及び船舶	34,745,234		
土地	2	資本の部	
リース資産	33,522,364	国庫補助金等	296,940,000
経理区分勘定	170,827,200	出資金	92,842,037
	315,100,138		
＜無形固定資産＞	2,928,222	剰余金	
電話加入権	431,732	当期未処分剰余金	649,263,542
ソフトウェア	2,496,490	(うち当期剰余金)	(130,486,394)
〔その他の資産〕	41,870,886	資本の部合計	1,039,045,579
出資金	585,000		
敷金	1,009,000		
長期前払費用	24,310		
保険積立金	40,252,576		
資産の部合計	2,386,439,486	負債・資本合計	2,386,439,486

2017 年度 主な行事・出来事

2017 年度（平成 29 年度）主な行事 出来事

4 月

- 1 日 入社式 新入職員 25 名、 前年途中入社 26 名
“医療情報管理課” 新設
- 3 日 新入職員オリエンテーション
- 4 日 自己啓発セミナー （新入職者対象、ウォーターハウス）
- 5, 6 日 看護部職員研修（新入職者対象）
- 11 日 H29 年度 各部署事業計画発表会
- 15 日 看護小規模多機能型居宅介護『友愛の家 ヴォーリズ』竣工式
- 25 日 管理職研修会
「リーダーシップと計画実施」
講師：日本医療経営機構 主任研究員 田中 将之氏

5 月

- 1 日 看護小規模多機能型居宅介護『友愛の家 ヴォーリズ』開所
- 6 日 第 3 回ツッカーハウスホームパーティー（五葉館前）
- 8 日 W.M. ヴォーリズ召天記念礼拝（恒春園）
- 12 日 「看護の日」イベント
- 13 日 第 88 回近江兄弟社 恒春園記念式（ヴォーリズ学園 平和礼拝堂）
- 16～18 日 褥瘡委員会勉強会
「褥瘡の評価と治療方針～褥瘡の管理から最先端の褥瘡医療へ～」
講師：医師 北野 晴久氏
- 20 日 病院 春季追悼会（ケアハウス信愛館）
- 22 日 “生と死を考える会 淡海 “ 総会
- 25 日 第 99 回開院記念式・永年勤続・ボランティア表彰（礼拝堂）
新入職員歓迎会（グリーンホテル Yes 近江八幡）

6 月

- 10 日 ホスピス偲ぶ会（グリーンホテル Yes 近江八幡）
- 13 日 「第 44 回 里モニター会オリエンテーション」
- 17 日 「ボランティアの集い・オリエンテーション」
- 20, 29 日 リスクマネジメント部会研修会「RCA 分析に関して」
①年間集計発表 ②グループワーク ③アンケートの作成

7 月

- 7, 11 日 リスクマネジメント部会研修会「RCA 分析に関して」
①年間集計発表 ②グループワーク ③アンケートの作成
- 19 日 里のクリーン大作戦

8月

- 10日 病院見学会
23日 「友愛の家ヴォーリス」避難訓練、夏祭り

9月

- 5日 第1回電子カルテリプレイスプロジェクトミーティング
5, 8, 11日 認知症ケア推進委員会主催研修会
「認知症の“ひとの気持ち”②」～思いを理解してかかわる～
講師：ヴォーリス老健センター 支援相談員 村上 温子氏
10日 近江八幡市主催「H29年度健康フェスティバル」(近江八幡市立運動公園体育館)
15, 22, 26日 院内感染防止対策委員会主催研修会
「医療従事者の感染症対策～わたしは何に気を付けたらいいの？」
講師：医師 奥野 貴史氏
14, 15, 21, 22日
教育委員会主催『院内ウォーク』研修会
(対象者：H28年4月2日～H29年4月1日入職者)
19日 第1回 消火・避難訓練実施
20日 (2回)・10/10日
個人情報保護対策委員会主催研修会
「医療機関における改正個人情報保護法への対応」
講師：M.D. Ph.D 産業医 弁護士 MBA 中小企業診断士 慶應義塾大学医学部
藪本 恭明氏
23日 滋賀県病院協会ソフトボール大会 (今津総合運動公園)
24日 近江兄弟社社員会 懇親バス旅行
名古屋港水族館&日本福音ルーテル復活教会・アサヒビール工場見学ツアー

10月

- 12日 第24回初期消火競技会 (近江八幡消防署)
21日 病院 秋季追悼会 (ケアハウス信愛館)
27日 管理職対象100周年記念準備研修会「アイデンティティ構築計画」
28日 第3回ヴォーリス研修会 (NPO法人ヴォーリス遺産を守る市民の会主催)
—私たちがひとつとなるために・熊本震災復興応援—
講師：小山 哲夫氏 (日本Y同盟学生YMCAコーディネータ)

11月

- 2日 医療懇談会（研修室①）
- 7, 8, 9日 職員インフルエンザワクチン接種
- 8, 10, 13, 15日 接遇委員会主催「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」合同接遇研修
「接遇の基本をみなおそう ～挨拶、表情、身だしなみ、態度～」
- 11日 ホスピスこもれびの会（グリーンホテル Yes 近江八幡）
- 12日 ヴォーリズいのちのケア講演会（ヴォーリズ学園平和礼拝堂）
- 14日 管理職研修会
「医療介護組織のマネジメントと事業計画・実施・評価」
講師：日本医療経営機構 主任研究員 田中将之氏
- 21日 第45回里モニター会
- 23日 H29年度職員会バスツアーin ナガシマスパーランド
- 27日 愛の献血（老健センター 1F 研修室）
- 30日 H29年度保健所による医療機関立入り検査

12月

- 1日 電子カルテ、新システム「MIRAI s」稼働
外来に再来機導入
- 9日 病院クリスマス会
- 22日 2017年 近江兄弟社クリスマス会（ヴォーリズ平和礼拝堂）
- 25日 ストレスチェック組織分析報告会
講師：SOMPO リスクアマネジメント(株) 岡本 英二氏
- 28日 仕事納め 院内巡視

平成30年1月

- 1日 “在宅療養支援部” 開設
- 4日 仕事始め
- 19日 人事制度評価者研修
- 21日 評価者訓練
- 20日 平成29年度 第1回ヴォーリズがんセミナー（ケアハウス信愛館）
「がんの治療とともに行われるリハビリテーション・サポーターケア」
講師：滋賀県立総合病院（旧称 滋賀県立成人病センター）
リハビリテーション科 科長 川上 寿一氏
- 23日 教育委員会主催 インスタントシニア体験研修会
講師：滋賀県社会福祉協議会 中原 孝志氏
- 25日 社員会ボウリング大会（エースレーン近江八幡）

2月

- 1日 近江兄弟社創立 113 年 記念の夕べ（グリーンホテル Yes 近江八幡）
- 2日 近江兄弟社 第 113 回 創立年記念式（ヴォーリス平和礼拝堂）
- 17日 平成 29 年度 第 2 回ヴォーリスがんセミナー （ケアハウス信愛館）
「生活を支える社会資源に関して ～MSWのはたらき～」
講師：ヴォーリス記念病院 地域医療課 課長 加藤 和幸氏
- 18日 “生と死を考える会 淡海” 公開講演会（研修室）
「死別の悲しみに向き合う」
講師：坂下 裕子先生
- 23日 職員会主催：職員親睦会 （串春 近江八幡駅前店）
- 26日, 3/6, 13日 院内感染防止対策・医療安全管理委員会主催研修会
「H I V性感染症を考える」
講師：医師 奥野 貴史氏
「転倒・転落事故の低減に向けた安全勉強会」パラマウントベッド(株)

3月

- 2日 近江兄弟社 社員会ボウリング大会（エースレーン近江八幡）
- 13日 里・合同 水害・消火・避難訓練
- 12日 平成 30 年度 病院・各部門事業計画発表会
- 17日 平成 29 年度 第 3 回ヴォーリスがんセミナー （ケアハウス 信愛館）
「引き継いだいのち」
講師：患者様ご家族 田辺 恵氏
平成 29 年度 里モニター会慰労会 （ケアハウス 信愛館）
- 19, 22日 里教育委員会主催研修会
e ランニングによる研修「医療従事者として働く人の医療倫理とは」
- 23日 「生と死を考える会 淡海」世話人会
- 27日 平成 30 年度 各部署事業計画発表会

各部報告

診療部

◆消化器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 0 名
非常勤医師 : 6 名

【診療体制】

外来診療日 : 水曜日・土曜日（第1・3・5週目）
入院 : 約 10 床

【診療内容】

常勤医師不在ですが、腹腔内臓器全般の診療、消化性潰瘍のヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法、炎症性腸疾患の治療、各種消化管疾患の治療、慢性肝炎のインターフェロン療法をおこなっています。

◆循環器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 1 名
非常勤医師 : 3 名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日
入院 : 約 20 床

【診療内容】

急性期から慢性期の患者さんに対応しております。心臓超音波検査・頸部動脈超音波（年間約 1000 例）やトレッドミル検査（年間約 100 例）他生理検査を行い、各種心疾患の早期診断、治療を行っております。

◆糖尿病内科

【スタッフ】

常勤医師 : 0 名

非常勤医師 : 3 名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・火曜日・水曜日・金曜日・土曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

糖尿病の治療、教育入院、外来における糖尿病教室行っております。NST とも協力して、栄養評価、指導をよりきめ細かいものに行きます。

◆呼吸器科

【スタッフ】

常勤医師 : 1 名

非常勤医師 : 4 名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日（第2・4週目）

入院 : 約 10 床

【診療内容】

市中肺炎から COPD 等の慢性肺疾患、結核や非定型抗酸菌症の診断や治療（現在結核入院は受け入れておりません）、肺癌の診断、気管支鏡検査、肺癌の治療（主に抗癌剤治療）など幅広く対応しております。アスベスト疾患の2次検診についても対応しています。

◆一般消化器外科・肛門科・麻酔科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名

非常勤医師 : 1名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・木曜日・土曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

急性期疾患（急性虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎など）から胃癌、大腸癌、胆嚢癌、膵癌などの消化器癌の診断、治療を行っています。肛門科は内痔核、裂肛、痔ろう、直腸脱、直腸粘膜脱などを幅広く対応しています。内痔核に対する四段階注射法（ジオン療法）を行っております。

◆整形外科

【スタッフ】

非常勤医師 : 9名

【診療体制】

外来診療日 : 木曜日・土曜日の午前診

入院 : 約 10 床（外科で対応）

【診療内容】

主に慢性期の患者さんに対応。診断（オープンタイプのMR I など）及びリハビリテーションに力をいれております（外科での入院になります）。

◆リハビリテーション科

【スタッフ】

脳血管リハビリ専任医師 : 1名

運動器リハビリ専任医師 : 1名

呼吸器リハビリ専任医師 : 1名

【診療体制】

入院 : 約 46 床

【診療内容】

脳梗塞・脳出血後遺症、整形疾患、呼吸器疾患、パーキンソン病・多発脳梗塞・認知症の方に、理学療法、作業療法、言語療法を行っております。

地域包括ケア病床・回復期リハビリテーション病棟で入院リハビリを行っております。

対象は脳血管疾患の急性期を過ぎた患者さん、整形外科や外科の術後などでリハビリが必要な患者さんです。地域連携パスにも参加しています。

◆神経内科 ◆脳神経外科

【スタッフ】

常勤医師 : 3名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

脳梗塞、パーキンソン病、その他各種神経疾患の診断、治療そしてリハビリテーションを行っております。

◆緩和ケア部門

【スタッフ】

常勤医師 ： 2 名

非常勤医師 ： 1 名

【診療体制】

外来診療日 ： 月曜日・水曜日・金曜日

入院 ： 16 床（ホスピス病棟）

【診療内容】

ホスピス病棟（希望館）を開設して 11 年になりました。癌終末期の患者さんに緩和ケアを行っております。今後、湖東地域における緩和ケアの中心を担うべく、心の通ったケアを行っております。在宅ケアにも力を入れております。

◆認知症外来

【スタッフ】

非常勤医師 ： 1 名（兼任）

【診療体制】

外来診療日 ： 水曜日午後

【診療内容】

アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症の治療・リハビリ・相談を行っております。

医局

【スタッフ】

常勤医師 8 名、 非常勤医師 36 名

【目標】

1. 地域医療・福祉への積極的な関わりを推進する。地域医療構想や地域連携の中で、東近江医療圏における当院の位置づけと役割(後方支援病院としての役割)分担を明確にし「病一診」「病一病」連携を更に推進する。
2. 緩和ケア（在宅・ホスピス・デイ）への取り組み。より緩和ケアが認定される様に周辺の医療機関に働きかける。
3. 回復期リハビリテーション病棟の稼働安定化を図る。
4. インフォームド・コンセントの徹底とチーム医療の確立
5. 急性期疾患の患者の確保
 - ・迅速な診断と的確な治療
 - ・ベッドコントロールの適正化・迅速化
6. 外来部門の効率化・専門外来の充実と、健診部門の充実。在宅診療課の創設
7. 電子カルテの活用（効率化、地域ネットワーク）、クランクとの連携強化

【活動報告】

平成 27 年 2 月に在宅療養支援病院を届出し、訪問診療や緊急入院受入の本格的な取り組みを開始した。地域包括ケア病床を 13 床で運用開始し、稼働率確保に貢献した。

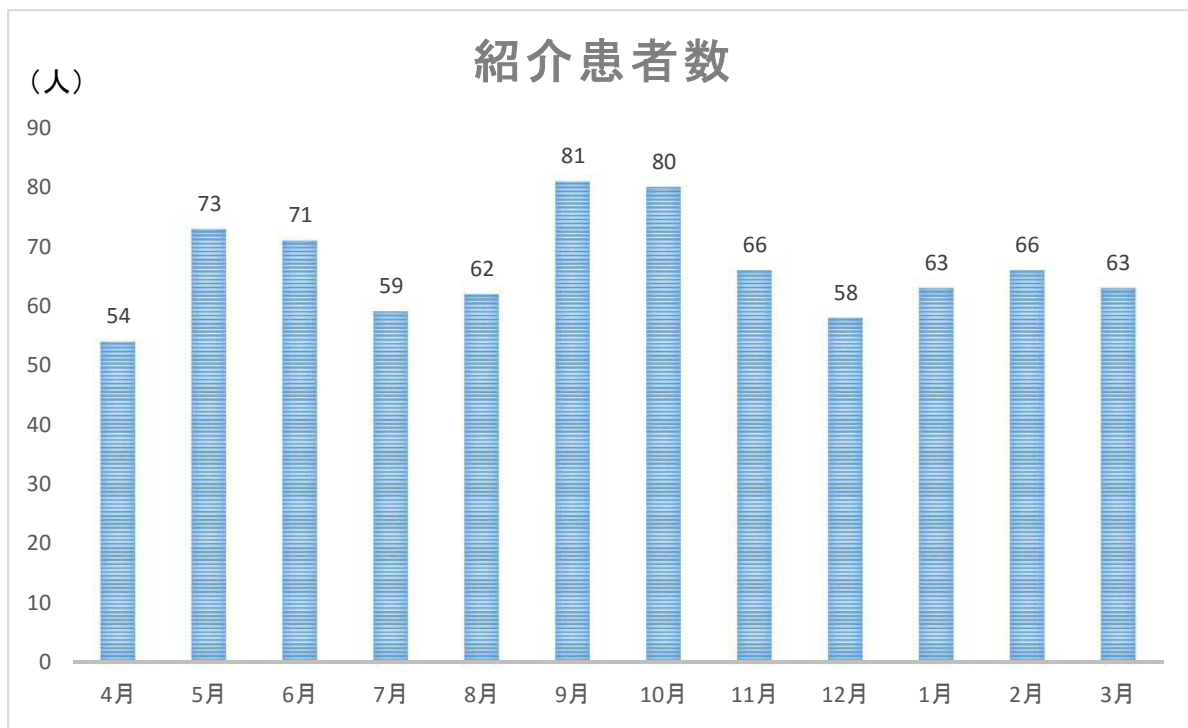
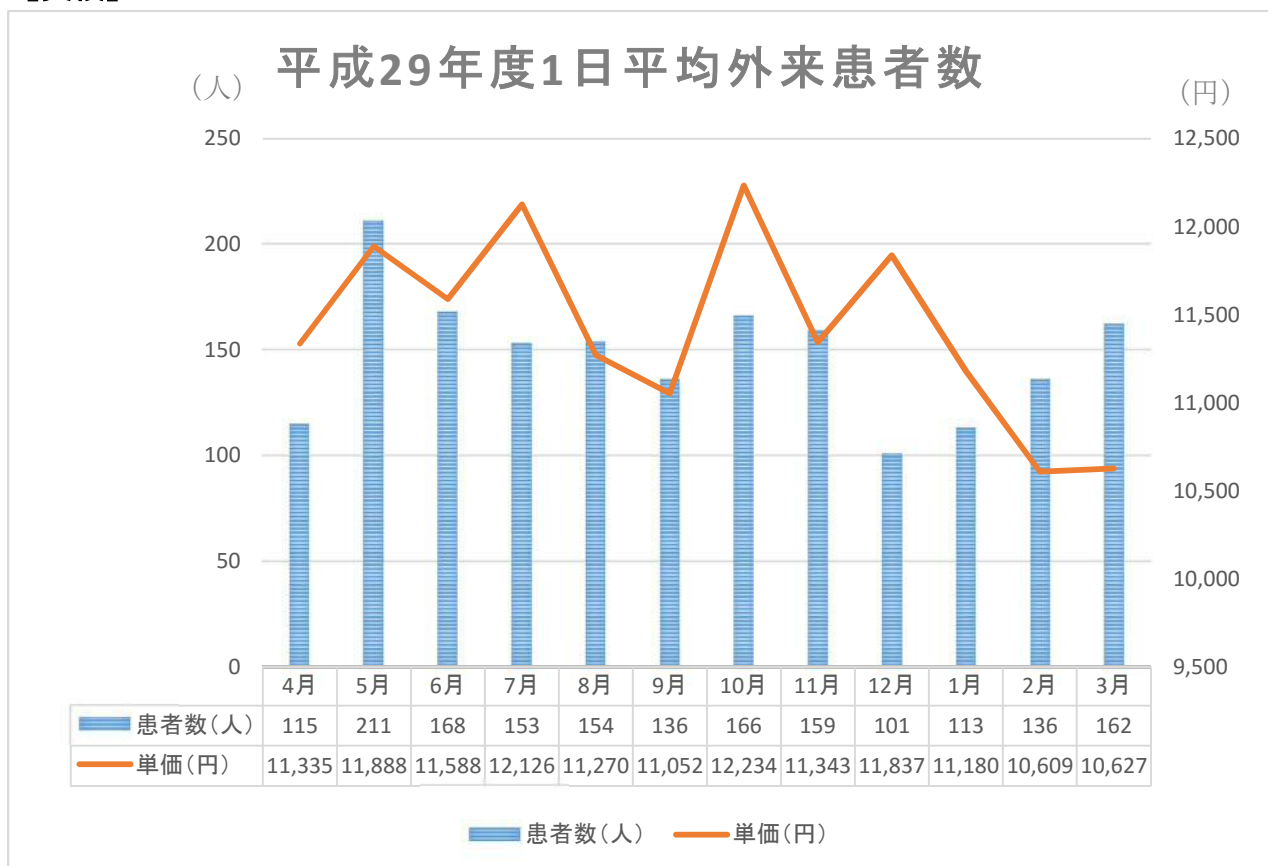
外来患者数は減少傾向で、予算上の目標達成はできなかった。

今後は在宅療養支援病院としての役割を強化し、他医療機関からの各種患者を速やかに受入、できるだけ早期に在宅復帰させて、外来や訪問診療患者数を増加させることが望まれる。

【教育】

個々の医師により研修や専門医試験に向けた研鑽を重ねる。

【実績】



＜平成 29 年度 手術件数＞

手術名	件数	手術名	件数
痔核硬化療法(四段階注射法)	6	気管切開術	3
痔核根治術	3	胸腔ドレナージ	8
陰嚢水腫穿刺	1	胸膜癒着術	4
胆嚢摘出術	1	左下顎皮膚腫瘍切除術	2
鼠径ヘルニア根治術	4	左腹壁切開排膿・ドレナージ	1
閉鎖孔ヘルニア根治術	1	子宮脱手術（固定式）	1
回盲部切除術	1	人工肛門造設術	4
直腸固定術	1	直腸脱手術（腹会陰式）	1
肛門周囲膿瘍排膿	1	直腸粘膜脱根治術	1
開放創閉鎖術	1	腹腔内膿瘍ドレナージ	1
気管支異物除去術（直達鏡による）	1	埋め込み型中心静脈カテーテル留置術	5
創傷処理（筋肉、臓器に達しない）	13	創傷処理（筋肉、臓器に達す）	2
開腹胃瘻造設術	1	PPH 法（内痔核手術）	1
裂肛根治手術	1	裂肛潰瘍根治術	2
大腸内視鏡下ポリープ切除術	3	胆管切開結石摘出術	1
脂肪腫摘出術	1	乳房穿刺吸引細胞診	1
気管支鏡検査	1		
左乳房切除術	1	合 計	80

＜平成 29 年度 検査件数＞

	GFS	BS	CF	USTG	マンマ	甲状腺		GFS	BS	CF	USTG	マンマ	甲状腺
4 月	49	3	9	56	4	2	10 月	83	4	15	110	20	2
5 月	68	0	11	101	9	3	11 月	69	0	8	75	15	4
6 月	108	2	6	124	10	2	12 月	69	4	11	66	13	3
7 月	130	2	20	116	22	3	1 月	61	1	5	35	3	0
8 月	104	1	12	131	20	3	2 月	92	0	9	61	11	1
9 月	72	3	11	114	23	3	3 月	77	2	7	51	7	3
合計								982	22	124	1040	157	29

【今後の課題】

1. 医師事務クランクと協力し、外来事務補助をより効率的に行うことを目的とする。
2. 地域ネットワークへ参加し、びわ湖あさがおネットを更に活用する。
3. 訪問診療を効率的に運用する。
4. 常勤医の安定獲得に向け、活動を行う。

診療技術部

【H29 年度活動計画及び実績】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて、医療・介護の提供を実践する。

1. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を確認し、当院の強みを強化する。
地域包括ケアシステムのなかで、他院から紹介等の患者が早期に地域に復帰できるように診療技術部各科が協力し、院内の他部門、里内事業体、地域の医療機関および事業所、施設、地域包括支援センターと連携して支援する。
2. 医療サービスの質の向上に努める。
 - 1) 院内他職種カンファレンスに参加して地域包括ケアシステムの中で各職種の役割を考え、実行する。
 - 2) 地域ニーズに合わせ、他職種によるチームで診療をサポートする。
NST、ICT、褥瘡、緩和ケアチーム、糖尿病教室、院内感染合同カンファレンス参加など
 - 3) 地域 ICT（あさがおネット、びわこメディカルネット）の運用、三方よし等の地域会議に参加し、地域 ICT の利用により近隣の医療機関と患者情報を共有して連携し、地域医療に貢献する。
 - 4) 病院機能評価に必要なデータ集積、マニュアル改訂を継続し、H30 年度の更新に備える。
3. 各科各人が目標数字を定め、到達できるよう毎月努力する。
 - 1) 目標数字を達成する。
昨年より収益増（件数増）を目指す。収益増（件数増）に結びつくように他部署に働きかける。
H30 年の医療・介護同時改訂に向け影響を検討し、各科の戦略を練る。
回復期リハビリテーション病棟入院料 I を取得後の運用を軌道にのせる。
 - 2) 経費を削減する。
消費税アップの影響が少なくするように取り組む。
業務改善に取り組み残業を減らす。有休消化率を上げる。
 - 3) 人材を確保・育成し、各職員が人事評価制度における自己目標の達成をめざし、レベルアップを図る。
診療技術部で発表の機会をもつ。
 - 4) 職員のコンピテンシー、規律遵守を促す。（報告・連絡・サービス及び時間厳守・整理整頓）
4. コンプライアンスを徹底し、公正な企業風土の確立を目指す。
診療報酬上の施設基準を理解し、継続する。

5. 医療機器・医薬品の安全使用管理・情報提供を徹底し、医療事故を防止する。
 - 1) 医薬品・医療機器の講習会、点検を行い、関係部署に発信していく。
 - 2) 個人情報の漏洩防止に考慮し、医療安全への意識を高めインシデント・事故防止に努める。
6. 停電・天災等の災害時、新型インフルエンザ発生等に対する各科のマニュアルを整備し、危機管理体制を構築する。
7. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。

介護予防教室、病院・財団からの出前講座など地域に対する事業に各職種の職能を生かして関わる。

ヴォーリズすこやかフェスタ、がんセミナーに職能を活かし積極的に関わる。

病院の広報誌、ホームページで各職種の働きを地域にアピールする。
8. 近江兄弟社グループ他事業体職員と共に、創立者ヴォーリズへの認識を高める。

開院 100 周年（H30 年 5 月 25 日）記念事業に協力する。

【H30 年度の課題】

継続して診療技術部以外の部門、部署と連携を取り、各科の職能を発揮して協力して業務にあたり、患者の治療・診療、入退院支援に貢献する。各科の技能、知識を更に向上させて医療の質の向上を目指す。

H30 年 4 月の介護・医療・福祉のトリプル改定に各科対応していく。

H30 年 10 月受審する病院機能評価受審の準備を行う。

薬局

【スタッフ】

常勤薬剤師 5 名、非常勤薬剤師 2 名

【目標】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて医療の提供を実践する。

1. 医療サービスの向上に努める。
2. 2018 年度診療報酬改定で予測される情報を収集し、対応する。
3. 病棟薬剤業務加算取得を継続する。
4. 薬剤管理指導業務および退院指導率の目標数字を達成する。
5. 各職員が人事評価制度における自己目標達成をめざしレベルアップを図る。
6. 機能評価審査受審に必要なデータの蓄積、マニュアル改訂を継続する。
7. DI ニュースによる医薬品情報の伝達
8. 天災・災害時、新型インフルエンザ発生等における医薬品供給のマニュアルの整備

【活動報告】

1. 病棟薬剤業務加算を取得継続した。
薬剤師が病棟業務において医師の処方設計に関わり、その成果をプレアボイド報告として実績を積む事ができた。医薬品使用患者の安全、副作用防止に寄与できた。
地域包括ケア病床数が増えたことにより薬剤管理指導算定件数、退院指導算定件数は減っているが、2016 年 4 月診療報酬改定により、後発品使用体制加算 1、薬剤総合評価調整加算、同管理料、連携管理加算が算定可能となり、これらの算定に努力した。算定不可の患者であっても薬剤管理指導業務は行った。
2. すべての抗がん剤調製を、閉鎖式器具を使用して薬剤師がおこなった。
3. 2 つの病棟で定時一般輸液調製を薬剤師が実施している。
4. 積極的に医師の処方支援、プロトコルに基づく共同薬物治療（PBPM）に基づく業務の見直しを行った。

【実績】

2017 年度	入院人数 (人)	服薬指導 人数 (人)	服薬 指導率	380 点 (件)	325 点 (件)	退院 90 点 (件)	退院 指導率
4 月	126	95	75.4%	101	45	28	93.3%
5 月	127	73	57.4%	78	44	22	100.0%
6 月	144	101	70.1%	101	52	24	80.0%
7 月	133	85	63.9%	90	45	26	74.2%
8 月	132	68	51.5%	56	48	11	55.0%
9 月	133	82	61.6%	73	47	14	55.0%
10 月	131	75	57.3%	78	41	13	54.2%
11 月	122	53	43.4%	52	23	15	71.4%
12 月	135	46	34.1%	31	24	22	35.7%
1 月	136	64	47.1%	63	31	20	52.6%
2 月	127	72	56.7%	63	45	24	72.7%
3 月	136	75	55.2%	75	34	26	68.4%

【教育】

日本老年医学会参加
医薬品安全管理責任者研修会参加
日本病院薬剤師会療養病床委員会セミナー参加
日本病院薬剤師会中小病院薬剤師実践セミナー参加
滋賀県病院薬剤師会学術大会参加
日本老年薬学会参加
日本病院薬剤師会近畿学術大会 参加・発表
日本静脈経腸栄養学会学術集会参加

その他、病院薬剤師会、薬剤師会主催研修会に多数参加

実務実習指導認定薬剤師 3 名、NST 専門療法士 1 名

【今後の課題】

- ・病棟薬剤業務の充実を図り、医療チームの中で薬剤師職能を生かす。
- ・PBPM を医師と作成し、契約に基づいて薬物治療の実施と管理を拡大する。
- ・後発品使用体制加算 1 の取得継続、EBM に基づくポリファーマシーに取り組む。
- ・「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」（日本老年医学会）に基づき、高齢者の薬物治療を適正かつ安全に実施するよう取り組む。

放射線科

放射線科

【スタッフ】 常勤診療放射線技師 4名

- 【目標】
1. 医療サービスの質向上に努め地域からの信頼を得る。
 2. 機器の安全管理・被ばく管理の情報提供を行い事故防止に努める。
 3. 健全な経営を徹底する。
 4. 科内スタッフのモチベーションの向上に努める。

【活動報告】

日本診療放射線技師会主催の「統一講習会」に当科全技師が参加し、H25年6月に診療放射線技師等の業務拡大について法改正がされた、造影注入器を用いた造影剤の投与等の業務が実施可能となった。

【実績】＜CT撮影件数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H28	226	239	247	238	246	229	261	225	238	242	246	273	2902
H29	296	254	280	274	264	280	285	221	180	204	202	220	2960

＜MRI撮影件数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H28	72	88	90	101	95	92	100	81	78	95	88	68	1040
H29	86	103	110	69	90	81	110	61	69	67	70	84	1000

＜一般撮影件数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H28	497	668	717	653	606	579	702	575	554	519	587	543	7200
H29	459	596	662	625	542	503	574	530	402	513	499	540	6445

総件数昨年比：CT（2%増） MRI（4%減） 一般撮影（10%減）

【教育】・医療関係者が知っておくべき個人情報保護法について

- ・第22回関西GECT研究会
- ・業務拡大に伴う統一講習会
- ・肺がんCT検診認定技師第13回更新講習会
- ・第46回日本消化器がん検診学会 近畿地方会
- ・医用画像情報の管理
- ・運用における実務者向けセミナー
- ・第47回CT画像研究会
- ・第1～3回滋賀県放射線技師会学術研修会

【今後の課題】

- ・CR装置が10年を超えたため、CRもしくはFPD更新を検討
- ・MRIが導入後15年を超えたため、更新の検討が必要である。
- ・PACSリプレースの予定である。

臨床検査科

臨床検査科

【スタッフ】

生理検査部門	常勤臨床検査技師	2名	科長 鯉江 賢二
	非常勤臨床検査技師	1名	
検体検査部門（ブランチラボ）	常勤臨床検査技師	1名	
	非常勤臨床検査技師	2名	

【目標】

検査病態を意識し検査業務に取り組む事をモットーとし、患者に不可欠な臨床検査を目指します。

【活動報告】

当臨床検査科は生理検査部門と検体検査部門に分かれています。生理検査部門は心電図等の循環器検査並びに呼吸機能測定等の生理検査を実施しています。呼吸機能検査では肺活量やフローボリュームの測定だけでなく、DLco（肺拡散能力）検査ができる総合肺機能測定装置フクダ電子(株)を使用して、間質性肺炎とよばれる、びまん性肺疾患の早期発見、肺気腫など肺の病態診断に役立つ検査を致しております。また、睡眠時無呼吸症候群の診断に役立つ携帯型SAS検査を導入致しました。検体検査部門は2005年12月1日よりブランチラボ（検査センターメディック）になりました。院内にて緊急項目の血液並びに尿検査を実施しています。

【実績】

生理検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会員
- ③ 日本不整脈心電学会員
- ④ 日本超音波検査学会
- ⑤ 日本睡眠学会員
- ⑥ 日本PSG研究会員
- ⑦ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ⑧ 滋賀県安全法指導員協議会員
- ⑨ 国立大学法人滋賀医科大学精神医学講座 非常勤

検体検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会会員

検体検査加算件数

平成 28 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査加算 件数	643	665	651	618	678	643	620	639	670	648	640	620	630
平成 29 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査加算 件数	612	619	640	609	644	644	569	655	572	583	611	587	607

評 価

2003. 12. 15 に日本病院機能評価 V4 認定

2008. 12. 15 に日本病院機能評価 V5 認定

2013. 12. 6 に日本病院評価一般病院 1 認定

社会保険事務局施設基準：検体検査管理加算（Ⅰ）H15. 12. 1 受理

社会保険事務局施設基準（施設基準改正による）：検体検査管理加算（Ⅰ）H20. 5. 1 受理

検体検査部門を平成 17 年 12 月 1 日からブランチラボとなりました。

【教育】

研修・勉強会

院内勉強会・市民健康関連

- ① 近江八幡市健康フェスタ 2017 血圧脈波検査
- ② インフルエンザウイルス検査の為の実技実習

研修会・セミナー参加

- 神戸大学医学部附属病院検査部主催 神戸大学超音波検査技術セミナー 春
- 日本不整脈心電学会・フクダ電子共催 心電図講習会
- 簡易 SAS 診断研究会・フクダライフテック共催 第 5 回簡易 S A S 診断研究会
- フクダ電子主催 心電図講習会初級・基礎 A・基礎 B
- 都臨技主催 基礎から学ぶ生理機能検査「心電図・呼吸機能実技講習」
- 奈臨技主催 超音波定期勉強会「大動脈弁狭窄症の治療と評価 2」（自費研修）
- 日赤主催 赤十字救急法等指導員伝達研修 （自費研修）
- 日臨技関甲・首都圏支部主催 生理研修会『心電図を知る！さらなるステップアップに向けて』

- 滋臨技主催 超音波検査実技講習会 下肢静脈・頸動脈・甲状腺
- 日本睡眠学会主催 第14回睡眠医療・技術セミナー
- 日臨技主催 第1回超音波研修会
- 日臨技主催 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会
- 和臨技主催 第1回生理検査研修会 (自費研修)
- 奈臨技主催 認定心電検査技師試験対策及び資格更新研修会
- 滋賀臨床動脈硬化研究会主催 第24回滋賀臨床動脈硬化研究会 (自費研修)
- 都臨技主催 呼吸生理研修会 呼吸実技セミナー
- 神戸大学医学部附属病院検査部主催 神戸大学超音波検査技術セミナー 秋
- クリニカルサポート(株)ステップアップ心エコーセミナー
- 京臨技主催 超音波検査実技講習会 下肢静脈
- 日臨技主催 第5回近畿支部生理研修会心エコーコース
- 日臨技主催 第5回近畿支部生理研修会肺機能コース
- 京滋臨技共催 血管検査研修会 (自費研修)
- フクダライフテック中部(株)主催 【愛知県】第2回 NYUMON-Sleep Study-
- 滋臨技主催 第6回生理研修会「心エコーによる右心系の色々〜」(自費研修)
- 滋臨工主催 ME スモールセミナー 超音波を学ぶ (自費研修)
- 和臨技主催第2回生理検査班研修会 表在エコー (自費研修)

【今後の課題】

臨床検査技師の超音波検査のスキルアップを目指す。

栄 養 科

栄養科

【スタッフ】

常勤管理栄養士（3名） 常勤調理師（12名） 非常勤調理員、調理補助その他（4名）

【目標】

- 1) クリニカルサービス（栄養管理）とフードサービス（給食管理）の両面から「体と心に対し、調和のとれた食事」の提供を目指す。
- 2) N S Tの充実を図るとともに、各種地域連携パスに参画し、地域に向けた総合的な栄養ケアに取り組む。
- 3) ムダを省き、増収に繋がる業務を遂行する。
- 4) スタッフの自己啓発を支援し、心身の健康管理に留意

【活動報告】

- 1) 「友愛の家」の利用者様の食事提供
- 2) N S T活動、嚥下訓練食・経口移行への複雑な個別対応、注入食の提案、栄養補助食品の用途別提案などで食事摂取量の増加、栄養状態の改善に努めた。
- 3) 異物混入などのインシデント防止対策強化
- 4) 糖尿病教室の定期開催および出前講座の担当

【実績】

収益（療養費）

療養費収益及び特食比率					
月	特別食	比率（％）	一般食	比率（％）	合計
4	2,380,676	35.0	3,620,386	65.0	6,001,062
5	2,419,806	35.8	3,537,640	64.2	5,957,446
6	2,448,060	37.6	3,366,234	62.4	5,814,294
7	2,079,704	31.0	3,867,488	69.0	5,947,192
8	1,454,498	31.2	4,636,726	68.8	6,091,224
9	1,237,536	20.4	4,237,278	79.6	5,474,814
10	1,209,478	19.0	4,502,130	81.0	5,711,608
11	999,422	15.8	4,546,952	84.2	5,546,374
12	1,058,666	16.4	4,694,720	83.6	5,753,386
1	1,245,242	19.8	4,339,376	80.2	5,584,618
2	1,206,468	19.8	4,226,124	80.2	5,432,592
3	1,355,658	19.7	5,015,022	80.3	6,370,680
合計	19,095,214	25.1	50,590,076	74.9	69,685,290

収益（指導料）

診療報酬	外来 1回目 2,600 2回目 2,000	入院 1回目 2,600 2回目 2,000	集団 (800)	N S T (2,000)	合計
4月	6,600	5,200	12,000	16,000	39,800
5月	8,600	7,800	11,200	12,000	39,600
6月	9,800	2,600	10,400	14,000	36,800
7月	10,400	7,800	7,200	14,000	39,400
8月	9,800	2,600	0	22,000	34,400
9月	16,400	5,200	10,400	12,000	44,000
10月	6,600	2,600	8,800	8,000	26,000
11月	9,800	2,000	8,800	18,000	37,800
12月	5,200	2,600	7,200	0	15,000
1月	5,200	5,200	0	12,000	22,400
2月	5,200	5,200	0	14,000	24,400
3月	0	0	0	18,000	18,000
合計	93,600	48,800	75,200	160,000	377,600

【教育】

（研修・研究）

- 滋賀県栄養士会主催研修会：管理栄養士
- 日本栄養士会主催研修会(TNT-D研修会)：管理栄養士
- 滋賀CDE：管理栄養士
- 日本静脈経腸栄養学会：管理栄養士

【今後の課題】

- 1) N S T加算の増加
- 2) 特食率上昇の取り組み
- 3) 栄養指導件数の増加
- 4) 異物混入などのインシデントの減少
- 5) 延食の対応
- 6) 人材不足に対応できる合理的な作業への取り組み

集 団 栄 養 指 導

2017年度 集団栄養指導

糖尿病教室



*時間：第4木曜日 午後12時～午後1時半

*場所：研修室（療養棟下）

*内容：治療食の試食と各スタッフによる勉強会

1月26日（木）	看護師
2月23日（木）	医師（氏家歯科医師）
3月23日（木）	管理栄養士
4月27日（木）	理学療法士
5月25日（木）	看護師
6月22日（木）	管理栄養士
7月27日（木）	薬剤師
8月7日（月）	医師（岡本医師）
9月28日（木）	看護師
10月26日（木）	理学療法士
11月16日（木）	薬剤師
12月18日（月）	医師（岡本医師）



*8月、12月は月曜日に行いました。

リハビリテーション科

【スタッフ】

理学療法士 28 名、作業療法士 14 名、言語聴覚士 5 名の計 47 名
(内 非常勤理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、言語聴覚士 1 名含む)

【目標】

＜部署のビジョン＞

ヴォーリズ記念病院は、東近江圏域、特に近江八幡市を中心とした地域の医療・介護・福祉のハブ病院として機能し、リハビリテーション科はこの機能のひとつとして地域に貢献する。

＜活動計画＞

1. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を見直し、当院の強みを強化する。
 - 1) 回復期リハビリテーション病棟の充実したリハビリテーション（6 単位以上／日、365 日実施、休日単位数増加）の継続実施
 - 2) 地域包括ケア病床におけるリハビリテーション（2 単位以上／日）を充実させる。
 - 3) 急性期～維持期のどのステージにおいても医療から介護へシフトする機関であることを再認識し、入退院支援・在宅復帰支援強化に努める。
 - 4) 障がい児・者のリハビリテーションを発展させる。
 - 5) 訪問リハビリテーション人員を増加することを検討し、生活期リハビリテーションを充実させる。
 - 6) 老健センターと協同し、時代にあった里のリハビリテーションを再考する。
2. 医療サービスの質の向上に努める。
 - 1) FIM を用いてリハビリテーションの予後予測を実施する。
 - 2) 退院前訪問指導をより早期に実施する。
 - 3) 院内・外での研修会参加、講義・講演活動を行い、スキルアップに努める。
3. 各部門 各人が目標数字を定め、到達できるように日々努力する。
 - 1) 目標数字を達成する（31,756 万円）。
 - 2) 各部門リーダーは定期的に業績推移を確認し、効率的な業務運営をはかる。
 - 3) 経費を削減、時間外勤務軽減（20%減）する。
4. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。
 - 1) 近江八幡市の業務委託（総合事業、各種施策会議）等、積極的に取り組む。
 - 2) 各種セミナーや出前講座等での講演活動を行う。

【活動報告】

- 回復期リハビリテーション病棟平均単位数は、6.62 単位（昨年度 6.61）、休日単位数 5.19 単位（昨年度 5.31）と平均単位数の微増、休日単位数は微減という結果であった（表 1 参照）。
- 地域包括ケア病床平均単位数は、2.64 単位（昨年度 3.1）であった（表 2 参照）。
- 回復期リハビリテーション病棟のアウトカム評価（サービスの質）も基準値 27.0 点を大きく上回った（平均実績指数 35.11 点）。
- 年間収益は 322,792,360 円（予算比 101.6%、前年比 103.0%）であった。

【実績】

表 1—回復期リハビリテーション病棟実績（2017. 04. 01～2018. 03. 31）

	回復期リハ病棟 (休日外)	回復期リハ病棟 (休日)	合計
① 回復期リハビリテーション病棟に入院していた患者の延入院日数	12257	2979	15236
② 上記患者に提供された疾患別リハビリテーションの総単位数	85418	15483	100901
イ：心大疾患リハビリテーション総単位数	0	0	0
ロ：脳血管疾患等リハビリテーション総単位数	47316	9007	56323
ハ：運動器リハビリテーション総単位数	37689	6412	44101
ニ：呼吸器リハビリテーション総単位数	0	0	0
1 日当りリハビリテーション提供数 (②/①)	6.96	5.19	6.62
算出期間における休日・休日以外の日数	293	72	365

表 2—地域包括ケア病床 リハビリテーション平均単位数（2017. 04. 01～2018. 03. 31）

リハビリテーション提供総単位数		リハビリテーション 1 日平均単位数	
心大血管疾患リハビリテーション	0	心大血管疾患リハビリテーション	0
脳血管疾患等リハビリテーション	1,604	脳血管疾患等リハビリテーション	2.46
廃用症候群リハビリテーション	2,753	廃用症候群リハビリテーション	2.63
運動器リハビリテーション	5,894	運動器リハビリテーション	2.63
呼吸器リハビリテーション	550	呼吸器リハビリテーション	2.47
がん患者リハビリテーション	218	がん患者リハビリテーション	1.86
(除外) 処方と関連のない実施	0		
合計	10,916	合計	2.64

【今後の課題】

- 作業療法士・言語聴覚士の充足
- アウトカム実績指数の改善

メディカル・フィットネスセンター ヴォーリス

【スタッフ】

常勤スタッフ 社会福祉主事・トレーナー 1 名 介護福祉士 1 名

非常勤スタッフ 健康運動指導士 1 名 理学療法士 2 名

【目標】

1. 介護予防デイサービス （要支援認定を受けておられる方に対するサービス）
開催日 月、木曜日の午前中（9:30～11:30）
みなし指定事業所としての業務の継続
H30 年 3 月末でみなし指定期間が終了するため、H30 年 4 月以降の事業展開を考える 1 年とする。
2. 近江八幡市からの委託事業短期集中サービス C
ばわーあっぷ（火・金曜日午前中 9:30～11:30 に開催）を今年度も継続開催する。
事業運営を円滑に進められるように関係各所との連携を取る。
利用者が地域活動へ積極的参加を出来るようになる事業を目指す。
3. 一般会員 （自立生活を送られている方に対するサービス）
利用者の方へ健康に対する定期的な集団指導やイベントを企画して、利用者の健康への意識を高め退会数を減少させる。
4. 利用する全ての方へニーズや症例に応じたキメ細かいサービスを行えるように気をくばり、利用者の QOL と顧客満足度の両方の向上を目指す。
5. 「里」内や他の関連事業所との連携を強く取り、利用者数の増加を目指す。
6. スタッフが専門分野のさらなる知識や技術の習得に力を入れ、それを他のスタッフへの研修で伝える事により、実力の向上を目指す。その知識や技術を利用者へ提供する。
7. 市内の各地域からの講師依頼を積極的に引き受ける。運動と健康が緊密に繋がっている事を伝えていく。

【活動報告】

1. デイサービス 月・木 9:30 から 11:30 の運営 （8 月末で廃止届を提出）
2. フィットネス会員 上記以外の時間（日・祝日を除く）
デイサービス、フィットネス会員共に有酸素運動機器や筋肉トレーニング機器などを使用して、基礎体力向上、身体能力向上、リハビリを目的とした運営を行いました。

3. 近江八幡市介護予防 日常生活支援総合事業（パワーあっぷ）

5月より近江八幡市より委託を受けて事業開始しました。

市役所や地域包括支援センターと連携をしながら、対象となる高齢者を3か月間の短期集中プログラムで実施。ADL向上や地域活動への参加機会を多く得られるように活動しました。

【実績】

	デイサービス		フィットネス		パワーあっぷ	
	利用者数	収入金額	会員数	収入金額	利用者数	収入金額
4月	11	251,530	54	200,564	5	353,180
5月	11	207,400	57	224,160	3	331,060
6月	10	200,610	57	207,508	5	331,060
7月	11	119,261	66	263,698	7	331,060
8月	11	119,120	65	259,146	10	353,180
9月	-	-	67	291,682	9	353,180
10月	-	-	76	301,038	9	364,240
11月	-	-	74	306,576	6	342,120
12月	-	-	74	429,980	6	353,180
1月	-	-	71	296,078	4	331,060
2月	-	-	72	289,582	3	302,120
3月	-	-	73	440,928	5	320,000
合計	-	897,921	-	3,510,940	-	4,065,440

【教育】

- ・介護サービス事業所・施設管理者等研修会
- ・介護予防研修会
- ・通所介護事業所 集団指導
- ・NSCA コンディショニングセミナー

【今後の課題】

- ・フィットネスセンターの収益確保のための今後の方向性の決定
- ・日常生活支援総合事業サービスC（近江八幡市からの委託）の事業の安定した運営
- ・フィットネス会員の会員確保のためのイベントの実施

ME サービス室

ME サービス室

【スタッフ】

常勤臨床工学技士 1 名 室長 鯉江 賢二

【目標】

院内の医療機器の保守点検を行い、医療の質の向上と患者に対する医療サービスの向上を目指します。

【活動報告】

近年、多くの医療機器が医療の現場で使用されるようになりました。これらの機器を安全に信頼高く操作、管理することはたいへん重要です。当 ME サービス室（臨床工学部門）は、院内の医療機器の保守点検を行っています。そして在宅用の人工呼吸器並びに非侵襲的人工呼吸器と睡眠時無呼吸症候群の治療に経鼻的持続陽圧呼吸装置（CPAP）の貸し出しを行い、在宅医療に力を入れています。

【実績】

- ① 日本臨床工学技士会・日本臨床工学技士教育施設協議会実習指導者
- ② 医療機器センター在宅人工呼吸器に関する指導者
- ③ 米国集中治療医学会 F C C S インストラクターアシスタント
- ④ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ⑤ 滋賀県安全法指導員協議会員
- ⑥ 日本不整脈心電学会員
- ⑦ 日本睡眠学会員
- ⑧ 日本 PSG 研究会員
- ⑨ 日本臨床工学技士会員
- ⑩ 滋賀県臨床工学技士会員
- ⑪ 国立大学法人滋賀医科大学精神医学講座 非常勤

医療機器安全管理料件数

平成 28 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療機器安全管理料件数	3.8	3	1	1	3	2	6	4	6	4	4	5	5

平成 29 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療機器安全管理料件数	2.3	5	4	2	2	4	2	4	0	2	1	0	2

評 価

社会保険事務局施設基準：医療機器安全管理料 1 平成 20 年 4 月 1 日受理

2008 年 12 月 15 日に日本病院機能評価 V5 認定

2013 年 12 月 6 日に日本病院評価一般病院 1 認定

【教育】

院内勉強会

①従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

ニプロキャリアカポン CP-330[®] 使用方法について

日時：平成 29 年 6 月 13 日（火）場所：ホスピススタッフステーション

②従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

酸素ボンベの使用方法和酸素療法についてと輸液ポンプの使い方

日時：平成 29 年 6 月 16 日（金）場所：3 病棟スタッフステーション

③従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

非侵襲的人工呼吸器 Trilogy100 使用方法について

日時：平成 29 年 12 月 21 日（木）22 日（金）場所：1 病棟 112 室

④従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

非侵襲的人工呼吸器 Trilogy100 使用方法について

日時：平成 30 年 3 月 8 日（水）場所：1 病棟 112 室

⑤従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

非侵襲的人工呼吸器 NPPV ネーザル V の使用方法について

日時：平成 30 年 3 月 29 日（木）場所：1 病棟 112 室

研修会・セミナー参加

- 日本不整脈心電学会・フクダ電子共催 心電図講習会
- 簡易 SAS 診断研究会・フクダライフテック共催 第 5 回簡易 SAS 診断研究会
- 日赤主催 赤十字救急法等指導員伝達研修会 （自費研修）
- 日臨技関甲・首都圏支部主催 生理検査研修班研修会『心電図を知る！さらなるステップアップに向けて』
- 日本睡眠学会主催 第 14 回睡眠医療・技術セミナー
- 奈臨技主催 認定心電検査技師試験対策及び資格更新研修会
- フクダ電子主催 人工呼吸器プリベンティブメンテナンス講習会 SERV0 シリーズ

- フクダライフテック中部(株)主催 【愛知県】第2回 NYUMON-Sleep Study-
- 京臨工主催 人工呼吸器安全管理セミナー
- 滋臨工主催 ME スモールセミナー 超音波を学ぶ (自費研修)
- 和臨技主催 第2回生理検査班研修会 表在エコー (自費研修)

【今後の課題】

在宅用医療機器（在宅酸素、CPAP、NPPV、ポンプ）のレンタル手配を ME サービス職員だけでなく臨床検査科職員も実施できるようにする。

看護部

【H29 年度活動計画及び実績】

＜看護部理念＞私達は、その人らしさを大切に、全人的看護・介護を提供します。

目標 1 病院経営に貢献する。

- ・院内病床ミーティング（週 1 回）、看護部ミーティング（毎日）に加えて、病院管理者による日々の病床状況確認・対策ミーティングにて、タイムリーな病床管理の中で目標数値を意識した病棟運営を行った。また、各病棟機能の役割と算定要件を踏まえた 168 床の有効な利用を念頭に、各病棟連携する事が出来た。
- ・回復期リハビリテーション病棟における体制強化加算取得により医療体制が充実し、チームケアの更なる向上に繋げる事が出来ている。
- ・経営戦略シートにおけるモニタリングシートにて目標管理し、「経営マインド」の熟成となり、経営貢献に繋げる事が出来た。特に人件費を意識した看護要員の配置と時間外管理として、業務量調査とタイムマネジメント調査を実施し、効率性を考えて職員一人一人が時間管理出来るように働きかけた。

目標 2 地域包括ケアシステム推進において広い視野の基、対象のQOL向上と「その人らしさ」を支える質の高いケアを提供できる看護部門を構築する。

- ・在宅療養支援課の役割強化と退院支援推進委員会、認知症ケア推進委員会が中心となり地域ニーズに合わせた看護・介護の展開を目指し、院内外研修参加と退院支援の充実に繋げることが出来た。
- ・医療安全・感染管理対象が増える環境下で、各ラウンドからの課題検討（ハード・ソフト面）やカンファレンスを重ねながら質の向上に努めた。
- ・急性期、回復期リハビリテーション病棟における認知症デイケアの対象者に比例して利用者が増加している。安全・安楽を視野に個別に合わせたプログラムによる運用にて QOL 維持に繋がっている。
- ・電子カルテディスプレイに合わせナイチンゲール看護論に導かれたケア実践が反映されるべく取り組み、患者を生活者として捉えケア展開できる環境を整備した。
- ・出前講座 3 件看護部が担当し、地域への健康予防事業に貢献出来ると共に、病院の啓蒙活動にも参画できた。

目標 3 新人、現任教育の充実を図り、より良い「看護」を担う人材育成を行う。

- ・看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）を基盤に当院の特殊性を組み入れた看護師「クリニカルラダー」を作成した。e ラーニングを中心とした院内教育と、ラダーレベルに合わせた院外研修へ 122 名の参加、資格取得研修「実習指導者講習会」へ 2 名の実績である。合わせて看護補助者（介護士）クリニカルラダー作成、計画的に育成に取り組んだ。看護部マネジメントラダーを整備し、目標を明確にしながら看護管理者育成に着

手できた。加えて人事制度における能力開発分野において活用できるようになった。

目標 4 生き生きとやりがいのある職場づくりを促進し人材の確保と定着に努める。

- ・就職合同説明会、県外 2 ヶ所・県内 2 ヶ所また県内・外看護大学専門学校・訪問を行い、看護師 6 名・介護福祉士 3 名新人職員確保に繋がった。
- ・看護部イベント委員会を設置し、看護部通信 2 回発行、看護部長と共に看護を語る会を 3 回開催した。年度初めには看護部職員全てが「マイキャリアシート」記入する事で、自己の「目指すケア」について考える機会となり、働きがい向上への意識付けとなった。
- ・職員動向

離職率	平均時間外勤務	年間有休休暇取得
12.2%	5.9 時間	87.8%

- ・平成 29 年度入職者 10 名：看護師 4 名・看護補助者 3 名（新人職員 9 名）
平成 29 年度退職者 20 名：看護師 12 名・看護補助者 8 名（新人職員 0 名）

* 詳細な数値は各署報告参照

【H28 年度の課題】

＜財務の視点＞

- ・経営戦略シート(BSC シート)モニタリングシートにて看護管理の実践を継続
- ・平成 30 年の「診療報酬・介護報酬同時改定」を踏まえた看護管理を実践し、病院経営に貢献する体制を強化できる育成とシステムの強化
- ・時間外の 80%を占める記録時間の短縮

＜顧客の視点＞

- ・WLB の推進（応援体制の構築による時間外の削減、リフレッシュ休暇の導入）
- ・リクルート活動を継続にて、看護・介護サービスに必要な「人財」の確保
- ・患者・職員両視点に立った環境の整備

＜業務プロセスの視点＞

- ・感染、医療安全、倫理への意識を向上させるチーム医療の仕組みを強化する仕組みを再構築
- ・病院機能評価準備と受審
- ・入・退院支援の強化として外来・在宅療養支援課の業務拡大
- ・新記録マニュアルの評価を継続し効率性のある看護記録を行う。
- ・業務量調査の内容を見直しと定例化

＜学習と成長の視点＞

- ・新各職種教育ラダーに基づく院内研修を企画・開催し質向上
- ・各分野スペシャリスト育成の支援を継続
- ・目標管理の指標である「ステップアップシート」と教育ラダーを連動
- ・看護管理者能力（人・モノ・カネ・情報・環境）を高めるための学びを継続

1 病棟

【スタッフ】

看護師	23 名（うち看護師長 1 名、主任 2 名）＜常勤 19 名、非常勤 4 名＞
准看護師	4 名 ＜常勤 3 名、非常勤 1 名＞
ケアワーカー	3 名 ＜常勤 3 名＞
看護補助者	4 名 ＜常勤 3 名、非常勤 1 名＞
事務補助者	3 名 ＜常勤 3 名、非常勤 0 名＞

【目標】

1. 経済性を考慮した病棟運用を行い、病院経営に貢献する。
2. 高齢者・認知症ケアの充実をはかり安全で安心できる治療療養環境を提供する。
3. 新人・現任教育を行い看護・介護の質の向上を目指す。
4. やりがい感を持って個々の力を発揮できる職場づくりに取り組む。

【活動報告】

- 1ー①地域包括ケア病床は、地域医療課、医事課、リハビリテーション科、医師事務と運用について定例会議で検討を行い、4～7 月までは 13 床で 100%の稼働維持・算定要因クリアを継続。8 月～16 床へ増床し、94.9%の稼働に留まった。
②一般病床は、院内包括病床の入院待機患者を受け入れ、包括病床の稼働の安定に貢献できた。8 月～34 床に削減され、医療・看護必要度はクリアできたが稼働率が 81.9%と目標達成に至らなかった。入院数の減少と 4 つの包括病床への転出のコントロール困難が一般病床稼働の不安定さとなった。
③レスパイト入院も積極的な受け入れを継続している。
- 2ー①認知症ケアの充実 院内デイケア「ひだまり」を定例化
280 回開催/年、延べ参加人数 2,718 人（733 人増）
②インシデント 127 件(1.2 倍増)、アクシデント 46 件（1.5 倍増）、内容別では転倒転落が多い。病床編成の変更や認知症患者の増加にハード・ソフトの両方において環境を整える必要がある。
③感染報告数 24 件/年
- 3ー①院内、院外の研修を通して、個々のレベルに合わせたキャリア支援を行った。
②新人看護師教育にサブプリセプターを作り、プリセプターと 2 人体制にて行ったことがチームで育てる風土と新人の安心感に繋がり、現任看護師も共に成長できた。
③ケアワーカーの配置により、看護補助者との協働による業務改善に取り組んだ。
- 4ー①目標管理面談を行い、時間管理・WLBを考えた働き方の推進とキャリア支援を行う中で、自分のやりたい看護について考える機会を持ち、目標に取り入れていった。

【実績】

平成 29 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
一般病床稼働率	82.07	81.48	84.5	78.46	83.38	85.35	85.53	81.72	78.69
地域包括ケア病床	101.5	100.9	100.2	101.4	93.3	89.1	87.9	101.2	97.8
一般入院数	48	41	53	43	49	39	46	43	52
一般退院数	34	31	33	41	24	23	28	21	27
平均在院日数	18	21	17	17.96	17.39	19.02	18.42	18.41	16.54
看護必要度（％）	20.4	12.2	11.8	20.9	27.52	27.9	18.5	14.9	17.1
平成 30 年	1 月	2 月	3 月	年間平均					
一般病床稼働率	82.21	81.17	78.33	81.9%					
地域包括ケア病床	95.96	97.76	96.17	96.93%					
一般入院数	54	40	54	46.83 人					
一般退院数	23	28	29	28.5 人					
平均在院日数	16.98	16.33	16.44	17.79 日					
看護必要度（％）	20.5	11.8	13.6	18.09%					

【教育】

＊院内研修に加え、スタッフレベルに合った院外研修に参加

病棟内研修「退院支援」「ユマニチュード」

院外研修 延べ参加人数 65 名

医療・看護必要度評価者修了 3 名

認知症ケア修了 3 名

＊看護学生の臨地実習受入れ 9 グループ

＊看護研究 「認知症ケアに対する看護職の意識調査」

—ユマニチュード技法の取り組みから効果的な看護の共有を目指して—

【今後の課題】

1. キャリア開発支援のあり方（新人教育、子育て中の職員、非常勤職員）
2. 退院支援における看護師の役割とチームケア
3. 院内デイケアの継続とケア評価（運用の見直しとケア内容の充実）
4. 地域包括ケア病床 16 床の活用方法と一般病床の有効な稼働とベッドコントロール
5. 看護クランク、看護補助者との協働によるWLBを考慮した業務改善

2 病棟

【スタッフ】

看護師	20 名（うち看護師長 1 名、主任 1 名）＜常勤 14、非常勤 6 名＞
准看護師	3 名 ＜常勤 2 名、非常勤 1 名＞
ケアワーカー	10 名（うち主任 1 名）＜常勤 9 名、非常勤 1 名＞
看護補助者	1 名 ＜常勤 1 名、非常勤 0 名＞
事務補助者	2 名 ＜常勤 2 名、非常勤 0 名＞

【目標】

1. 安定した病床稼働率と退院支援強化に貢献する。
2. 病棟の特殊性を基に地域で求められている看護・介護のケアの質向上と、退院支援への体制構築
3. 新人・スタッフの知識・技術向上と信頼される看護・介護の提供
4. スタッフ個々が、やりがい感を持ち職場づくり促進と患者サービス向上につなげる。

【活動報告】

1. 病棟稼働率 99.87%（重症比率 39%・重症者改善比率 64%・在宅復帰率 79%）
1 月からの体制強化加算獲得に伴い、病院経営の収益貢献に努めた。
また、毎週火曜日の病床ミーティングや毎日の看護部ミーティングで、タイムリーなベッドコントロールを行い病床の有効活用に努めた。診療報酬改定に向けての取り組みとして、リハビリと協働し FIM 改善率やアウトカム分析を行い、課題の明確化を共有した。入院前に「入院期間についての説明・同意書」を作成しベッドコントロールに役立てられた。病棟での管理データを可視化し、詰め所会等で皆へ伝達した。病院経営への参画を皆で意識できるよう今後も継続していく。
2. 回復期リハビリ病棟での看護・介護の質向上を目的に、認知症ケアへの充実・退院支援強化をはかった。認知症ケアに関しては、病棟で企画した勉強会を実施。また、日々の業務では一昨年度から実施している「デイサロン」を毎日実施し、認知症患者への関わりをスタッフ一人ひとりが考え取り組めた。次年度は e-ラーニングを活用しラダー別に応じた知識を深めたい。
退院支援に関しても、病棟・リハビリ合同で「退院支援方法論」について勉強会を開催した。個別性に応じた患者・家族に必要な退院支援の流れを理解するために皆で知識を深めた。また後期には「医療社会福祉制度」「意志決定支援と家族看護」を実施し基礎教育から応用教育を深め退院支援に必要な知識向上に努めた。

3. 新人・スタッフの知識、技術向上と信頼される看護・介護の提供を目標に、患者にとって安全、安楽な入院生活を送れるようケアカンファレンスの場を積極的にもった。感染対策に関しては、後期職員のインフルエンザ発症が多数みられたが、院内マニュアルに準じ早期対応で感染拡大防止につなげられた。
- アクシデントでは転倒による骨折という事例が発生した。入院時における転倒・転落スクリーニング、その後の評価・修正の徹底とゴールデンタイムにおける人材の課題や24時間リハビリ介入への課題が明確化した。次年度はリハビリスタッフがゴールデンタイム時のリハビリ介入の必要性を互いに確認し合いシステム化できるよう業務改善等おこなう。
4. 個人面談に関しては、前期にかけてスタッフ全員終了。年度末にかけて振り返りと次年度にむけての課題を終了できた。
- スタッフ個々が、やりがい感を持ち安心できる職場環境づくりに努めた。
- 病棟運営にも皆が参画できるよう、詰め所会や朝の朝礼時に病棟管理データを開示、伝達した。回復期リハビリ病棟体制強化加算、取得に向けリハビリや患者支援センター、医師とも連携し課題に取り組んだ。結果 1 月には体制強化加算取得にて病院の収益貢献に努められた。
- 職員の WLB における取り組みとしては、個人のタイムマネジメントへの取り組み、業務量調査を実施した。年間時間外平均（看護師 7.31 時間・CW4.74 時間・看護助手 0.96 時間）次年度も継続した業務改善に取り組み時間外削減につなげる。有休消化率 78%。
- 近江八幡市立看護専門学校 1 年生～3 年生まで実習を受け入れた。実習指導者中心に効果的指導が行えるようスタッフ全員で指導にあたる。

【実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
平均 年齢 (男女)	68.22/82.66	70.7/82.9	70.49/82.36	70.1/79.9	71.9/82	73.7/83.7
入院 入棟数	20	18	18	17	17	19
退院 転棟数	22	16	19	17	16	19
稼働率 (%)	98.97	98.15	99.13	99.92	100.84	99.6
在宅 復帰率 (%)	89.5	100	76.5	88.2	80	87.5
在院 日数	72.08	74.36	70.9	78.8	79.46	74.6
重症者 改善率	67	100	50	25	67	83
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均 年齢 (男女)	72.1/82.2	70.26/83.91	58.74/85.56	67.96/85.95	70.5/77.22	83.75/81.31
入院 入棟数	13	15	13	18	17	22
退院 転棟数	14	16	12	18	17	21
稼働率 (%)	100.31	100.24	100.36	99.61	100.85	100.54
在宅 復帰率 (%)	83.3	92.9	58.3	78.6	88.2	70.6
在院 日数	80.6	82.4	90	74.9	87.12	72.66
重症者 改善率	100	67	50	67	50	67

【教育】

院外研修

- ・ 看護師：25 研修
- ・ ケアワーカー：5 研修

看護研究

～言葉の拘束「スピーチロック」に対する意識調査～

実習

- 近江八幡市立看護専門学校 1 年生：基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
2 年生：成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ
老年看護学実習Ⅱ
3 年生：老年看護学実習Ⅲ（2 クール）

【今後の課題】

1. 2018 年 4 月からの診療報酬改定にむけて、回復期リハビリテーション病棟での役割を遂行しながら戦略的に取り組み、体制維持を図るために他部署とも連携していく。
また、病院収益に貢献できるよう病棟の役割を遂行し建設的取り組みをおこなう。
2. リハビリと連携をし、ゴールデンタイムへの取り組みや診療・ケア介入への体制構築を図る。また、必要性を互いに認識し、回復期リハビリケアの質向上に努める。
3. 退院支援の質向上を目指し、段階的な教育システムの構築、実践。退院支援リンクナーズの病棟での役割を明確にし、具体的介入方法を検討する。
4. クリニカルラダーによる能力評価
新人教育（看護師・介護福祉士）マニュアルに沿って新人を皆で育成する。
人事制度、各自目標シートに沿ってスタッフの個人面談を進めていく（課題への動機づけ）。
新人指導、学生指導をスタッフ全員で関わる風土作りを実施していく。

3 病棟

【スタッフ】

看護師	20 名（うち看護師長 1 名、主任 1 名）＜常勤 12 名、非常勤 8 名＞
准看護師	3 名 ＜常勤 3 名＞
ケアワーカー	15 名（うち主任 1 名）＜常勤 15 名＞
看護助手	3 名 ＜常勤 1 名、非常勤 2 名＞

【目標】

- 1、健全な病棟運営を行い、病院、里、地域での役割を果たす。
- 2、患者・家族に寄り添い、その人らしさを支える看護、介護を提供する。
- 3、多職種が連携し働きやすい職場づくりを目指す。
- 4、新人、現任教育が充実し専門知識を高めレベルアップを目指す。

【活動報告】

- ・患者数平均 58.5 人 稼働率 98.7 % 医療区分 2,3 割合 95 % 在宅復帰率 53.3 %
退院支援強化を継続し地域のニーズに対応した。
- ・入院患者が重症化している。MRSA などの感染症患者も多く、7～8 割が入院時からの持込みである。標準予防策を徹底し感染拡大に努めた。
- ・看護計画を随時見直し、定期面談（1, 4, 8 ヶ月）を充実させ患者家族のニーズに向き合い質の向上に努めた。また病棟係り（教育、環境、消防、レクリエーション、園芸、身体拘束解除、監査）を通して安心安全な療養環境作りに取り組んだ。
- ・医療療養型病棟での終末期ケアカンファレンス、デスカンファレンスを行い、倫理的視点で考える機会が増えてきた。
- ・今年度のインシデントレポート 108 件、アクシデントレポート 99 件あった。タイムリーなカンファレンスを行ない看護計画に繋がれた。
- ・新人と中途採用者が働き続けられるよう支援体制の整備に努力した。
- ・目標面談は定期的に行えたが、育成シートに沿った教育が出来ていない。また今年度は院内外の研修会参加が少なかった。e-ラーニング聴講がスタッフによって偏りがあり不十分であった。

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率 (%)	98.2	98.6	97.3	99.7	99.7	99.1	98.9	98	99.6	97.5	99.7	98
医療区分 (%)	92	95	96	93	95	95	97	96	96	95	94	95
在宅復帰 率 (%)	40	40	60	0	50	83	60	67	60	33	80	53

【教育】

① 病棟勉強会

「人工呼吸器の取り扱い方」 「退院支援」 「酸素ボンベ正しい使い方について」
「輸液ポンプの取り扱い方」 「スキンケア表皮剥離」 「C Vカテーテル」

② 院外研修会

「実習指導者講習会」 「フィジカルアセスメント急変を察知する」
「看護のバトンをつなぐ後輩指導」 「地域包括ケア時代の継続看護」
「コミュニケーションスキルを習得しよう」

～相手の思いを引き出し、大切な自分の思いを伝えるために～

「初めての看護研究」 「看護実践者として取り組むリスクマネジメント」
「医療事故発生時のメカニズムと自己分析・対策」 「滋賀県実習指導者講習会」
「東近江退院支援ルール評価・検討事業 病院訪問看護ワーキング」 「3年目看護研修」
「三方よし研究会」 「ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育」 など

③ 看護研究

テーマ「身体拘束評価に対する取り組みを開始してのスタッフの意識変化」

④ 実習 近江八幡市立看護専門学校 老年看護学2 1グループ 老年看護学3 4グループ

【今後の課題】

- ・平均患者数、稼働率、在宅復帰率、医療区分2,3の比率を維持
- ・受け持ち看護師と退院支援リンクナース、多職種で退院支援強化に努める。
- ・院内感染防止対策に目を向け感染拡大防止と医療安全への意識を高める。
- ・事例検討会、カンファレンス、患者家族の定期面談を充実させ安全安心の療養環境の提供
- ・医療療養型病棟における終末期ケアの充実
- ・WLB推進活動を継続し働きやすい職場環境を推進
- ・院内（e-ラーニング視聴率アップ）研修、院外研修の参加を促し知識、技術の習得
- ・クリニカルラダー、育成シートに沿った人材育成

緩和ケア病棟

緩和ケア病棟

【スタッフ】

看護師	17 名（うち看護師長 1 名、主任 1 名、緩和ケア認定看護師 1 名） ＜常勤 16 名、非常勤 1 名＞
ケアワーカー	3 名 ＜常勤 3 名、非常勤 0 名＞
看護助手	2 名 ＜常勤 2 名、非常勤 0 名＞
看護事務補助者	2 名 ＜常勤 2 名、非常勤 0 名＞

【目標】

- 1、多様なニーズに対応しながら、病院経営に貢献するホスピス運営を行い、地域の役割を果たす。
- 2、多職種連携の強化、チームケアの充実を図り、全人的ケアを提供する。
- 3、危機管理体制を徹底し、安心・安全なケアを提供する。
- 4、スタッフそれぞれが個々の能力を発揮出来、やりがいを持てる職場作り

【活動報告】

- 1ー①8月より八幡医療センターに出張外来をスタートさせた。急性期より緩和外来受診の行きづらさをなくし、緩和外来をスムーズに受診してもらえることを目的とした。
②12月でDr1名退職となり、常勤1名、パート1名の医師の体制となった。3月より病床稼働を14名マックスとし、平均患者数を12名と変更となった。
③平均在宅復帰率は23% 平均在院日数22日で体験入院の患者さんも増え、登録制をうまく利用してもらいながら、緊急入院の対応をしている。
④新規コンサル件数21件と連携を図っている。
- 2ー①遺族会2回/年（6月、11月） ホスピス通信10月発行
②認定看護師による同行訪問10件の実績を残しチームの連携強化できた。
③ホスピス11年目を迎えるにあたって、ケアの振りかえりをチームで行った。
④現任教育プログラムに添って勉強会の実施。他部署からも参加が有り、院内にも広がっている。
- 3ー①せん妄に伴う転棟転落も多く、インシデント、アクシデントの59%が転倒転落であった。
- 4ー①エルネック受講率 69% 緩和ケア認定看護師がELNEC-J指導者として院外にて活動。
②目標管理、時間管理
③実習受け入れ（豊郷病院附属准看護学院12名、近江八幡市立看護専門学校31名 滋賀県立大学人間看護学部21名、聖泉大学4名）

【実績】

- ・ 外来数：698 名（初診 168 名、再診 302 名、医療センター外来 59 人）
- ・ 相談件数：21 件 ・ 見学者数：3 名
- ・ 遺族会：偲ぶ会 2 回/年（延べ 19 家族、27 名参加）、ライラックの日 39 名参加
- ・ インシデント件数：126 件、アクシデント件数：10 件
- ・ 在宅見取り：2 件

	入院	退院	稼働率	新規コンサル	転入	在院日数	在宅率
4 月	11	12	96.5	2	2	29	33.3
5 月	15	22	64.7	1	1	26	13.6
6 月	18	19	68.1	4	4	21	15.8
7 月	14	15	68.7	2	1	19	33.3
8 月	14	11	93.1	6	2	23	45.5
9 月	13	15	93.1	2	3	28	13.3
10 月	21	25	92.2	1	3	23	12.0
11 月	14	20	69.9	1	2	24	20.0
12 月	16	15	73.0	1	0	21	13.3
1 月	12	15	64.7	1	4	19	33.3
2 月	20	18	85.0	0	1	22	28.0
3 月	18	20	93.5	1	1	21	15.0
平均	15.5	17.3	79.4	合計 21 人	合計 24 人	22	23.0

【教育】

- ・ 京滋緩和ケア研究会：2 回/年 延べ 8 名参加
- ・ 日本死の臨床研究会年次大会：1 名参加（発表：ポスター1 例）
- ・ 日本ホスピス緩和ケア協会年次大会：2 名参加
- ・ E L N E C - J 受講修了者：2 名 受講率 69%
- ・

【今後の課題】

- ・ 新しい体制での目標稼働率達成、病床の利用の工夫（体験入院、レスパイト入院、在宅看取り）
- ・ 医療センター出張外来の継続、急性期からのつなぎの役割を強化し充実させる。
- ・ チームケアの充実（カンファレンスの充実、院外との連携を深める、啓発活動）
- ・ 時間外削減の工夫
- ・ ホスピスボランティア活動の推進と活動におけるコーディネートを強化する。
- ・ 2 人夜勤の体制の整備、工夫

外 来 部 門

外来部門

【スタッフ】

看護師 6 名（うち師長 1 名）＜常勤 2 名、非常勤 4 名＞
看護事務補助者 1 名 ＜常勤 0 名、非常勤 1 名＞

【目標】

- ① 患者・家族が在宅で活用できるケアを提案・提供し、看護の質の向上に努める。
- ② 安全・安心なケアを提供し、医療事故防止に努める。
- ③ 他部署との連携を図り、病院経営に参画する。
- ④ 個々の自己啓発・自己成長を支援し、スタッフの育成に努める。

【活動報告】

- ・ 中材より外注はなくなり、現状のまま高圧滅菌器を使用。
（ガス滅菌はしない。ディスポ化）
- ・ 外来にある耳鼻鏡が老朽化にて、新規購入する。
- ・ 6 月 23 日、高圧滅菌器の点検と記録計の設置
- ・ 6 月～大腸カメラは、月曜日・金曜日・第 1・3・5 の土曜日に変更
- ・ 7 月、職員 HB ワクチンの追加接種、7/3・4・10
- ・ 肛門鏡を新規購入（ディスポ）
- ・ 職員健診採血、8/22、23、25、15:00～16:00
- ・ 10 月 2 日～ 一般外来インフルエンザワクチン開始
職員インフルエンザワクチン 11 月 7 日、8 日、9 日。
- ・ 各部署の退院前カンファレンス参加件数：2017 年 4 月～2018 年 3 月、30 件
（昨年 52 件）

【実績】

- ・ H29 年 4 月～H30 年 3 月までの手術件数・術前・術後訪問件数

手術件数	術前訪問件数	術後訪問件数
48 件（局麻含む）	42 件	22 件（52%）
H29 年 4 月～H30 年 3 月の手術件数： 61 件		

- ・ H29 年 4 月～H30 年 3 月までの内視鏡室 各検査件数（年間集計）

腹部超音波	胃カメラ	大腸カメラ
1,226 件 （昨年 1,286 件、-60 件）	955 件 （昨年 1,048 件、-93 件）	124 件 （昨年 132 件、-8 件）

- ・ インシデント、アクシデント年間集計（H29 年 4 月～H30 年 3 月）

インシデント 18 件、 アクシデント 0 件

【教育】

- ・ 配信講義の活用で、学研ナーシングの受講を各自で視聴
- ・ 勉強会（新規導入薬シンボニー注射インスリン、など）
- ・ 手術室看護師の育成は継続中

【今後の課題】

- ・ 外来業務と外来・内視鏡・中材・手術室のマニュアルの見直し
- ・ 外来、在宅療養支援課との連携、継続看護の取り組み

在宅療養支援課

【スタッフ】

看護師 3名（うち看護師長 1名、主任 0名）＜常勤 2名、非常勤 1名＞

【目標】

1. 患者・家族が安心して主体的に療養生活が送れるよう支援する。
2. 在宅療養中の患者・家族・地域スタッフの窓口（相談・連携調整）
3. 退院支援に関する院内マニュアルの見直しと病棟、他部署との連携構築により病床稼働の安定を目指す。

【活動報告】

＜財務の視点＞

- ・多職種カンファレンスも定着し、それに伴う退院支援加算の取り漏れもほぼ無くなった。
- ・退院後自宅訪問件数は目標に達成しなかったが、訪問目的が明確になり適切な生活指導、訪問看護師との連携が図れた。
- ・残業時間は平均 7 時間 34 分在宅サービス部門との連携で時間外対応することが多かった。

＜顧客の視点＞

- ・入院中の患者・家族への相談や面談を適宜行なったが、もう少し早い段階で行なうようシステム化も検討が必要
- ・退院後訪問の必要性はカンファレンスで決定し、本人・家族に説明・同意を得て実施できた。

＜業務プロセスの視点＞

- ・リンクナース会で退院支援マニュアルの周知と一部見直しができた。

＜学習と成長の視点＞

- ・診療報酬改定に伴い自部署の役割や次年度の目標について伝え、経験を通して知識の向上に繋げた。また、研究発表で症例報告を行うことで、看看連携やケアの振り返りができた。

【教育】

- ・看護研究 『入院から在宅へシームレスな生活を支える看看連携』
～慢性疾患で症状悪化を繰り返す患者の退院支援を振り返って～

【実績】

退院支援システムに添って早期より他院支援に介入できた。また、退院後前後の訪問を行うことにより、退院後の生活を見越した生活指導を病棟で行え、退院後も継続して自宅訪問による生活指導が実践できた。

退院支援の介入		自宅訪問			保険請求
初回・中間 カンファレンス	85 件	退院前 訪問	57 件	うち訪問看護 同行 10 件	
退院前 カンファレンス	118 件	退院後 訪問	78 件	リハビリ 同行 76 件	45,460 点

【今後の課題】

在宅療養支援課では、入院後の退院支援は病棟看護師と共にすすめていくことはできたが、年度後期に発足された在宅療養支援部で他部署との連携を取りながら、入院前、外来患者および地域の住民への療養支援に関して業務拡大を目指す。

事務部

【H29 年度活動計画及び実績】

1. 地域・顧客満足の得られる事業展開・運営、当院の役割（機能）を充実させ、地域連携業務の推進を目指す。
地域ニーズ（地域包括ケアシステム）にきめ細かく対応できる態勢構築に注力。平成 30 年 1 月新設の在宅療養支援部の中心的役割を担い、地域病院・施設・開業医との緊密な連携と情報収集を図った。また「三方よし」をはじめ、各地域での地域連携会議に積極的に参加。近隣開業医との情報交換会の実施等を主導した。
2. 事業計画・予算達成に寄与し、健全な病院経営の主導的役割を果たす。
適正人員配置、業務の効率化・生産性向上による時間外手当圧縮、通勤費の適正価格への見直し等の諸課題克服に注力。収支バランスの適正化に努め、2 期ぶり約 42 百万円の黒字決算を確保できた。
3. 診療報酬届出・管理態勢の緻密度・精度向上を継続推進する。
チェック・考働態勢の見直し、セミナー積極参加で精度強化。各種ランクアップ等のシミュレーション・申請を主導した。また近畿厚生局への各種届出時には、事前に部長会での説明・質疑を経て提出する体制を継続して行った。
4. 電子カルテリプレイスを成功させ、情報管理分野を充実させる。
電子カルテについて、他社ベンダーとの比較検証、部門別プレゼンを実施し、平成 29 年 12 月にリプレイス実施。これを機にサーバー機器類も一新し、今後もシステム全般の安定稼働に注力していく。
5. 職員の心身サポートで覇気・士気を高め、安心を提供できる環境整備に努める。
WLB・メンタルヘルス事業の継続推進、法令改正に準拠した就業規則の改定も行った。

【H30 年度の課題】

1. あらゆる面で、法令遵守態勢を主導しつつ、経営改善プロジェクトを着実に押し進める。
平成 30 年度の医療・介護報酬同時改定の情報前倒し収集に努め、病院の方向性・方針決定に反映させる為、速やかに申請・届出に繋げ、健全な病院経営に資する。
2. 財務面での正念場と認識し、事業計画・予算達成に全力を傾注し、適正な経営資源の配分を従来以上に綿密に検証していく。適正人員配置態勢の継続的検証・精査、ワークライフバランスの観点から時間外業務の削減、業務の効率化を図り、併せて、法改正や一般社会常識・時流に即した就業規則の変更を随時実施していく。
3. 院内の一大プロジェクトである病院新築計画について、他院の情報も収集しながら、設計・入札・建築・機器備品・資金計画・各種折衝等あらゆる角度から参画していく。

医事課

【スタッフ】

常勤 10 名 非常勤 4 名

【目標】

< 医事課 >

- ① 「医業はサービスである」事を常に自覚し、患者サービスの向上を目指し、高度な医療サービスを提供する。
- ② 医事課職員の専門知識の向上と業務に必要な情報収集に努め、病院経営に繋がる情報や資料提供を行う。
- ③ 保険制度の変更や診療報酬改定への対応。適切な進歩管理、院内他部門との連携強化等により、適正かつ公正な診療報酬の請求を行う。
- ④ 日常業務の請求業務に力を入れ、業務の効率化・レセプト期間中の残業削減とともに、算定漏れの防止に努める。
- ⑤ リーダー格となる人材育成
- ⑥ 未収金の管理、催促及び徴収に努める。

< 健診室 >

- ① 売上予算実績の 5,174 万円を達成する。
- ② 健診運営の安定化・平均化を図る。
- ③ 新規開拓を計画し、実施する。
- ④ 健診を円滑に進める仕組みの見直し
- ⑤ 各 2 次検診・検査の促進運用の明確化を図る。
- ⑥ 職員の能力アップを図る。

【活動報告】

<医事課>

- ① 平成 30 年度医療・介護の同時診療報酬改定の情報収集・分析を行い、院外研修の参加、院内職員への勉強会など開催し、他部署との連携や算定要件の確認、課内での周知を行った。
- ② システム変更に伴い、手入力による業務が増え算定漏れがないようにする業務の見直しが今後の課題である。
- ③ レセプト請求業務は、医療事務の質を評価する上で、レセプトの「査定」「返戻」の数値は重要です。電子カルテ導入により、病名漏れや旧保険証にての請求で査定や返戻があった。査定・減点を減少することを目標に、日々病名チェックの強化を図った。また、毎月 1 回減点・査定減・返戻された内容を医局会に報告、医事課内でも毎月担当を決め報告・検討、異議のあるものには再審査を積極的に行い、収益増の取り組みと、課員のスキル向上を目指した。

<健診室>

- ① 受診者単価率のUPが出来るように、オプションの促進活動を行った。
- ② 繁忙期の受診月変更交渉を行い、閑散期への受診変更を勧め、健診受診 0 日を無くした。

【実績】

<医事課>

・ 減点 (円)

4 月	808, 920
5 月	99, 570
6 月	199, 670
7 月	259, 140
8 月	328, 450
9 月	230, 130
10 月	115, 750
11 月	106, 740
12 月	240, 370
1 月	319, 070
2 月	150, 690
3 月	209, 550

<健診室>

- ・ 売上実績 ¥54,640,012 予算の 5,174 万円より¥2,900,012 の増収
- ・ 受診人数も前年度より 112 名の増加

【教育】

研修

- 内容 「2018 年度同時改定における病床再編と見据えた医療機関の経営戦略」
(ホテルボストンプラザ草津)
- 「介護保険改定の最新動向を徹底解説」(大阪)
- 「病院機能改善支援セミナー」(大阪)
- 「2018 年診療報酬と介護報酬改定の動向」(近江八幡市立総合医療センター)
- 医療経営人材育成プログラム ファイナルワークショップ (東京)
- 「診療報酬請求事務の見直しと保険点数の請求漏れ対策」(大阪)
- 認知症ケアの基本と認証の人のアセスメント対応の基本
- Q & A で学ぶ在宅医療診療報酬 (大阪)
- 医事課職員のための実務演習コース (大阪)

【今後の課題】

<医事課>

- ① 診療報酬の算定漏れがないよう、電子カルテとのマスタの紐付け等や無駄な病院持ち出し分を減らす対策を、他部門との連携を図るなど課題があり、今後も継続する。
- ② 月 1 回の減点・返戻報告と勉強会を行い、職員の知識向上を実施する。
- ③ 減点率の増加に伴い、積極的に再審査をかけ収入増に努める。
- ④ 未収金に関しては定期的に患者さんに連絡をとり、回収率の向上を目指す。今後も継続して病院経営の収入が増えるよう、未収金対策について検討する。

<健診室>

- ① 消費税増税分による価格を見直し、地域との価格調整を行う。
- ② 健診の流れがスムーズに流れる仕組みを検証し実行する。
- ③ 企業、健保の新規開拓案を考え、実施する。
- ④ 二次健診の受診者を増やすため、結果表と一緒に外来担当医表を付けるようにする。

管理課

【スタッフ】

常勤職員 7 名、非常勤職員 6 名（H30. 3. 31 時点）

【目標】

- 1, 報告・連絡・相談の必励行
～風通し・コミュニケーションのよい職場環境、
他部署との連携強化と院内外情報共有～
- 2, 李下に冠を正さず
～法令・規律・ルール遵守、正々堂々・公明正大、心に曇りのない誇れる仕事～
- 3, 一線完結主義、人格の陶冶、ポジティブ志向能力の醸成
～自覚と責任感、自らの能力に上限なし、食欲に一步上を目指す努力～

【活動報告】

- ①介護育児休業法への準拠、諸手当・有給休暇取得の明確化等に関連する就業規則を改定した。
- ②通勤手当を、一般社会情勢・経済情勢に即した適正価格に見直し、平成 29 年 10 月より実施。年間ベースで、約 20 百万円のコストダウンを図る。
- ③職員の労働環境改善に配慮し、院内保育所の遅出対応日と夜間開所日の流動的な変更を実施した。
- ④経理業務と給与業務の人員ローテーションを行い、不測の事態にも対応できるようにした。
- ⑤関西電力との契約更新に伴い、病院・老健センター・ケアハウス合同で、一般対比▲20%（契約更新前は▲11%）の割引率を確保した。
- ⑥看護小規模多機能型居宅介護『友愛の家ヴォーリズ』の建築に深く関与し、起工式（4 月 15 日実施）には、諸準備・司会進行等を担当し、船出の一端を担うことができた。

【実績】

①一般経費関係

(単位:円)

科目(経費)	平成28年度	平成29年度	増 減
職員被服費	5,622,917	7,012,937	1,390,020
通信運搬費	4,443,257	4,401,129	▲42,128
消耗品費	17,277,234	16,575,128	▲702,106
消耗器具備品費	9,861,757	5,632,781	▲4,228,976
水道光熱費	42,863,025	39,568,850	▲3,294,175
事務・図書印刷費	206,280	181,440	▲24,840
燃料費	10,594,603	11,093,460	498,857
修繕費	9,816,825	6,992,372	▲2,824,453
雑費	7,470,846	3,425,688	▲4,045,158
自動車費	678,064	697,745	19,681
器械賃借料	18,776,864	21,961,372	3,184,508
合 計	127,611,672	117,542,902	

②エネルギー関係

	平成 28 年度		平成 29 年度	
	使用量	金額 (円)	使用量	金額 (円)
電気 (病院本体)	1,928,367 (kwh)	37,422,831	1,964,274 (kwh)	36,481,698
上水道	16,237 (m³)	3,972,617	15,889 (m³)	3,886,172
下水道	7,953 (m³)	1,412,550	9,158 (m³)	1,731,701
灯油	86,000 (L)	5,188,320	80,051 (L)	5,832,837
L P G (ホスピス)	18,922 (m³)	4,087,195	18,947 (m³)	4,092,660
L P G (栄養科)	3,546 (m³)	1,034,211	3,561 (m³)	1,038,441
合 計		53,117,724		53,063,509

③SPD 在庫推移

(単位:千円)

	29/4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
SPD 倉庫在庫合計	2,035	1,999	1,867	2,108	2,159	2,187
前年対比	▲539	▲448	▲503	▲250	▲146	▲145
部署在庫合計	3,902	3,793	3,528	3,288	3,400	3,672
前年対比	398	354	99	▲37	11	335
合 計	5,937	5,793	5,395	5,397	5,559	5,859
前年対比	▲141	▲93	▲403	▲287	▲134	189
	29/10 月	11 月	12 月	30/1 月	2 月	3 月
SPD 倉庫在庫合計	2,498	2,215	2,752	2,570	2,265	2,318
前年対比	386	101	211	566	446	206
部署在庫合計	3,715	3,458	3,726	3,720	3,296	3,404
前年対比	448	117	230	138	▲559	▲534
合 計	6,214	5,673	6,478	6,290	5,561	5,722
前年対比	834	218	441	705	▲112	▲327

昨年に引き続き、適正在庫管理強化に注力した。

④院内保育所における経費

(円)

	29/4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
支払額	2,032,560	1,641,600	2,010,960	2,019,600	2,032,560	2,015,280
	29/10 月	11 月	12 月	30/1 月	2 月	3 月
支払額	2,023,920	1,991,520	2,008,800	1,991,520	2,004,480	1,662,926

(円)

	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
年間支出合計	15,981,813	23,764,800	7,782,987
補助金計	▲2,311,000	▲3,032,000	721,000
年間保育料	▲3,021,402	▲2,952,581	▲68,821
差引	10,649,411	17,780,219	7,130,808

4 月から 10 月にかけて、遅出対応日と夜間開所日を増やしたため、大幅なコストアップとなる。

【教育】

財務経理・労務・人権・防災・設備機器等を中心に、研修やセミナーに参加した。

【今後の課題】

- ①借入金返済原資捻出及び賃金・設備投資の安定的原資確保、また次期投資の着実な履行により、職員が安心して働ける職場環境の創出のため、引続き安定的財務基盤の構築を目指す。
- ②適正な経営資源の配分を従来以上に綿密に検証していく。B S C手法を駆使し、適正人員配置やワークライフバランスの観点からも時間外業務の削減、業務の効率化を進める。
- ③病院新築計画については、設計・資金計画 等あらゆる角度から関わり、地域ニーズに合致し、当院の新しい世紀に相応しい病院作りに寄与する。
- ④法改正および一般社会常識・時流に即した就業規則の変更を随時行っていく。
- ⑤院内保育所の保育料の見直し

地域医療課

【スタッフ】

MSW 4名

病診連携事務 1名

【目標】

地域包括ケアシステムの構築が求められている。当院においても、地域のニーズに即した病床編成が求められている。

地域連携に関しての院内・院外における活動の幅が広がっている。当院における地域での立ち位置を明確にし、地域医療構築に向け地域医療課の拡充を行い、院内外における連携強化を図りたい。地域に向け病院機能の周知、地域とのリンクができるよう活動の幅を広げ、患者満足の高い退院支援が行えるようチーム医療の一員として役割を果たす。

【活動報告】

- ① 入退院支援に関しては、地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟、医療療養型病棟などの包括病棟における入退院調整を行う。
 - ・ 地域医療課経由での入院は全体入院件数 433 件／978 件（44.27％）となっている。前年度の 41.6％を上回り、対応件数は増えている。
 - ・ 在宅療養支援課と地域医療課と協働し、患者支援センターとして入退院支援に関わっている。より深く入退院に関わることができ、シームレスな入退院支援が行えている。
 - ・ 紹介元に関しては、今年度も近江八幡市立総合医療センターが最も多く、全体の 58.19％を占めている。開業医、施設、県外病院などを除くと 74.55％である。
次いで、彦根市立病院、県立総合病院、済生会滋賀県病院などの急性期病院である。以前よりも紹介件数は伸びてきている。
- ② MSWとしての相談業務を通じて、患者・家族への支援を行う。
 - ・ 地域の社会資源を活用し、在宅退院を目標として入院前から関わりを持ち、支援を行っている。
- ③ 地域におけるニーズの発掘と連携機能の充実を図る。
 - ・ 病院協会での退院支援事業、三方よし研究会、つながりネットなど地域や病院や施設とも連絡を取り合い情報交換ができている。得た情報を院内に提供していく事もできた。

④ 先方病院への支援を強化する。

- ・ 近江八幡市立総合医療センターとの連携を引き続き行なう。圏域内だけでなく、圏域外の病院とも密な連携が図れるよう訪問し情報交換を行っている。

⑤ 病診連携機能の充実

- ・ 開業医との連携に関してはスムーズな検査・診察調整を行う事ができている。ヴォーリズ記念病院との有益な連携が図れるよう情報収集に努めていく。
- ・ びわこネットに関しては、対応件数が増えている。院内での利用促進もできている。

【実績】

H29 年度 実績	入院患者数	全体入院割合	退院支援計画書 作成数	介護支援連携 計画書
4 月	30	37.00%	65	4
5 月	33	43.42%	48	4
6 月	41	45.55%	50	7
7 月	31	41.33%	55	10
8 月	30	37.50%	36	6
9 月	39	50.00%	46	2
10 月	32	38.55%	38	9
11 月	36	48.64%	47	11
12 月	43	51.80%	45	10
1 月	40	49.40%	48	2
2 月	29	36.70%	49	4
3 月	49	50.00%	61	5

【教育】

自己研鑽を行い連携と相談業務の質を高める。

- ・ 研修会・勉強会の参加を行い自己研鑽に努めた。
- ・ 課内での症例発表を行い、ケースのフィードバックを行っている。
- ・ 資格取得を行い各自のスキルアップに努めることも継続していく課題である。

【今後の課題】

外来予約件数に関しては、151 件である。前年度の 131 件に比べると 30 件増加している。緩和ケア外来に関しては、前年度 199 件に対して今年度は 211 件となっている。12 件増している。

東近江圏域の中では各病院機能と役割が明確となっている。

病院間の連携に関しては、急性期病院と回復期・慢性期病院における患者流動のペースは異なり、日単位で患者が動く急性期と、週・月単位で動く回復期・慢性期病院とでは「時差」が発生している。それぞれ異なる役割の病院がお互いの立場を理解し現状を知っていくことは必要である。

早期転院を希望している急性期病院のニーズに対して、長期入院が主体となる回復期・慢性期病院が対応しきれていない現状がある。病床数は今後減少傾向となるため、現状のままでは、より強いストレスがお互いにかかってしまう状況が考えられる。

病院間の問題ではあるが、退院支援のシステムがより強化され、在宅退院への移行がスムーズになること、老健施設やサ高住などの受け入れ施設も巻き込み、地域での循環型医療介護サービス提供が必要である。今後は地域包括ケアシステムの考え方を踏襲し、医療と介護の連携強化が必要となる。

地域の中で、ソーシャルワーカーがどのような役割を果たしていくのか、在宅完結型の医療を目標とする中で、病院と地域を結ぶコーディネーターの役割が必要となる。専門性を発揮できるように改めて地域を知ることが必要であると感じた。

在宅サービス部門

【H29 年度活動計画及び実績】

在宅サービス部門は、新しく看護小規模多機能型居宅介護（看多機）事業所を設立し職員が 60 名を超えるスタートであったが、入退職もあり 1 割が入れ替わる状況であった。訪問看護、訪問介護、居宅介護支援、看多機、介護予防拠点推進事業の 5 事業を運営し、予防から看取りまで、そして訪問から「お泊まり」「通い」までと幅広く事業を展開している。また、経理面において管理者の管理・運営と事務職同士の連携を充実させ、行政書士や公認会計士から指導を受けながら徹底していくように努めた。この業務に大幅な時間を要したことで、管理者の訪問業務の制限が出てしまったが、部門全体として経理に関する公正な業務内容の習得ができたことは間違いない。また、新規事業に対する知識習得や組織・チームとしての管理・運営の方向性がそれぞれに理解できたことは、改めて「在宅サービス部門」の発展に向けての成長の年であったと言える。

訪問看護ステーションは、入退職はあるものの看護師の常勤換算は 11.3～12.9 名、理学療法士の常勤換算は 0.7 名を確保し、年間訪問件数 10,700 件（医保 4,661 件、介保 6,039 件）であった。在宅看取りは 16 件で、ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費算定者数は 12 件であった。ホームヘルパーステーションは、介護福祉士が 80%を占め、痰の吸引等の手技取得者が 5 名となり、「特定事業所加算 1」の取得継続ができています。年間訪問件数は 12,590 件であった。居宅介護支援事業所は、175 件/月を目標に取り組んだが後期の職員の異動に伴う人材確保ができなかったため新規受け入れの制限をしなければならなかった。県内 5 番目に設立した看多機「友愛の家ヴォーリズ」は、登録利用者が最高 20 名まで確保することができ、初めての「泊まり」「通い」を含むトータル事業の展開に至難した。しかし、地域の方からのご支援やご協力もあり、夏まつりやクリスマス会などの行事をはじめ、ボランティアによる演奏会等も開催しながら軌道に乗り始めている。介護予防拠点事業については、例年通り法人全体の協力を得ながら展開し多くの方の参加ができていた。特に、「介護予防教室」は、テーマを決めて 5 回開催し、10 名の方に皆勤賞を渡すことができた。

【H30 年度の課題】

平成 30 年度は、引き続き各事業所の介護サービスの質の向上と人材育成に努め、実習の受け入れも積極的に行っていきたい。また、看多機の運営を安定させることと地域包括ケアシステムの拡充のために、訪問介護を中心にさらに人材を増やし、部門全体を組織としてより確立させていきたいと考える。

訪問看護ステーション ヴォーリス

【スタッフ】

管理者(正看護師)1名、在宅看護専門看護師1名(非常勤)、
正看護師14名(常勤7名、非常勤7名)、理学療法士4名(非常勤)、
事務職員2名(常勤1名、非常勤1名)

【目標】

- ①「ヴォーリス医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、「里」、「病院」、「老健」、「ケアハウス」、「在宅」が同じ方向に進むよう協力・連携し、里内の機能を充分発揮できるようにしながら、より地域から信頼される訪問看護を目指す。
- ②年齢を問わず医療依存度の高い重症ケースや難病等の困難ケースに積極的に対応できるよう体制を整え、満足していただける質の高い訪問看護を目指す。
- ③「機能強化型訪問看護管理療養費2」の維持ができるよう癌末期に限定されない在宅ターミナルケアを積極的に受け入れ、最期までその人らしい生活を支援していく。また、亡くなられた方のご家族のグリーフケアにも努める。
- ④職員一人ひとりの能力の向上のための教育・研鑽の推進と人材育成に努める。
- ⑤法人の経営方針に沿い、収益の向上と経営の安定化を目指す。

【活動報告】

非常勤看護師2名(6月から)の増員と非常勤看護師2名の退職、看多機への異動があり、看護師の常勤換算は11.8名となり、昨年度より-2.8名となった。訪問件数は10,700件で昨年度と比較して-1,066件となった。また、在宅看取りも16件で、がんや老衰のターミナルの方に対応することが出来た。

医療保険では「機能強化型訪問看護管理療養費1」の取得が8月まで出来たが、算定要件であるターミナル件数の低下により「機能強化型訪問看護管理療養費2」に変更した。また介護保険では「看護体制強化加算」は7月のみ算定要件が満たせず取り下げた。その結果、経常利益は8,872千円となった。

今年度も積極的に実習の受け入れをし、看護学生・専門看護師・ステップI・退院支援強化事業等の実習を行った。また、スタッフ教育についても、外部研修やステーション内での勉強会を行ったりするなどしてスキルアップに努めた。

【実績】

①訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医保	453	445	432	362	379	510	426	443	401	271	250	289	4,661
介保	527	545	513	505	542	412	524	490	484	472	468	557	6,039

②訪問件数比率（％）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医保	46	45	46	42	41	45	45	47	45	36	35	34	42
介保	54	55	54	58	59	55	55	53	55	64	65	66	58

訪問件数(医療・介護保健)比率は、ほとんどが 4:6(普通は 2:8 くらい)、介護保険の方が多く重症度も高かった。前年度に比べ、介護保険での訪問は－1,016 件、医療保険では－約 77 件となっている。24 時間コール体制で運営しているが、20～50 件/月 緊急出動している。また、癌疾患の他ターミナル期の方は月平均 20 名、在宅看取りは年間 16 名であった。併設のヴォーリズ記念病院からの指示書は約 31～38%で、新規利用者の 45%はヴォーリズ記念病院の患者であった。

【教育】

外部研修では「小児訪問看護研修」「認知症研修」「訪問看護ステップⅠ」「在宅ターミナルケア」「保険請求業務」「人材育成」「訪問看護管理者研修」「創傷セミナー」等、専門分野の研修会に数多く参加し、知識・技術の向上に努めることができた。

また、介護職員の喀痰吸引等の指導看護師養成講習会に今年度も 1 名参加し、資格を取得した。

看護研究については、昨年度より取り組み、今年度日本在宅医学会にて発表をした。

教育面に関しては、看護学校等への講義や実習生の受け入れをし、新入職員に対する同行訪問や面接などを通して「訪問看護の魅力」を伝えられるようにしてきた。また、様々な講演会でのシンポジストや講師等も引き受けながら、地域事業への参画にも努めてきた。

【今後の課題】

昨年度よりスタッフ数が少ないこともあり、訪問件数や収益は減少している。そのため医療保険制度での「機能強化型訪問看護管理療養費Ⅱ」や介護保険の「看護体制強化加算」取得継続は不安定な状況になると思われる。特に「看護体制強化加算」は月毎に変動する可能性がある。人材確保と同時にスタッフのモチベーションを維持しつつ、各自がやりがいをもって業務に取り組めるような環境づくりをしていく。

また療養者やそのご家族に対し「最期まで我が家で暮らしたい。」という思いに応えるべく、できる限りスピーディで希望に応じた支援をしていきたい。そして、地域から選ばれる「ヴォーリズの訪問看護」として、誇りを持って質の高いサービスを提供していきたい。

ホームヘルパーステーション ヴォーリス

ホームヘルパーステーション ヴォーリス

【スタッフ】

常勤介護従事者 3 名

うち管理者 1 名（サービス提供責任者・介護従事者兼務）

サービス提供責任者 1 名（介護従事者兼務）

非常勤介護従事者 8 名

うちサービス提供責任者 1 名、非常勤事務職員 1 名

	常 勤	非常勤	資 格 等
管理者	1 名（サービス提供責任者 兼務）		介護福祉士
サービス提供責任者	1 名		介護福祉士
介護従事者	1 名	7 名	介護福祉士 実務者研修修了者修了者
事務職員		1 名	

【目標】

- ① 喀痰吸引等ができるヘルパーが 5 名になり、重症ケースにも引き続き対応し、収益に繋げる。
- ② 在宅ヘルパーを希望する人材育成に力を入れ、住み慣れた地域で最期まで暮らせるようにする。
- ③ 働きやすい職場をめざすとともに、安全運転や職員の健康管理にも留意しながら勤務体制を整える。

【活動報告】

平成 29 年度は、「特定事業所加算Ⅰ」を継続していき収益に繋がられた。喀痰吸引の出来るヘルパー5 名が対応し、重症の利用者や、障がいの利用者は増えてきている。喀痰吸引等の手技習得のための研修に 1 名予定

【実績】 訪問回数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
介護 保険	1,147	862	786	809	918	941	1,107	1,104	1,023	851	863	991	11,402
障がい者 支援	124	121	187	132	131	190	138	120	120	160	159	152	1,734

介護保険の初回加算は 50 件とお断りすることなく引き受けていますが、前年より 19 件減になりました。重度の利用者が増え、一日数回の訪問の利用者が増えてきました。介護保険での訪問は、予防訪問介護が 10 月で終了になり、前年より減で（－243 件）、引き続き「特定事業所加算Ⅰ」を取っていき重症の利用者にも対応する。

【教育】

ヴォーリズ記念病院の職員として院内の研修には、全員が参加することができた。外部研修については経験年数に応じ、階層別研修・専門分野研修等に積極的な参加を促進した。引き続き資格習得できる環境を整えていく。

【今後の課題】

訪問従事者 10 名中 8 名が介護福祉士資格を習得し、内 5 名が喀痰吸引等のできるヘルパーとして登録し、重症の利用者に対応してきた。今後も継続して研鑽を重ね、地域から信頼される事業所を目指し、努力をしていきたい。引き続き事業所加算Ⅰを習得し、重症の利用者に対応できる事業所とし、医療依存度の高い人でも最期までご自宅での生活が送れるよう支援する事業所として、特色づけていきたいと考えている。

居宅介護支援事業所

居宅介護支援事業所

【スタッフ】

管理者(主任介護支援専門員)1名 介護支援専門員 5名(内主任介護支援専門員 3名)

【目標】

1. W・M ヴォーリズの創立精神を継承し、「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、利用者の在宅における生活の質の向上を目指しケアプラン作成に取り組む。
2. 里の連携を強化し、地域の各機関との連携にも努め、介護保険制度に基づいた適正な介護サービスを提供する。
3. 事業所内の協力を深め、個々の能力を高め、質の高いサービスを目指し、事業運営の安定を図る。

【活動報告】

新規利用者 60 名を受け入れることができた。その内訳として、在宅 20 名、ヴォーリズ関連施設 12 名、地域包括支援センター 20 名、他施設 6 名、他医療機関 2 名であった。今年度も 6 名体制で運営し、皆の協働のもと、特定事業所集中減算に該当もなく、適正な運営ができた。また、介護支援専門員の合格者の実習の受入れや、県社協からの依頼で、介護支援専門員研修のファシリテーターとして参加したり、特定事業所としての役割を果たせるよう努めた。

【実績】 月別利用者数(給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者人数	197	195	189	190	203	204	209	213	203	196	188	186	197

【教育】

院内研修はもちろんのこと、外部研修にも積極的に参加できるようにし、主に主任介護支援専門員の研修や、難病・看取り・多種職連携に関する研修、個々のスキルに基づいた階層別研修等に参加し、個々のスキルアップに努めた。

【今後の課題】

平成 30 年度も引き続き異動や各役割等ある中、特定事業所として県や行政からの依頼を含めた様々な役割を確実に担えるよう、教育・育成に力を入れ、事業所全体のレベルアップを図りながら、介護保険・診療報酬同時改定に基づき、信頼優先に適正なケアプラン作成と連携の充実に努めたい。

看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家 ヴォーリス」

【スタッフ】

管理者 1 名（看護師）、看護師 7 名（常勤 3 名、非常勤 4 名）、
介護支援専門員 常勤 1 名（介護職兼務）、作業療法士 常勤 1 名（介護職兼務）、
介護福祉士 常勤 3 名、実務者研修修了者 常勤 3 名、初任者研修修了者 常勤 4 名、
事務職 非常勤 1 名（介護職兼務）

【目標】

- ① 地域や『ヴォーリス医療・保健・福祉の里』と連携しながら、地域から必要とされ愛される看多機を運営できる。
- ② 「泊まり」「通い」「訪問（看護・介護）」「ケアプラン」の一体的なサービスにより、最期までその人らしい生活に寄り添いながら温もりのある関わりをする。
- ③ 経営の安定化を目指す。

【活動報告】

看多機事業は、登録利用者 8 名からのスタートであったが最高で 20 名の確保までできた。しかし、重症ケースや在宅療養生活の継続が困難な独居等の方も多く、入院や施設入所・死亡もあり入れ替わりが激しかった。看取りも 3 名あり、地域の開業医等の訪問診療や往診もしていただいている。地域との交流として夏まつりやクリスマス会等の行事をはじめ、運営推進会議にも自治会長や民生委員も出席して頂き、地域の「声」を聞くことにしている。また、登録者以外の訪問看護事業（介保）も 1 月より始め、医療保険・介護保険の利用者が少しずつ増えてきている。

【実績】

看多機 … 登録者数：17 名（平成 30 年 3 月末）
平均介護度：3.1
年間総合計 「泊まり」：1056 人（月平均 96 人）
「通い」：2333 人（月平均 212 人）
「訪問」：1008 回（月平均 34 回）
訪問看護 … 訪問件数：148 件（医保：100 件 介保：48 件）/年

【教育】

内部研修（人権擁護・接遇・個人情報保護管理・法令遵守）には全員参加

個々の目標に準じた外部研修への積極的な支援

（実務者研修、高齢者虐待、認知症ケア、管理者研修、感染予防、リスクマネジメント、
特定行為従事者、リハビリテーション等）

【今後の課題】

地域の方との交流や各関係機関との連携を大切にしながら、登録利用者数 25 名以上の確保と登録利用者以外の訪問看護事業の展開を促進していき、安定経営を目指す。また、利用者やご家族の希望に出来る限り添えるように職員一同温もりのある関わりをしていきたい。

介護予防拠点事業 いきいきサロンヴォーリス

アンドリュース記念館を介護予防事業の拠点として、平成 19 年から介護予防教室、ゴムバンド体操教室、歌声サロン等の活動を概ね週 1 回程度の開催から行なってきた。地域からの高齢者が気軽に集える場所として、また活動を通して介護予防の目的も達している。今後も主として在宅サービス部門が担当し、公益財団本部・病院・老健と協働し、地域貢献事業として継続していく。平成 29 年度は、以下の事業を展開した。

○介護予防教室 テーマ:『一人暮らしでも最期まで我が家で』

	内容	担当・講師	参加数
5 月	「ひとり暮らしの 食生活を考える」	ヴォーリス記念病院 管理栄養士 徳岡 貴美 氏	20 名
7 月	「折り紙教室 P A R T X III」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏	20 名
9 月	「訪問診療の実際」	訪問看護ステーションヴォーリス 在宅看護専門看護師 田村 恵 氏	19 名
11 月	「あたまの体操」	ヴォーリス記念病院 作業療法士 宮本 優子 氏	20 名
2 月	「ひとり暮らしでも 最期まで我が家で」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏	21 名
合計			100 名

○歌声サロン

	参加人数
4 月	20 名
5 月	22 名
6 月	27 名
7 月	20 名
8 月	20 名
9 月	26 名
10 月	32 名
11 月	31 名
12 月	24 名
1 月	25 名
2 月	27 名
3 月	25 名
合計	299 名

○ゴムバンド体操教室（毎週月曜日）

	回数	参加人数
4 月	4 回	33 名
5 月	4 回	34 名
6 月	4 回	36 名
7 月	4 回	38 名
9 月	3 回	22 名
10 月	4 回	24 名
11 月	4 回	28 名
12 月	3 回	22 名
1 月	3 回	22 名
2 月	3 回	22 名
3 月	4 回	32 名
合計	30 回	313 名

礼拝堂

【スタッフ】

チャプレン1名（常勤）

1 礼拝堂

- ① 始業礼拝が定着。礼拝を持って新たな月が始まることの意識が増してきた。
- ② 病床訪問について関係性を築く働きなど意識した。
- ③ ミュージックタイムは毎月実施できた。演奏者も定着

2 全体まとめ

- ① 春季追悼会の参加者は例年に比べ少なかった。なお、病院として定着してきた。病院全体への呼びかけはまだ不十分だが、看護部以外の診療技術部などの参加を期待したい。
委員会主催の行事ではあるが、参加を呼びかけるもスタッフの参加は勤務体制もあり難しいのが現状。院長、理事長の出席は大きな意味を持つ。
- ② 新人オリエンテーションを担当。フォローアップが課題
フォローアップについて具体的な方策、企画ができていない。中途入職者が多い中で一体感を持つことは難しい。現状にあったフォローアップの企画が必要
- ③ 祈りの場
病棟（1，3，ホスピス）各種委員会に於いての「祈り」の定着
目に見える評価ではないが、スタッフの一体感、支えとしての働きとして理解してもらいたい。

3 総括

- ① 100周年に向けて記念誌の発刊作業に関わり、「伝道」の総括を執筆。また歴史を継承するうえで他の委員と協力しつつ、また職員への啓蒙を意識した。記念誌を作成するプロセスを通して100周年に向けての機運を高めた。ヴォーリスだより「プレ100年史」を共同で連載。また当院設立「理念」を尊ぶことを大切にしたい。

在宅療養支援部

【H29 年度活動計画及び実績】

平成 30 年 1 月より、地域包括ケアシステムを『ヴォーリズ医療・保健・福祉の里』で機能強化するために、在宅療養支援病院の役割を進化させ、患者がいつでもどこでも切れ目無い医療・介護を受けられることを目的とし創設しました。

入院から退院及び退院後の支援を繋ぐことにより、『時々入院、ほぼ住宅』の地域ニーズに応えることができます。現在の「患者支援センター」を拡大し、訪問診療機能を統括する部門を創設することで、地域貢献を目指します。

組織は、“診療支援科”“地域医療課”からなり、人員構成は、医師 4 名、看護師 4 名、MSW3 名、事務員 1 名、医療クラーク 2 名、薬剤師、管理栄養士、OT・PT・ST。

業務内容は、①訪問診療マネジメント、②近江八幡・蒲生医師会「在宅療養支援センター」の委託業務、③ベッドコントロールマネジメント業務、④入院時患者情報入力業務、⑤退院前後訪問、退院支援業務、カンファレンス参加、⑥入院支援、紹介患者受け入れ調整・相談業務・営業業務

収益性・費用対効果について、①訪問診療費（緊急往診）8,330 円（+6,500）×件数
②退院後訪問加算 5,800 円×件数、③訪看同行訪問 6,000 円×件数、④機能強化型在宅療養支援 診療報酬、⑤在宅患者訪問栄養指導料 5,300 円（同一建物 4,500 円）、⑥在宅患者訪問薬剤管理料 6,500 円（同一建物 3,000 円）麻薬 1 回 1,000 円、栄養・薬剤制限あり。

【H30 年度の課題】

①医師会からの委託事業に関して、地域在宅療養支援センターの事業目的・内容、事業主体、対象、人員構成について確認する必要がある。今後は在宅医療に関するアンケート調査、毎月の応需可能な医療資源の調査、情報整理を行い、6 月からの稼働を目指している。

②在宅訪問（リハビリ、薬剤師、栄養士）について、介護保険で訪問する際は、指示書に加え規約書、同意書、毎月の計画書等が必要であり、ケアマネを通して介護保険サービスとして計画を作成する必要がある。訪問指導する対象はほぼ介護認定患者であり、まず他病院への情報収集や医事課を巻き込んだ調査を行い、必要書類や流れについて各部署で作成していく。

医療安全管理室

【スタッフ】

常勤職員 3名

【目標】

1. 医療事故の未然予防活動をおこない、重大事故を防止する。
2. 医療安全管理加算の算定基準を確認し、マニュアルの見直し及び、体制を整える。

【活動報告】

医療安全管理責任者（専任）・医療機器安全管理責任者・医薬品安全管理責任者を配置し、安全管理に関する院内の体制の構築、委員会等の各種活動の円滑な運営を支援した。また、医療安全に関する職員への教育・研修、情報の収集と分析、対策の立案、事故発生時の対応、再発防止策立案、発生予防および発生した事故の影響拡大の防止等に努めた。医療安全報告システムの統計分析により、転倒転落の発生頻度が高いため、環境を整える関わりや、転倒防止のためベッドの安全点検を行い、管理を一元化した。

医療安全管理加算 2 の算定を行える体制をとり、3 月から算定が開始となった。

【実績】

1. 月 1 回の委員会開催
2. 推進カンファレンス開催（毎週月曜日）
3. 年 2 回の医療安全研修の企画と運営
4. 医薬品管理者による年 1 回の研修の企画と運営
5. 医療機器安全管理者による年 1 回の研修の企画と運営
6. 医療事故報告システムの運営（情報収集と分析、対策立案、フィードバック、評価）
7. リスクマネジメント部会への参加（リスクマネージャーと連携）
8. 月 1 回の院内 5 S ラウンドの実施と評価
9. 各部署のカンファレンスの参加
10. 医療安全管理指針・医薬品管理マニュアル・医療機器安全管理マニュアルの見直しと改訂
11. 入院患者相談窓口：医療対話推進者（医療メディエーター）
12. 医療安全情報の配信
13. 院内ラウンド（1 回/日）
14. 院内・外研修の参加

【教育】

1. 院内研修
 - 1) リスクマネジメント部会：リスクマネージャーへ、医療安全報告システムの操作方法について
 - 2) 新人オリエンテーション：医療安全の基礎知識と医療安全報告システムの操作方法について
2. 院外研修
 - 1) 医療コンフリクト・マネジメントセミナー・フォローアップセミナー2回参加
 - 2) 医療の質・安全学会参加：発表
 - 3) アクシデント・インシデント分析
 - 4) 「Safe Master を用いたインシデント報告項目の工夫と改善対策への活用」
 - 5) 平成 29 年度医療安全対策窓口担当者研修会

【今後の課題】

1. 医療安全管理及び危機管理を徹底する（医薬品・医療機器・環境整備）。
2. 医療安全管理者を中心に活動を継続し、医療安全体制を推進する。
安全管理体制を組織内に根づかせることで、安全文化の醸成を促進し、患者及び職員の安心・安全な医療量の提供につなげる。

医療情報管理課

【スタッフ】

診療情報管理士（1名）、システム管理者（1名）、医療クラーク（7名うち非常勤1名）
医局秘書（1名） 計 10 名

【目標】（大分類）

- ① 電子カルテリプレイスを成功させる。
- ② システムの安定稼動に努める。
- ③ 医療の質の向上に努める。
- ④ 医師の事務的負担軽減に努める。
- ⑤ 時間外の削減に努める。

【活動報告】

診療情報管理

- ① 開示等 4 件 → 裁判関係資料…3 件、遺産相続関連…1 件
- ② 全国がん登録件数 93 件

システム

- ① 電子カルテリプレイスの為、3 社に絞りプレゼンを実施
- ② 安定稼動を可能にする為、院内利用のサーバ機器類を一新

医療クラーク

- ① 時間外の削減前年度比率 70%を超える削減
- ② 電子カルテリプレイス後における電子カルテ操作取得により、医師への電子カルテ操作補助が容易に行えた。

【実績】

- ① 医師事務作業補助研修 2017 年 6 月 24 日～6 月 25 日 大阪：新梅田研修センター
- ② 近江八幡市立総合医療センター緩和外来 2017 年 11 月 9 日～ 開始
- ③ 全国がん登録業務 平成 29 年 1 月から 12 月までの登録数 … 93 件
- ④ 電子カルテリプレイス導入

【今後の課題】

- ① 院内ネットワークの安定化
- ② 情報セキュリティの強化
- ③ 診療情報管理士育成
- ④ DPC 請求業務 体制整備

2017年(H29年1月～12月) 疾病別 年齢階層別 性別 退院患者数

ICD大分類			合計	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	平均年齢
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	男	9	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	2	2	81.7
		女	23	0	0	0	0	3	2	0	0	4	4	4	6	77.7
		合計	32	0	0	0	0	3	2	1	2	4	6	6	8	
Ⅱ	新生物	男	119	0	0	0	0	2	3	18	20	16	20	25	15	78.1
		女	119	0	0	0	0	3	4	24	11	18	23	15	21	69.5
		合計	238	0	0	0	0	5	7	42	31	34	43	40	36	
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	85.7
		女	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3	84.3
		合計	9	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	4	
Ⅳ	内分泌・栄養及び代謝疾患	男	9	0	0	0	1	0	1	1	0	3	0	0	3	75.2
		女	6	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	1	80.3
		合計	15	0	0	0	1	0	2	1	0	4	1	2	4	
Ⅴ	精神及び行動の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	5	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	74.0
		合計	5	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	
Ⅵ	神経系の疾患	男	24	0	0	1	0	0	1	2	3	2	5	9	1	78.3
		女	18	0	0	0	0	0	0	1	1	4	9	1	2	81.4
		合計	42	0	0	1	0	0	1	3	4	6	14	10	3	
Ⅶ	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅷ	耳及び乳突突起の疾患	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	91.0
		女	5	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	1	70.8
		合計	6	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	2	
Ⅸ	循環器系の疾患	男	79	0	0	1	1	3	5	18	14	6	14	10	7	73.3
		女	81	0	0	0	0	2	1	7	7	12	12	16	24	82.4
		合計	160	0	0	1	1	5	6	25	21	18	26	26	31	
Ⅹ	呼吸器系の疾患	男	58	0	0	0	0	0	5	1	6	8	13	11	14	81.0
		女	39	0	0	0	0	4	2	0	4	3	3	8	15	81.6
		合計	97	0	0	0	0	4	7	1	10	11	16	19	29	
ⅩⅠ	消化器系の疾患	男	32	0	0	1	0	1	2	8	8	8	2	1	1	69.7
		女	46	0	0	0	0	2	2	3	4	1	12	8	14	82.4
		合計	78	0	0	1	0	3	4	11	12	9	14	9	15	
ⅩⅡ	皮膚及び皮下組織の疾患	男	5	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	76.6
		女	18	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	8	4	86.8
		合計	23	0	0	0	0	0	0	0	3	2	6	8	4	
ⅩⅢ	筋骨格系及び結合組織の疾患	男	10	0	0	0	0	1	0	0	0	3	2	3	1	78.9
		女	17	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	8	3	83.5
		合計	27	0	0	0	0	1	1	1	1	4	4	11	4	
ⅩⅣ	腎尿路器系の疾患	男	7	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	1	83.3
		女	12	0	0	0	1	0	0	0	1	0	5	1	4	82.4
		合計	19	0	0	0	1	0	0	0	1	2	7	3	5	
ⅩⅤ	妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅦ	先天奇形、変形及び染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0.0
		合計	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
ⅩⅧ	症状、徴候及び異常臨床所見・ 異常検査所見で他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	7	0	0	0	0	0	0	0	5	1	1	0	0	74.9
		合計	7	0	0	0	0	0	0	0	5	1	1	0	0	
ⅩⅨ	損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	61	0	0	0	1	1	2	9	4	7	18	14	5	78.1
		女	141	0	0	0	1	0	5	9	7	11	18	38	52	84.4
		合計	202	0	0	0	2	1	7	18	11	18	36	52	57	
ⅩⅩ	傷病及び死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅩⅠ	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健 サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 数			961	0	0	3	5	23	39	106	103	114	179	187	202	78.6

2017年(Ｈ29年1月～12月) 疾病別 在院期間別 性別 退院患者数

ICD大分類			合計	1～7	8～14	15～21	22～30	31～60	61～90	3月～6月	6月～1年	1年～2年	2年～	3年～	平均 在院日数
I	感染症及び寄生虫症	男	9	1	1	1	3	0	0	3	0	0	0	0	52.8
		女	23	4	7	3	1	6	1	0	1	0	0	0	33.3
		合計	32	5	8	4	4	6	1	3	1	0	0	0	
II	新生物	男	119	37	34	12	13	15	3	4	0	1	0	0	24.0
		女	119	29	15	21	15	26	5	6	2	0	0	0	29.9
		合計	238	66	49	33	28	41	8	10	2	1	0	0	
III	血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	男	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	29.0
		女	6	1	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	24.3
		合計	9	3	2	0	0	2	2	0	0	0	0	0	
IV	内分泌・栄養及び代謝疾患	男	9	2	2	2	0	2	1	0	0	0	0	0	23.7
		女	6	2	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	31.0
		合計	15	4	3	2	1	3	2	0	0	0	0	0	
V	精神及び行動の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	5	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	19.6
		合計	5	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	
VI	神経系の疾患	男	24	3	3	2	3	5	2	3	0	2	0	1	116.3
		女	18	1	1	3	2	1	1	4	1	2	0	2	326.5
		合計	42	4	4	5	5	6	3	7	1	4	0	3	
VII	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
VIII	耳及び乳様突起の疾患	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8.0
		女	5	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	20.4
		合計	6	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
IX	循環器系の疾患	男	79	16	5	7	7	9	11	23	0	1	0	0	65.6
		女	81	8	8	8	10	12	9	23	0	1	0	2	120.0
		合計	160	24	13	15	17	21	20	46	0	2	0	2	
X	呼吸器系の疾患	男	58	11	9	9	6	6	6	4	5	2	0	0	67.3
		女	39	5	4	8	9	8	2	2	0	1	0	0	46.3
		合計	97	16	13	17	15	14	8	6	5	3	0	0	
X I	消化器系の疾患	男	32	14	7	4	3	4	0	0	0	0	0	0	13.7
		女	46	14	9	8	0	9	4	2	0	0	0	0	26.2
		合計	78	28	16	12	3	13	4	2	0	0	0	0	
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	男	5	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	29.6
		女	18	0	0	1	1	7	4	2	2	0	0	1	207.1
		合計	23	0	1	3	2	7	5	2	2	0	0	1	
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	男	10	2	0	1	0	3	2	0	1	0	0	1	235.5
		女	17	1	0	3	3	3	5	2	0	0	0	0	48.0
		合計	27	3	0	4	3	6	7	2	1	0	0	1	
X IV	腎尿路性器系の疾患	男	7	0	1	3	1	0	2	0	0	0	0	0	34.0
		女	12	3	0	1	1	1	2	3	1	0	0	0	75.8
		合計	19	3	1	4	2	1	4	3	1	0	0	0	
X V	妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VI	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VII	先天奇形、変形及び染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	22.0
		合計	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
X VIII	症状、徴候及び異常臨床所見・ 異常検査所見で他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	7	0	2	3	0	1	0	0	0	0	0	1	231.0
		合計	7	0	2	3	0	1	0	0	0	0	0	1	
X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	61	4	5	2	6	20	17	6	0	1	0	0	56.8
		女	141	3	3	5	6	50	60	13	0	0	0	1	73.0
		合計	202	7	8	7	12	70	77	19	0	1	0	1	
X X	傷病及び死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因及び 保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 数			961	167	122	110	95	192	142	100	13	11	0	9	65.6

2017年(H29年1月～12月)
診察圏別 診療科別 退院患者数

		全科	内 科	循環器科	呼吸器科	外 科	神経内科	総合診療科	緩和ケア	脳 外	リハビリ
東近江	近江八幡市	688	30	1	72	226	60	90	114	50	45
	蒲生郡	52		1	6	19	4	2	8	7	5
	東近江市	137	5	1	8	40	12	3	43	11	14
大津	大津市	9			1				6	1	1
湖南	草津市	0									
	栗東市	6			2	1			3		
	守山市	3				1			2		
	野洲市	16			1	2	4	1	6	2	
甲賀	湖南市	4							4		
	甲賀市	2			2						
湖東	彦根市	22	1		2	9	2	3	2		3
	愛知郡	10			2	2	2		3		1
	犬上郡	2				1	1				
湖北	長浜市	4			1				1	2	
	米原市	0									
湖西	高島市	0									
他府県		6	1		1	1			3		
不明		0									
総数		961	37	3	98	302	85	99	195	73	69

2017年(H29年1月～12月)
診察圏別 診療科別 退院患者数(近江八幡市・蒲生郡)

		全科	内 科	循環器科	呼吸器科	外 科	神経内科	総合診療科	緩和ケア	脳 外	リハビリ
近江八幡市	八幡学区	175	8		16	64	19	25	28	12	3
	島学区	62	4		2	22	8	10	8	4	4
	岡山区	73	2		14	27	3	7	10	6	4
	金田学区	95	5		24	30	4	7	13	7	5
	桐原学区	90	4		3	26	9	15	16	8	9
	馬淵学区	33	1		2	13	2	4	7	1	3
	北里学区	44			3	8	3	5	10	9	6
	武佐学区	49	2		2	19	3	7	6	3	7
	安土学区	57	2		6	15	8	6	16		4
	老蘇学区	10	2	1		2	1	4			
近江八幡市 総数		688	30	1	72	226	60	90	114	50	45
蒲生郡	竜王町	44		1	4	16	4	2	7	6	4
	日野町	7			1	3			1	1	1
	蒲生町	1			1						
蒲生郡 総数		52	0	1	6	19	4	2	8	7	5
合計		740	30	2	78	245	64	92	122	57	50

経営企画室

【スタッフ】

常勤職員 2 名

【目標】

- ・地域における患者ニーズの分析や役割（機能）を認識し、地域包括ケアシステムにおける当院の特色を活かす。
- ・地域への発信力を強化するために広報活動の充実と地域との関わり・協働を図る。
- ・地域連携の推進(病病・病診)を進め、健全経営に寄与する。
平成 30 年度ダブル改定に備え、情報収集を積極的に行う。
- ・病院各職種の要員確保をするために年間計画を立案し、特に看護・介護職のリクルート活動をサポートする。各地域別・各学校別に今後の方針を見極める。
- ・病院経営を圧迫している医業支出の分析を行い、健全経営に寄与する。

【活動報告】

- ・経営戦略会議では進行役を務め、議題に沿った資料作成を行った。
- ・予算進捗についてレビューミーティングの開催を行った。
- ・B S C の導入に向けて、日本医療経営機構の支援をいただき、院内の全部署へのヒアリングを実施し、当院独自の B S C シートを作成した。
- ・病床管理ミーティングを継続実施。参加者は理事長、院長、事務長、事務部長、看護部長、MSW、経営企画室。月・水・木・金曜日の午前 8：30～8：35 に週単位の入院予定を確認し、1 日の行動計画を確認する。入院待機患者のトリアージや各病棟における経営管理に必要なデータ確認を実施
- ・リクルート活動を精力的に行い、病院見学会を開催した。
- ・病院 100 周年に向けて、記念史編纂委員会に参加
- ・地域医療懇談会の開催（地域の開業医との懇談会）。地域の開業医との連携の充実・推進のため、関連各部署と連携し取り組んだ。
- ・病院ホームページへ院内のお知らせを適時アップした。
- ・地域への出前講座の推進役になった。
- ・院内行事への参画
- ・お中元・お歳暮の手配
- ・年報の作成業務
- ・電子カルテリプレイスプロジェクトに参画
- ・アイデンティティの構築委員会の事務局として活動

【実績】

- 5/25（木） 開院 99 年記念祝賀会&新入職員歓迎会の準備・運営
- 8/10（木） 病院見学会の実施（参加者 3 名）
対象：看護師有資格者・看護学生・看護学校入学希望者
- 9/10（日） 近江八幡市主催「健康フェスティバル」参画
- 11/2（木） 医療懇談会の開催（参加開業医 7 医院）
内容：「当院の地域包括ケア病床の現状と今後の展望」
「看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家 ヴォーリズ」現在の運営状況」
- 11/12（日） 「ヴォーリズいのちのケア講演会」参画
- 平成 29 年度「出前講座」の実施（計 14 回、参加者：394 名）

開催日	依頼先	演題	参加者
5 月 24 日	小船木町老人クラブ	認知症について	25 名
7 月 5 日	ふれあいサロンむつみ会（安土）	生活習慣病を知ろう	16 名
7 月 26 日	新日本婦人の会安土支部	病院紹介、施設見学 「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」	11 名
9 月 8 日	倉橋部町ふれあいサロン	これからの生き方、支え方	16 名
9 月 15 日	北ノ庄町北友会（老人会）	住み慣れた地域で最期まで暮らすために ～在宅サービスを利用して～	47 名
10 月 16 日	八幡学区第三区ふれあいサロン	老いても自分らしく生活するために ～認知症を中心に～	19 名
10 月 27 日	野洲市民生委員会	緩和ケアと地域包括ケアについて	25 名
11 月 11 日	武佐コミュニティーセンター	健康維持 ～運動の効果・効用～	24 名
11 月 15 日	馬淵コミュニティーセンター	正しい薬の使い方	40 名
12 月 2 日	馬淵学区社会福祉協議会	いつもまでも 健やかに暮らし続けるために ～毎日の食生活を振り返ろう～	83 名
12 月 8 日	金田町老人クラブむつみ会	生活習慣病を知ろう	23 名
2 月 20 日	多賀町長寿会	高齢者が健康で楽しく生きるために	21 名
2 月 26 日	十七・すこやかクラブ（安土）	病気と治療について	14 名
3 月 2 日	安土地区サロン活動金曜会	家庭でできる減塩食	30 名

➤ 院内行事「病院追悼会」「介護予防教室」参画

➤ リクルート活動

＜県内＞

- ・訪問 … 高等学校 12 校、 専門学校 3 校、 大学 1 校
- ・病院説明会（専門学校 3 校、大学 2 校）
- ・滋賀県看護協会主催「看護職員就職説明会」（8／2、2／21）
- ・「企業と高等学校等進路担当教諭を対象とした情報交換会」（5／24）

＜県外＞

- ・訪問 … 京都府（高等学校 1 校、専門学校 2 校）・長崎県（高等学校 3 校）
- ・病院説明会 … 鹿児島県（高等学校 1 件）
沖縄県（高等学校 1 件、専門学校 1 件）

＊修学生制度の利用や就職に繋げることができた。

【教育】

＜院外研修＞

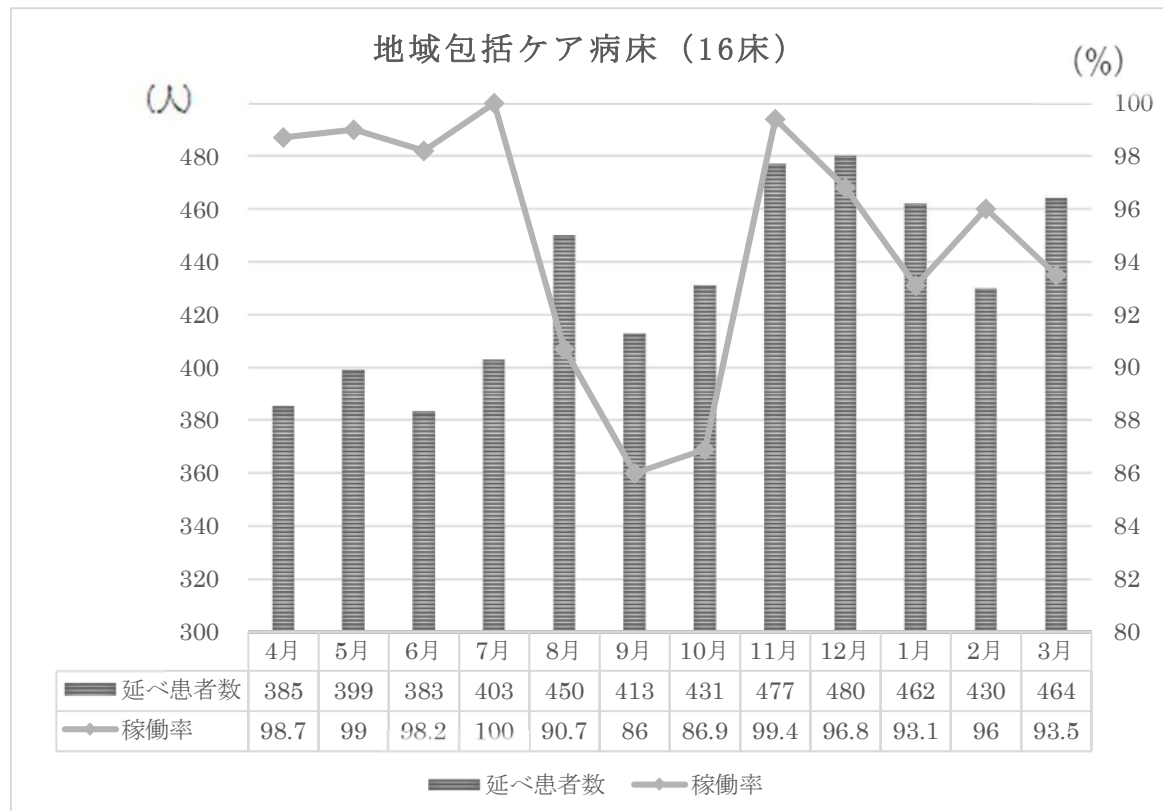
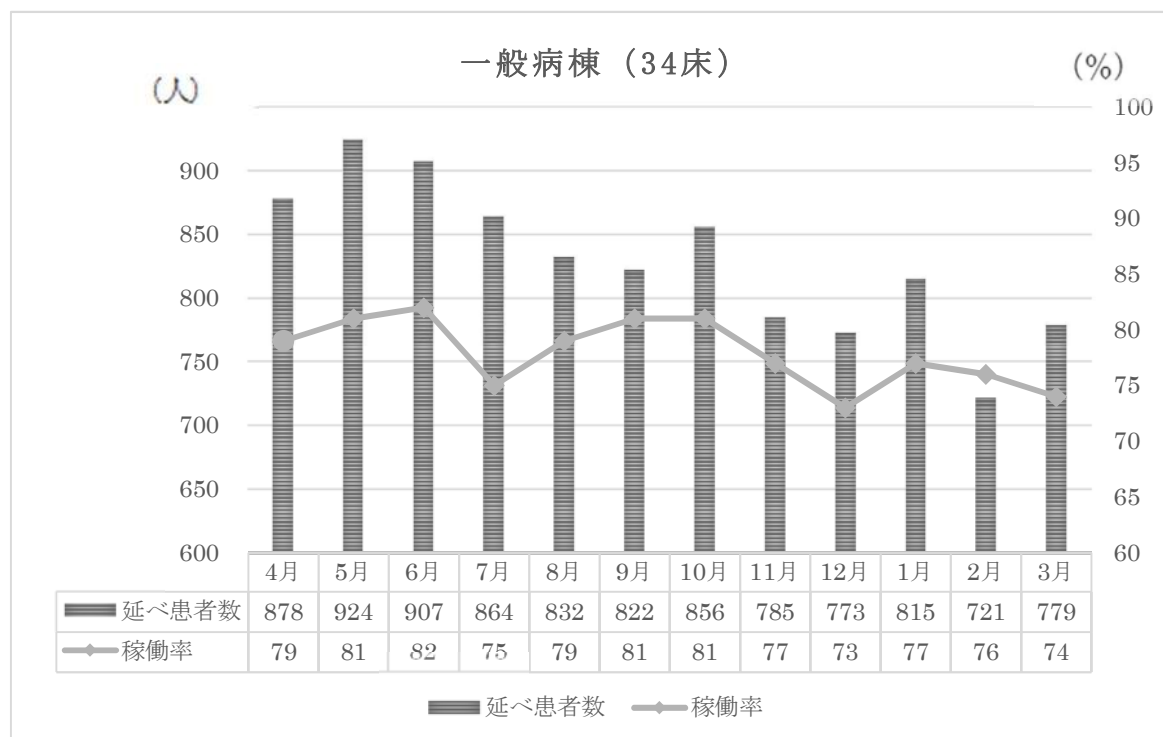
- ・2018 年度同時改定における病床再編を見据えた医療機関の経営戦略（4／15）
- ・実践！適時調査対策「ズバリ、施設基準、届出医療の管理はこう行う」（4／26）
- ・日本医療経営機構 医療経営人材育成プログラムスタートワークショップ（5/26・5/27）
- ・2016 年度の看護師転職動向と市場分析についてのフォーラム」（7／26）
- ・介護報酬改定の最新動向を徹底解説（9／15）
- ・千葉愛友会病院へ事務リーダー研修（10／12・10/13）
- ・日本医療経営機構 医療経営フォーラム（10／26）
- ・日本医療経営機構 ファイナルワークショップ（1/26・1/27）
- ・日本医療経営機構 第 6 回ケース研究会（3/24）

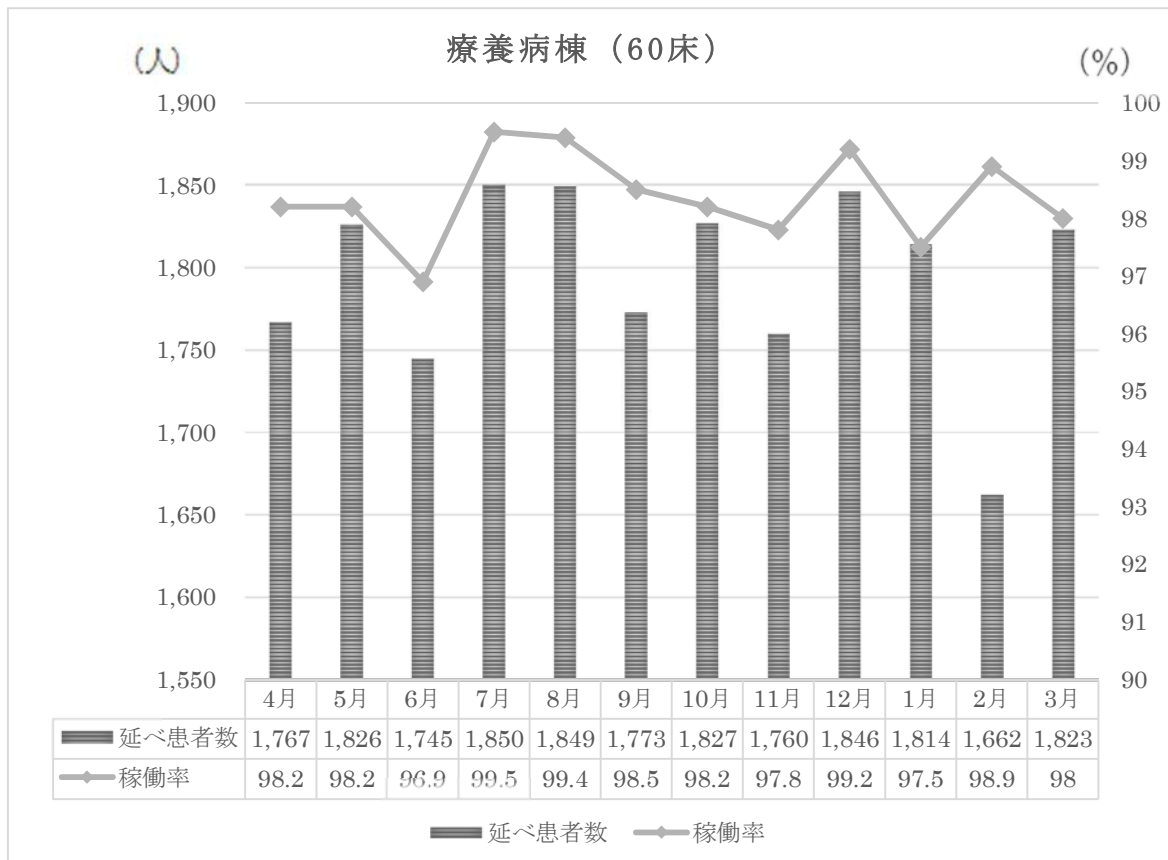
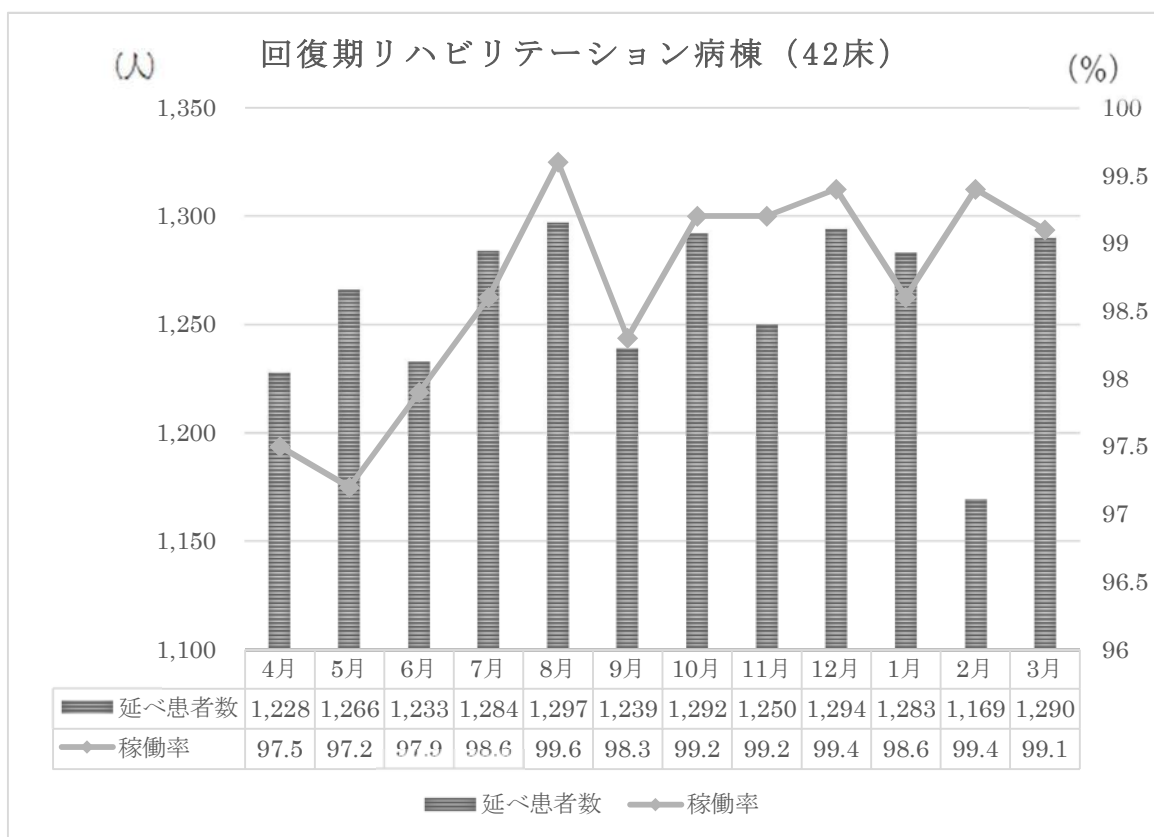
【今後の課題】

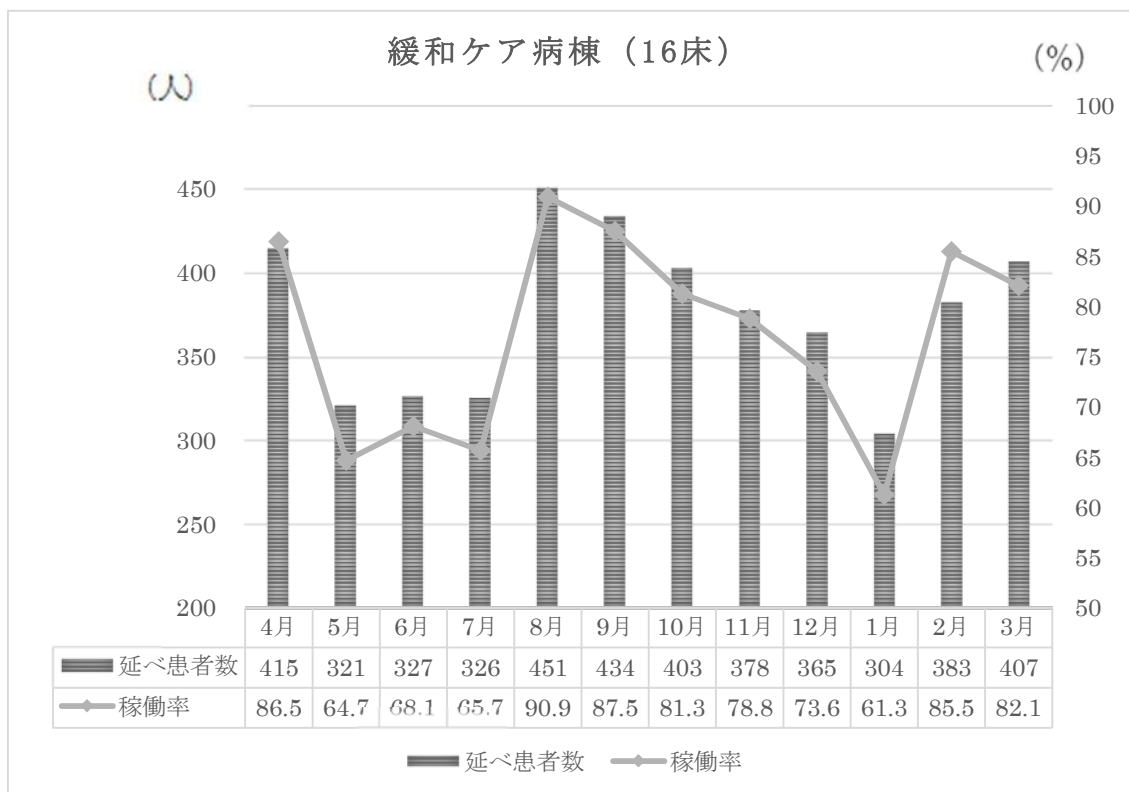
- ・引き続き、各種医療情報の収集及び提案する基盤となる室の立ち位置を再確認し、業務の整備を進める。
- ・別館老朽化に伴う新病院建設に向けた提言や策定事務業務
- ・予算書の作成と予算進捗管理
- ・人件費増大に伴う適正人員数の分析と経費削減計画を作成
- ・法人全体のグランドデザイン作成に参画する。
- ・次世代に向けての人材確保。計画に基づいたリクルート活動を行い、要員確保に向けて中長期のリクルート計画表を作成し遂行する。
- ・地域に向けての広報活動の充実
- ・B S C による事業計画作成と B S C シートの運用を開始

病院指標（平成 29 年度）

◎ 病棟別延べ患者数と稼働率







◎ 病棟別平均在院日数（日）

病棟	平均
一般病棟	18.0
地域包括ケア病床	33.5
回復期リハビリテーション病棟	74.2
療養病棟	179.3
緩和ケア病棟	22.3

◎ 訪問診療件数（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30	35	32	35	28	42	29	39	31	30	31	35	397

◎ 病棟・外来別医業収入

(単位：円)

	H28 年度	H29 年度	増減
一般病棟	341,788,406	309,190,137	▲ 32,598,269
地域包括ケア病床	147,897,309	164,166,889	16,269,580
回復期リハビリテーション病棟	544,797,040	586,303,192	41,506,152
療養病棟	400,140,566	434,314,758	34,174,192
緩和ケア病棟	210,999,893	224,356,176	13,356,283
外来	264,166,374	248,605,381	▲ 15,560,993
合計	1,909,789,588	1,966,936,533	57,146,945

※自費、室料差額等は含まない。

◎ 病棟・外来別一日当たりの入院平均単価

(単位：円)

	H28 年度	H29 年度	増減
一般病棟	30,416	31,034	618
地域包括ケア病床	27,135	31,710	4,575
回復期リハビリテーション病棟	35,738	38,770	3,032
療養病棟	16,147	20,160	4,013
緩和ケア病棟	47,984	49,701	1,717
外来	9,523	11,057	1,534
合計	166,943	182,432	15,489

委員会報告

会議・委員会組織図

特定事項に関する委員会

教育委員会
委員長 神 千草子
接遇委員会
委員長 村松 淳子
人権委員会
委員長 周防 正史 (窓口) 小松 知史
全人的ケア推進委員会
委員長 安部 勉
給与・規約委員会
委員長 澤谷 久枝
倫理委員会
委員長 周防 正史
広報委員会
委員長 安部 勉
ボランティア委員会
委員長 安部 勉
ワークライフバランス委員会
委員長 周防 正史
IT情報管理委員会
委員長 林 徹夫
クリニカルパス委員会
委員長 周防 正史
薬事協議会
委員長 三ッ浪健一
機能評価委員会
委員長 酒井 英志 (窓口) 澤谷 久枝
図書委員会
委員長 安部 勉
認知症ケア推進委員会
委員長 神 千草子
ハラスメント対策委員会
委員長 小松 知史

法令等に基づく委員会

院内感染防止対策委員会
対策チーム
委員長 周防 正史
褥瘡対策委員会
対策チーム
委員長(専任医師) 北野 晴久 (専任看護師)
1病 濱野 緑 2病 浦谷安美 3病 小林成子 ホスピス 桐畑由美
医療安全管理委員会
委員長 周防 正史
医療安全管理 リスクマネジメント部会
委員長 小西 智子
医療機器安全対策チーム
委員長 鯉江 賢二
栄養管理委員会
委員長 徳岡 貴美
NST委員会
委員長 徳岡 貴美
安全衛生委員会
委員長 古武まゆみ
医療廃棄物管理委員会
委員長 中西 敦史
医療ガス安全管理委員会
委員長 周防 正史
臨床検査適正化委員会
委員長 鯉江 賢二
診療情報管理委員会
委員長 加賀爪優子
新薬新規採用及び治験薬審査・ 血液製剤使用委員会
委員長 三ッ浪健一
個人情報保護対策委員会
委員長 河瀬 ゆかり
自衛消防隊
委員長(隊長) 周防 正史 (防火管理者) 堀井 由高

平成29年(2017年)10月現在

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

会議・連絡会・委員会組織図



2017 年度報告（平成 29 年度） 業務連絡・業務改善委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	澤谷 久枝
委員構成	院長 事務長 看護部長 診療技術部長 在宅サービス部門長 事務部長 看護部（5 名） 検査科（1 名） 放射線科（1 名） 栄養科（1 名） リハビリテーション科（1 名） 医事課（1 名） 地域医療課（1 名） 在宅療養支援課（1 名） 診療情報管理室（1 名） システム室（1 名） 礼拝堂（1 名） 経営企画室（1 名）		
活動内容 （成果）	業務連絡 ・各部署、委員会からの連絡事項 ・在宅療養支援部創設 ・行事、委員会等の調整及び具体的実施の確認 ・人事関係の報告 ・外来医事課受付 6 月より「2 番」のみで対応 ・ホスピスいのちのケア講演会実施（11 月 12 日 ヴォーリス学園） ・近江八幡市主催健康フェスタ協力参加の件 ・看護小規模多機能型居宅介護『友愛の家ヴォーリス』開所につき、各部署・関連事業体に周知 業務改善 ・施設周囲の環境整備の実施の継続 ・基本理念変更。8 月 1 日から実施。10 年ぶりの見直し ・レンタルユニフォーム開始（10 月～全職種） ・退院アンケート、“みなさまの声”に対する改善、回答の実行 ・監査委員会（年 2 回）の継続 ・医療懇談会の継続 9 月 ・電子カルテ更新 NCS&A ミライズに決定。12 月 1 日～ ・パスワード更新年 2 回実施 ・別館、東館、本館自動ドア暗証番号 ・厚生旅行今年度は未実施		
課 題	・決定事項の周知と継続 ・改善へ向けた P D C A サイクルの徹底 ・退院アンケート内容の検討（患者満足度調査と改善） 医療の質向上、環境、設備、職員接遇の向上に繋げる。 ・継続的改善事項の評価。機能評価受審に向けてファイル化する。 ・美化活動の継続		

2017 年度報告（平成 29 年度） 給与・規約プロジェクト委員会			
人員構成			
委員長	澤谷 久枝	副委員長	
委員構成	事務長 事務部長 診療技術部長 看護部長 在宅サービス部門長 職員会：3 名（会長・副会長 2 名） 医師（1 名） 管理課（1 名） 看護師（1 名） 看護助手（1 名） ヘルパーステーション（1 名）		
活動内容 （成果）	・給与・規約プロジェクト委員会メンバー13 名で活動した。 内容は下記に示すとおり 1. 就業規則の見直し ・育児介護休業法改正平成 29 年 10 月 1 日～一年半→2 年間 ・ハラスメント規定・メンタル疾患の復職等 ・就業規則届け出 平成 30 年 3 月 30 日 代表者を全職員から募った。 2. 給与関係 ・夏期賞与（6 月 30 日）・冬期賞与（12 月 22 日）に付いての説明 ・昇給について、予算 8,000 千円のところ実施額 9,122 千円執行 ピッチは 400 円(1 等級)500 円(2 等級)600 円(3 等級)700 円(4 等級)800 円(5 等級)9 月より実施 ・通勤費改正 10 月より 1 kmあたり 20 円→15 円に変更 上限 26,000 円→30,000 円。30 日支給→20.4 日に変更 ・人事制度関連 新評価者への訓練実施 3. 福利厚生関連 ・今年度の厚生旅行は未実施。2 年に 1 度実施するとして予算をキープ 4. その他 ・毎月の損益計算書の説明を継続。着目すべき点についてわかりやすく説明を加えた。固定費特に人件費比率が高騰している。収益率を上げるために損益分岐点の 65%を目標としている旨の理解を深めた。 ・確定給付企業年金決算報告。積立不足について再計算不要の説明 ・1 月 24 日付労働組合(自治労)設立。職員会との棲み分けについて検討		
課 題	・福利厚生についての検討の継続（職員旅行含む） ・昇給額予算の適正化 ・就業規則の見直し（ハラスメント内容の充実） ・自治労との棲み分け。労働協約書を交わし次年度に備える。		

2017 年度報告（平成 29 年度） 自衛消防隊			
人員構成			
委員長	周防 正史 (自衛消防隊隊長)	副委員長	堀井 由高 (防火管理者)
委員構成	地区隊長（1 名） 防火管理者（1 名） 副防火管理者（1 名） 事務部（3 名） 診療技術部（1 名） 看護部（6 名） 里統括防火管理者（1 名）		
活動内容 (成果)	・避難・救出・消化器取扱い訓練 開催 ・第一回目 平成 29 年 9 月 19 日 ホスピス 2 階ホール キッチンからの出火想定 ・第二回目 平成 30 年 3 月 13 日 里 合同訓練 土砂災害によるケアハウス床上浸水・漏電出火想定 竹と毛布を活用した簡易担架作成講習実施 課題：①被災事業所から他事業所への連絡遅延 ②指示命令系統の不徹底による応援者の戸惑い ・初期消火競技会への参加 消火器操法・屋内消火栓操法部門のうち、前者は入賞を果たした。 ・里全体の自衛消防隊組織表、及び病院の非常連絡網の見直しと作成 ・各部署火元責任者の確認と一覧の見直しと作成 ・毎月 1 日を防火・防災デーと定めており、各部署の消防設備を点検し報告するシステムを継続実行		
課 題	・災害時の対処法に対し不備・問題点を抽出し、現在の防災マニュアルの改訂および BCP マニュアルの策定が必要 ・避難用具、備品関係等の事前準備と定期点検。訓練を通して出てきた課題である避難器具新設の検討 ・夜間・休日の応援体制の周知 ・防災、各班（庶務・防災・救護）の役割の徹底と教育 ・平成 28 年 4 月 1 日 消防法令が改定に伴うスプリンクラー・消火器具類・火災通報装置等の抜本見直しあり、法令に抵触しない様見直し要		

2017 年度報告（平成 29 年度） 衛生委員会			
人員構成			
委員長	古武 まゆみ	副委員長	岡田 幸子
委員構成	衛生管理者（2 名）産業医（1 名） 看護部長 外来師長 健診室（1 名） 職員会		
活動内容 （成果）	・ 院内巡視の実施を行い、職場衛生管理に努めた。 ・ 職員健診の実施（夜勤者、放射線に係わる職員は年 2 回実施） ・ おたふく風邪、麻しんの流行を受け、職員に対して麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体価測定を実施し、ワクチン接種を推奨した。 ・ ストレスチェックの実施し、所属長対象に組織分析結果報告会を実施した。高ストレス者の面談を産業医が行った。 ・ 職員に対し、季節性インフルエンザワクチンの接種を行った。 ・ 院内感染防止対策委員会と共同し、針刺し事故防止に取り組んだ。 ・ 7 月入院の結核患者のため、濃厚接触者検診を実施した。対象職員および患者すべてに結核感染は認められなかった。 ・ 衛生管理者 1 名が退職のため交代		
課 題	・ 産業医が 1 名となった。 ・ 衛生委員会の取り組みである「職員健診、職業感染防止対策、メンタルヘルスケア」を継続していく。 ・ 非常勤医師の健診結果が把握されているか確認する。 ・ 職員の麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ抗体低下のワクチン接種を推奨する活動を継続する。 ・ 職員健診後の再検査受診を促し、早期受診・早期対策に努める。		

2017 月年度報告（平成 29 年度） 栄養管理委員会			
人員構成			
委員長	徳岡 貴美	副委員長	久村 良美
委員構成	医師（1 名） 管理栄養士（1 名） 調理師（1 名） 看護師（1 名） 言語聴覚士（1 名） 看護補助者（1 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 行事食について（評価・見直し） ・ 嚥下食について（評価・見直し） ・ 異物混入防止の対策強化(厨房内セロハンテープの使用禁止) ・ 病棟毎の食事に対する細やかな対応の実施 ・ 摂食機能に合わせた食事形態と内容の見直し		
課 題	・ システムトラブルの解消 ・ 嚥下食の質の向上 ・ N S T 加算の継続 ・ 栄養指導件数増加への対策検討 ・ 特別食加算の増加への対策検討 ・ 検査時の延食の対応 ・ 朝食のパンの種類を増やす。		

2017 年度報告（平成 29 年度） 広報委員会			
人員構成			
委員長	安部 勉	副委員長	西山 洋平
委員構成	経営企画室（2 名） 礼拝堂（1 名） 看護助手（1 名） 在宅部門（1 名） リハビリテーション科（1 名）		
活動内容 （成果）	・ ホームページの充実 毎月継続的な更新 ・ 毎月の病院広報誌“ヴォーリズだより”の継続発刊 原稿依頼・編集・校正・発刊		
課 題	・ ホームページ管理体制の確立 情報発信への仕組み作り 広報委員会と経営企画室の役割の明確化 ・ 広報誌の充実 ニーズに沿った情報の発信 ヴォーリズだより運用方法の検討（発刊方法等） ヴォーリズだよりの情報内容の検討 ホームページとヴォーリズだよりの役割の検討 紙面リニューアルを企画、検討、2018 年度、創立 100 周年にあわせて刊行		

2017 年度報告（平成 29 年度） 接遇委員会			
人員構成			
委員長	村松 淳子	副委員長	
委員構成	医師（１名） 看護師・MSW（１名） 医事課（１名） 薬局（１名） 老健センター（３名） 看護助手（１名） 居宅（１名） ケアハウス（１名） １０名		
活動内容 (成果)	・職員の接遇に関する意識、質の向上に向けての取り組みを行う。 1、研修会の実施 ＊ヴォーリズの里全体の研修 ・研修実施日、11/8・11/10・11/13・11/15 時間、17:30～18:30 の３回、13:30～14:30 の１回実施し、病院 在宅職員 331 名、老健職員 53 名の合計 384 名の参加があった。 2、各職場での接遇の意識、質の向上 ・毎月の“接遇標語”の設置、意識付けを行う。 委員会メンバーはその確認をしていく。 3、定期会議 10 回実施		
課 題	・接遇研修の組み立て - テーマ・講師・時期の検討 ・接遇標語の実施内容の検討 ・勉強会の実施、意識向上を行えるようにしていく。 ・里全体のメンバーなので、里としての接遇の在り方の検討を行う。 ・職員の接遇への意識向上に向けての取り組み ・意識調査の継続、各職員に向けての意識付け		

2017 年度報告（平成 29 年度） 臨床検査適正化委員会			
人員構成			
委員長	鯉江 賢二	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護師（1 名） 医事課（1 名） 医療情報管理課（1 名） 臨床検査技師（2 名）		
活動内容 （成果）	- 精度管理 外部精度管理：平成 29 年度日本医師会精度管理事業の結果報告 315 満点中、314 点評価 滋賀県医師会・滋賀県臨床検査技師会精度管理事業の結果は、 生化学部門・輸血部門・血清部門・一般部門・血液部門すべて A 評価 内部精度管理：検査センターメディックから問題なしの評価 - その他連絡事項と業務改善について ★メディック緊急検査時間外呼出し体制表の変更 メディック営業の担当者名が変わったのと、メディックでも HIV 抗体 （迅速）検査が可能になりました。この体制表は管理課当直事務に渡しています。 ★来年度から保険点数がなくなり、検査科とメディックで検査ができなくなるもの。 とくに ZTT、TTT、ヘパプラスチンテスト 、全血凝固時間		
課 題	- 検体検査依頼で、来年度から保険申請ができなくなる項目は電子カルテから削除している。<u>前回依頼されたセットをコピペして依頼される場合、4 月から保険点数がなくなった検査項目が入っていることがあり、コピペは控える。</u> - 院内緊急セットと院内検尿セットとガス分析を同時依頼されることがあり、依頼は一つずつ分けて頂く。 院内緊急セットで セット を選択し 依頼 をクリック、そして院内検尿セットで セット を選択し 依頼 をクリック、続けてガス分析は院内緊急（単項目） セット を その他 にして、ガス分析にチェックをして 依頼 をクリックをお願いします。依頼書は 3 枚になります。院内緊急セットと院内検尿セットの場合は依頼書が 2 枚になる。		

2017 年度報告（平成 29 年度） 医療安全管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	木下 ゆかり
委員構成	院長 事務長 看護部長 診療技術部長 医療安全管理者（1 名） 医療機器安全管理者（1 名） 医薬品安全管理者（1 名） リスクマネジメント部会長（1 名） 医療安全推進者（1 名）		
活動内容 （成果）	1. 月 1 回の委員会活動 インシデント報告分析検討、インシデントの中でも重大であると思われるものは部会長が管理委員会に報告 部会長から報告を受けたインシデントの分析検討・改善策の提案 2. 週 1 回の推進カンファレンスの実施 3. 年間教育計画に沿っての研修の企画・実行 4. 医療安全情報の院内配信 5. 院内のアクシデントカンファレンスへの参加、事後対応のフィードバック 6. 看護部以外の部署でのインシデント、アクシデントレポート提出の励行 7. リスクマネジメント部会参加 8. アクシデントレポートの分析、改善策の検討、各部署へのサポート 9. 臨時医療安全委員会の招集。年 9 回招集。レベル 3b 以上全招集でき対策を立てた。 10. 委員会規定・医療安全管理指針のマニュアル見直し 11. 医療安全に関する職員教育。研修会開催 新採用対象・全職員対象 2 回開催 12. 月 1 回の院内 5S ラウンドとフィードバック 13. ベッドの点件と修理・台帳管理 14. 車いす管理（現状と分析・検討） 15. 参加での研修で R C A 分析・K Y T 施行 16. 医療安全管理加算 2 算定準備と、開始 17. 医療安全報告システムの変更の検討 18. 医療安全報告システムの一般公開		

課 題	・ リスクマネージャーの指導力アップと継続した教育 ・ 職員の意識向上に向けた研修、教育の実施 ・ 医療安全管理マニュアルの見直し継続 ・ 暴力対策マニュアルの見直し、フロー作成 ・ 転倒転落提言に向けた検討 ・ 院内の医療事故報告システムの公開閲覧の推進
-----	---

2017 年度報告（平成 29 年度） リスクマネジメント部会			
人員構成			
部会長	小西 智子	副委員長	
委員構成	部会長（1 名） 医局（1 名） 薬局（1 名） 栄養、給食科（1 名） 看護部（5 名） 放射線科（1 名） 医事課（1 名） 診療支援科（1 名） 地域医療課（1 名） リハビリテーション科（1 名） 管理課（1 名）		
活動内容 （成果）	1. 毎月のインシデント報告と集計 H29 年度のインシデント集計、報告会開催 2. 困難事例の対策の検討 3. 医療安全委員会との連携（委員会の検討内容の伝達） 4. リスクマネジメント研修会の開催と参加の推進 5. 職員への医療安全報告システムへの報告の推進 6. 医療安全報告システム管理についての検討会及び運営		
課 題	・インシデントレポートの報告の推進 ・リスクマネージャーに対する教育 カンファレンスの持ち方、内容、分析の仕方、職員に対する指導など レベルアップが必要なため各部署における R C A 分析の実施 ・5 S 研修の実施とラウンドの実施 ・アクシデント報告を迅速に行い、最善の改善策を検討し再発防止に努める。 ・リスクマネージャにより、事象レベル 0 の報告を推進する。 ・院内の医療事故報告システムの公開閲覧の推進		

2017 年度報告（平成 29 年度） 教育委員会			
人員構成			
委員長	4 月～8 月 我妻 勇樹 9 月～3 月 神 千草子	副委員長	
委員構成	看護部（1 名） 診療技術部（1 名） 事務部（1 名） 在宅部門（1 名）		
活動内容 （成果）	1、『院内ウォーク』（他部署体験） 《参加対象者》 平成 29 年度の新入職者、平成 28 年度途中採用者 《実施日》 9 月 14 日・15 日・21 日・22 日 《目的・内容》 ＊各部署の業務内容を見聞きし、自分の業務との関わりを理解する。 6～7 人程度のグループで病院、在宅部門の全部署を回って業務内容等のオリエンテーションを受ける。各自で得た気づきをレポートにまとめる。 レポートは PDF に落とし、share に保存 2、『高齢者疑似体験（インスタントシニア）』 《参加対象者》 各部より参加者を募り計 12 名で実施 《実施日》 1 月 23 日（火）16 時～17 時 《目的・内容》 滋賀県社会福祉協議会 中原孝志様を外部講師として迎え、年齢を重ねることによる五感の低下を様々な用具を用い体験することで高齢者への関わり方、配慮等を個々の立場で理解を深める。		
課 題	《他部署体験》 ・予定通り進めたが、昨年と同様、部署の説明時間に差があり、時間を持て余すこともあった。アンケートより、全く知らなかった現場を知り、他部署の苦労大変さを感じ取ることができた。 《インスタントシニア体験》 ・非常にいい体験となっているので、今後未体験者を中心に来年度も継続していく。		

2017 年度報告（平成 29 年度） 全人的ケア推進委員会			
人員構成			
委員長	菊田 裕子	副委員長	
委員構成	医師（2 名） 看護師（2 名） 管理栄養士（1 名） 薬剤師（1 名） チャプレン（1 名）		
活動内容 （成果）	【定例委員会】 第 3 火曜日 14:00～14:30 （1 回/月開催） 【事例検討会】 ・6/27(火) ホスピス 栄養科 8/22(火) 1 病棟 薬局 11/28(火) 2 病棟 リハ科 2/27(火) 3 病棟 地域医療課 会開催日の 17:30～18:30 に実施 ・参加率を増やすための呼びかけ方法は、昨年度からの持ち越し課題・・・ 今年度はポスター掲示に加え、関連部署および主治にメール案内実施 ・昨年に引き続き進行をスムーズに行う目的にて、直前の委員会では予め事例を読み内容を把握 ・1 か月前には事例紹介と論点を記載した案内をポスター掲示した。 ・参加率は、病棟師長や委員スタッフの呼びかけにより、関連部署からの参加は昨年より多く見られた。 ・事例を通して意見交換を行う事により、キュアな関わり方の見直しができる。 【がんセミナー】 今年度テーマ「がんと一緒に生きる」 第 1 回 1/20(土) 滋賀県立総合病院 川上氏 第 2 回 2/27(土) 当院地域医療課 加藤氏 第 3 回 3/13(土) 当院ホスピス患者様ご家族 田辺氏 開催日の 14:00～16:00 に実施 ・昨年は『治療・医療』中心の内容で実施し、終了後のアンケートより『こころのケア』、『患者様ご家族の体験談』を聞きたいという意見が多かった事から、上記内容に論点を絞った内容を取り入れ実施 ・がんと付き合っていくために有効な情報として、1 回目はがんリハについて、2 回目は経済的支援について、3 回目は体験談をそれぞれ講義いただいた。		

	・今年度最後の回にアンケートを実施。今年度最も印象に残った講義内容は患者ご遺族の体験談という結果に。今後取り上げてほしい事項として最新の癌治療という意見が多かった。 ・参加者は例年同様リピーターの方が9割 ・トラブルなく3回ともに終了 【追悼会】 春 5/21 13組 26名 秋 10/21 3組 6名 ・春の開催時は2010年以降2番目に多い参加人数であったが、秋は少ない。 ・会は2回ともにトラブルなく終了 ・ご遺族と病院スタッフ間で故人への想いを共有する事により、参加した方々は毎回笑顔で帰っていかれるのが印象的な会であった。 ・来年度春の開催は5/19を予定、対象者44名へ案内状発送済み。
課 題	【事例検討会】 ・ポスター掲示とメールでの案内、スタッフ間の呼びかけにより関連部署の参加人数は増えたものの、他部署の参加率が低かった。 ・開催回数を少なくしてでも、病院全体規模にて各部署が共同で1事例を話し合うのはどうか。 【がんセミナー】 ・3回目の参加者が23名と少なかった。 ・参加締め切り時期を12月まで延ばしてはどうか。 【追悼会】 ・2010年以降参加者は毎年減少している。病院としての追悼会の目的・意義を周知と参加継続を検討していく必要あり。 ・委員会行事でなく病院全体行事として取り組むのはどうか。

2017 年度報告（平成 29 年度）		褥瘡対策委員会	
人員構成			
委員長	北野 晴久	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護師（4 名） 管理栄養士（1 名） 薬剤師（1 名） 理学療法士（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 月 1 回の定例委員会 ・ 委員会メンバーでのグループ回診を月 2 回実施 ・ 褥瘡診療計画書を集計して医事課に提供 ・ 褥瘡に対する予防・治療の最先端の知識の周知 ・ 重症褥瘡に対し、週 2 回のバイオフィルム除去 ・ 外科的治療の活用		
課 題	当院では、入院患者に高齢者が多く、褥瘡が発生しやすい環境である。日本褥瘡学会教育セミナーや、褥瘡の治療に関する勉強会、日本褥瘡学会総会などに、積極的に参加し、最新の情報を院内に周知し、当院での治療法を大幅に改訂した。それにより、当院での、治療成績は、著明に改善し、また、スタッフの褥瘡に対する知識が定着して、質の高い医療を提供できるようになった。 しかしながら、重度の褥瘡で療養病棟に入院してきた患者さんは、褥瘡が治ってしまうと、行くところなくなるという、課題が出てきた。また、在宅での褥瘡治療を必要とする患者さんも増えており、訪問医・訪問看護師等も含めたチーム医療を構築していく必要がある。		

2017 年度報告（平成 29 年度） ボランティア委員会			
人員構成			
委員長	安部 勉	副委員長	岡地良一（老健）
委員構成	看護師（1 名） 看護助手（1 名） 在宅部（1 名） 薬剤師（1 名） 医事課（1 名） 管理課（1 名） 礼拝堂（1 名） 老健センター（2 名） 委員長・副委員長を含め、9 名体制		
活動内容 （成果）	・ 第 43 期、第 44 期ボランティア募集（新規 2 名の応募） 募集への作業確認と役割分担 オリエンテーションの実施 ・ 6 月 19 日（土）ボランティアの集い 開催 ボランティア 18 名、職員 9 名参加 ボランティアの歴史を振り返る時とした。 ・ 11 月 24 日（金）クリスマスリース作り ・ 12 月 9 日（土）クリスマス会 患者誘導・移動のお手伝い ・ ボランティアの健康管理と活動支援 健診、インフルエンザ予防接種の案内と実施 ボランティア間、病院、老健との交流会 活動内容、活動時間などの管理 ・ 活動の支援と協力体制 日本病院ボランティア総会等での参加時の予算組み		
課 題	・ ボランティアの募集 秋期募集時、申込なし。 徐々に高齢化と活動人員の減少がすすんでいる。		

2017 年度報告（平成 29 年度） 院内感染防止対策委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	奥野 貴史
委員 構成	院内感染防止対策委員：院長 感染管理者（医師） 看護部長 事務長 薬局長 検査技師長 事務部長 院内感染防止対策チーム：病棟（1 名） 外来看護師 リハビリ科 栄養科 放射線科 地域医療課 医事課 管理課 薬局 代表各 1 名		
活動 内容 (成果)	- 委員会を毎月開催し、臨床検査科より感染症および耐性菌発生状況、薬局より院内抗生物質使用量、看護部より月次病棟別アルコール手指消毒薬消費数および病棟別感染管理対象者数の報告を行った。 - 近江八幡市立総合医療センター、敬愛病院および当院の合同開催である感染防止合同カンファレンスに 5 回参加。月次アルコール手指消毒剤使用状況報告。院内感染管理加算 2 の算定 - ICT チームの院内ラウンドを継続、指摘事項の改善を求めた。 - 全部署に「感染症レポート」を不定期配信、感染症の流行および予防に関する情報を提供し職員の啓蒙を行った。 - 来院者、家族向けに流行している感染症注意喚起ポスターを掲示した。 - 院内感染防止研修会として、「医療従事者の感染症対策」、「HIV 感染症を考える」研修会を全職員向けに実施した。 - 入院患者に結核発症が 1 例発生し、接触者検診を行った。 - ポビドンヨードからクロルヘキシジンアルコール綿棒採用、C V カテーテル関連で使用するよう統一した。 2017 年度院内感染対策講習会（奈良）、その他の院内感染防止対策研修会に医師、薬剤師および看護師が参加した。 「病院感染防止対策マニュアル」の改訂を実施した。 2017 年 4 月入社職員より、水痘・おたふくかぜ抗体を入社健診項目に追加した。 - 感染性廃棄物処理容器（段ボール）の蓋をプラ版に改良した。 - ノロウイルス陽性入院患者にはディスポ食器を使用することとした。		
課 題	機能評価受審に向けてマニュアルの見直し		

2017 年度報告（平成 29 年度） 診療情報管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	加賀爪 優子
委員構成	医 局（1 名） 事務部（1 名） 看護部（1 名） 診療情報管理士（1 名） 診療技術部（1 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 診療記録監査について 7 月に第三者による診療記録等の監査をおこなう。 常勤医を対象に個別指導をおこなった。 (結果) 診療記録内容不備や 1 号用紙の記入漏れが少なくなった。 また、医師からの提案で様式やテンプレートの追加、訂正が行われ、 充実した診療記録などがなされるようになった。 ・ 電子カルテリプレイスについて 診療記録の移行後の記載不備がないよう注意喚起を行った。 (結果) 滞りなく診療記録等の記録がしっかりなされていた。 以前の電子カルテとは違い、記載がしやすくなっている。 サマリーの記載も速やかに行われている。 ・ D P C データ提出加算について 電子カルテリプレイスとからみ、今まで問題なくおこなわれていた提出作業が、医事システムに不具合が生じるようになり提出までの作業に時間を要していた。		
課 題	・ 診療記録監査の重要性は理解されているので、実施するタイミングや監査方法を考える時期である。 ・ 電子カルテ 再更新の時期であるので、今までの課題を念頭に入れて院内での電子カルテ操作等の負担が軽減になるように努めていきたいと考えている。 ・ D P C（データ提出加算） 病院内連携を図っていきたい。		

2017 年度報告（平成 29 年度） 病院機能評価委員会			
人員構成			
委員長	酒井 英志	副委員長	河瀬 ゆかり
委員構成	理事長 事務長 事務部長 看護部長 診療技術部長 事務部（1 名） 看護部（2 名） 診療技術部（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 年度初めに、規程および目標・活動方針の見直しと周知 ・ 9 月 12 日、病院機能改善支援セミナー主催（大阪） 事務部：河瀬 看護部：中野 技術部：酒井 ・ 各部門の自己評価、インジケータの継続的取組み ・ 職員向けの禁煙・受動喫煙アンケート（web）実施 ・ 9 月 28 日、病院医療機能評価受審フォーラム（病院協会主催） 看護部：岡田、久城、増田、湊 ・ 平成 30 年度機能評価受審準備委員会の準備		
課 題	・ 2018 年 4 月開始の新バージョン・3 r d G : V o r . 2 . 0 の情報収集 当該研修・セミナーに積極参加 ・ 文書管理一元化、リスクに対応する事業継続計画等、検討に時間を要する項目の本格準備 ・ 推進リーダーの育成と委員会メンバーのマネージメント能力向上 ・ 各部署、各部門のマニュアルの整備 ・ 禁煙教育の継続的取組み（アンケート実施）		

2017 年度報告（平成 29 年度） 個人情報保護対策委員会			
人員構成			
委員長	河瀬 ゆかり	副委員長	加藤 和幸
委員構成	事務長 看護部長 在宅部（1 名） 放射線科（1 名） 医事課（1 名） 地域連携課（1 名） 診療情報管理室（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 個人情報保護に関する研修会 「医療機関における改正個人情報保護法への対応」 講師 藪本 恭明先生 平成 29 年 9 月 20 日 10 月 10 日 実施 欠席の場合は、身近な個人情報の取り扱いについてのアンケートを提出してもらう。 ・ 本会の規定の見直しを行った。 ・ 改正個人情報保護法の全面施行に基づき、各部署における個人情報保護規程およびマニュアル見直し 各部署に見直し依頼をかけ提出してもらった。 ・ 職員の個人情報の保護について周知を行った。		
課 題	・ 各部署の改正後のマニュアルの見直し ・ 個人情報保護に関する継続した教育と周知		

2017 年度報告（平成 29 年度） クリニカルパス委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	
委員構成	医師（7 名）、 事務長、 看護師（7 名）、 薬局（1 名） リハビリテーション科（1 名）、 検査科（1 名）、 放射線科（1 名）、 栄養科（1 名）、 医事課（1 名）、 医療情報管理課（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 症例件数 0		
課 題	・ 昨年度以前に化学療法のクリニカルパスを作成したが、昨年度に続き本年度も使用実績がなく（対象患者がなく）利用が進まなかった。化学療法に関する新規パスはなし。 ・ 患者層の変化により、ひとつのパスを適用してスムーズに運用できるケースが減少してきたと考察する。今後は画一的パスではなく、柔軟な対応を可能とする仕組みを模索する必要がある。		

2017 年度報告（平成 29 年度） 図書委員会			
人員構成			
委員長	安部 勉	副委員長	
委員構成	礼拝堂（1 名） 事務部門（2 名）		
活動内容 （成果）	・ 情報誌の管理		
課 題	・ 図書の整理・区分 ・ 図書室利用についての方策 ・ 図書室の図書紹介、読書啓発		

2017 年度報告（平成 29 年度） ワークライフバランス委員会			
人員構成			
委員長	田中 潤	副委員長	福本 誠彦
委員構成	医師（1 名） 看護師（3 名） 事務職（1 名） 調理師（1 名） 理学療法士（1 名）		
活動内容 （成果）	・昨年行った全職員対象WLBワークショップインデックス調査アンケートを踏襲し、それを基に活動。有給休暇の取得方法・消化状況と残業時間に着目し、各部署への聞き取り調査を実施。部署毎に問題はあるが、やはり部署格差があり、統一の認識はない。全体を見渡すと、有休休暇は比較的取りやすい現状にあるが、一部では業務分担困難な影響で取得困難となっている部署もある。労働条件の違いから来る業務内容の偏りも取得困難の一因である。 ・インデックス調査アンケート・聞き取り調査の分析は行ったが、そこからどう働き方改革に繋げていくか、明確な発案が出来なかった。来年度以降の懸案事項である。		
課 題	・残業時間や有休取得について。他部門との差があることに関しては、各部署独自の風土、または上司と部下の考え方の違いなどがある。これを是正するには相互の教育、啓蒙が肝要であると考え。 ・有休休暇所得状況を確認し、各部署間での所得格差を示し、各部署に啓発して行く。 ・残業短縮に向けて、各部署での取り組み後の状況確認を行う。		

2017 年度報告（平成 29 年度） IT 情報管理委員会			
人員構成			
委員長	林 徹夫	副委員長	
委員構成	システム室（1 名） 医師（1 名） 看護部（1 名） 経営企画室（1 名） 管理課（1 名） 放射線科（1 名） 薬局（1 名） 医事課（2 名） 栄養科（1 名） リハビリテーション科（1 名） 診療情報管理室（1 名） 診療支援室（1 名） 外部（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 電子カルテシステムリプレースの計画・実施 ・ 電子カルテリプレース後の機能設定や運用対応 ・ システムトラブルに対する報告（原因、対策、再発防止策）		
課 題	・ 電子カルテシステムの円滑な運用 ・ 電子カルテシステムが安定して使える環境の整備 ・ 職員の情報セキュリティに対する意識向上（教育）		

2017 年度報告（平成 29 年度）認知症ケア推進委員会			
人員構成			
委員長	神 千草子	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護部（6 名） 診療技術部（2 名） 事務部（2 名） 経営企画室（1 名）		
活動内容 （成果）	＊委員会開催（年間 11 回 5 月～3 月） 1. 『認知症ケアチームの役割』について作成 2. 院内認知症対応ケアマニュアルの見直し、追加修正 ① 認知症ケアにおける食事対応 ② 滋賀県発行 若年認知症支援マニュアル冊子追加 3. 院内職員対象研修の企画、下記実施 ①全体研修 テーマ「認知症の“ひとの気持ち” part 2」 実施日：9 月 5 日、6 日、11 日 ・昨年度の研修参加率が 4 割弱であったため研修日を 3 日にして企画した結果 80%の参加率であった。アンケート結果より、内容も分かりやすいと評価できた。 ② 各病棟内研修の推進（1、2、ホスピスで実施） ③ 病院勤務従事者向け認知症対応力研修の参加 （MSW 1 名、医事課職員 1 名、作業療法士 1 名） 4. 地域住民に向けての啓蒙活動 ①ヴォーリズだよりへ 3 ヶ月連載 ②出前講座（2 月 20 日 多賀町長寿会）		
課 題	・次年度は職種（事務、専門職）によって研修内容を検討する。 ・院内マニュアルの薬剤の内容は変更ないが、見難い印刷のため次年度検討必要		

2017 年度報告（平成 29 年度） 100 周年記念誌委員会			
人員構成			
委員長	安部 勉	副委員長	藪 秀美（本部事務局長）
委員構成	○編纂チーム 事務長 礼拝堂（1 名） 芹野（財団本部） 経営企画室（1 名） ヤマプラ（3 名） ○作業チーム 医局（2 名） 在宅部門（1 名） 診療技術部（1 名） 管理課（1 名） 看護部（1 名） 経営企画室（1 名）		
活動内容 （成果）	○編纂チーム 100 周年記念誌発行に向けての企画、構成、編集作業 全体構成についての審議、資料発掘、精査 ○作業チーム 病院機関紙、その他、現存する写真などの資料の整理と年表作成 2018 年度へと継続事業 ・記念誌内容について業者（ヤマプラ）と毎月委員会を開催し、進捗状況の確認、内容の精査、資料の扱いについて検討 ・病院全体の事業として病院全体への周知、協力依頼など		
課 題	・全体経費の見直し、および内容の精査 ・タイムスケジュールにあった作業進捗状況の確認		



2017 年（平成 29 年）度 年報
公益財団法人 近江兄弟社

ヴォーリズ 記念 病院
訪問看護ステーション ヴォーリズ
ホームヘルプステーション ヴォーリズ
ヴォーリズ 居宅介護支援事業所
看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリズ」

発行 平成 30 年 9 月
発行者 公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
管理者 三ッ浪 健一
院長 周 防 正史

〒523-8523 滋賀県近江八幡市北之庄町 492
TEL (0748) 32-5211(代)
FAX (0748) 32-2152
URL <http://www.vories.or.jp>